

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

基礎資料（薬学教育評価用）

(2021年5月1日現在)

就実大学 薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0sを実施する科目	3	2
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間ににおける6年制学科の学年別学籍異動状況 3-3 評価実施年度の直近5年間ににおける学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向	3	3 4
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	3 8
基礎資料 5	教員・職員の数	5	3 9
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	4 0
基礎資料 7	教員の教育担当状況(担当する授業科目と担当時間)	5	4 1
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	5 0
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	5 1
基礎資料10	学生の健康管理	6	1 3 7
基礎資料11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	1 3 8
基礎資料12	学生閲覧室等の規模	7	1 4 0
基礎資料13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	1 4 1

(基礎資料1)カリキュラム・ツリー

人材養成目的		生命の尊厳を基盤とした強い使命感と高い倫理観のもとに、人々の健康を守る最良の医療薬学教育・研究を行い、医療・福祉に貢献できる高度な専門性と豊かな人間性を兼ね備えた薬剤師を育成する								
ディプロマ・ポリシー		(1) 豊かな人間性と教養、倫理観を有し、医療の担い手として薬剤師の義務と法令を遵守できる (2) 患者・生活者の立場や見解を理解し尊重して、適切な行動・態度をとることができる (3) 薬の専門家として、医療情報を収集し、提供するためのコミュニケーションができる (4) チーム医療に積極的に参画し、協働して最適かつ最新の薬物治療を実践し提案できる	(5) 探求心、創造力、判断力と問題発見・解決能力を有し、医療薬学の進歩に貢献できる (6) 生涯にわたり自己研鑽に努め、医療の高度化や多様性、社会環境の変化に対応できる (7) 薬剤師の職能を理解し、新たな職能の発見や開拓、次世代の人材育成に貢献できる	(8) 薬剤師に必要な科学の基本的知識・技能・態度に加え、その専門性を磨くことができる	(9) 地域の保健・医療に参画・連携して、人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できる	(10) 薬物療法において、安全かつ有効な医薬品の使用を推進する薬剤師業務を実践できる	(6) 生涯にわたり自己研鑽に努め、医療の高度化や多様性、社会環境の変化に対応できる			
科目群		薬学総合科目群		薬学専門基礎科目群			衛生薬学科目群	薬学臨床科目群		アドバンス科目群
		医療人教育	薬科学教育	物理系	化学系	生物系		医療系	臨床系	
配当年次	六 年 次	卒業特別ゼミナール	卒業特別研究 卒業特別講義							
	五 年 次	病院・薬局実務実習	卒業特別研究							専門薬剤師概論Ⅱ 専門薬剤師概論Ⅰ レギュラトリーサイエンス フィジカルアセスメント バイオ医薬品開発論 漢方薬学Ⅱ
	四 年 次	実務実習事前学習	卒業特別研究	基礎薬学総合演習 (物理系)	基礎薬学総合演習 (化学系)	基礎薬学総合演習 (生物系)	衛生薬学演習 環境衛生学	薬剤学演習 製剤機能論 薬物治療学演習 製剤学 薬物治療学Ⅱ 薬理学演習	臨床薬学総合演習 処方解析学Ⅱ 新薬開発論 処方解析学Ⅰ 医療薬学演習 薬剤師職能論 薬事関係法規	臨床動態学 臨床疫学 漢方薬学Ⅰ 免疫薬理学 環境遺伝学 感染症予防学 香粧品科学 未病薬学
	三 年 次	臨床コミュニケーション演習	医療薬学英語	物理系薬学演習	化学系薬学演習 医薬品化学	生物系薬学演習 臨床微生物学 遺伝子工学 生命薬学実習Ⅱ(微生物・遺伝子)	環境毒性学 食品衛生学演習 生命薬学実習Ⅱ(衛生)	薬物代謝学 薬物治療学Ⅰ 薬理学Ⅲ 病態生理学Ⅱ 医療薬学実習 薬物動態学 物理薬剤学 薬理学Ⅱ 病態生理学Ⅰ	調剤学 医薬品情報学 薬局管理学演習 医療統計学	ゲノム科学 生体防御科学 生体機能調節学 細胞工学 薬学海外研修 病態生化学 創薬化学 医療放射化学 看護学概論
	二 年 次	薬学対話演習	基礎薬学英語	機器分析化学 熱力学と物理平衡 臨床分析技術 溶液の性質と化学反応速度論 基礎薬学実習(物理系)	有機薬化学Ⅲ 生薬学 有機薬化学Ⅱ 基礎薬学実習(化学系)	微生物薬品化学 生体情報化学 生命薬学実習Ⅰ 分子生物学 免疫学 生化学Ⅱ	衛生化学 公衆衛生学	生物薬剤学 薬理学Ⅰ 人体構成学Ⅱ 人体構成学Ⅰ		臨床心理学
	一 年 次	サイエンスコミュニケーション 医療倫理学 初年次ゼミナール 薬学への招待	基礎数学演習 基礎物理学演習 基礎化学演習 基礎生物学演習	医薬品分析化学 化学物質の構造と性質	天然物化学 有機薬化学Ⅰ 無機化学	生化学Ⅰ				
卒業要件186単位以上										
カリキュラム・ポリシー		30単位必修	26単位必修	12単位必修 ^{a,c}	12単位必修 ^{a,c}	18単位必修 ^{b,c}	10単位必修 ^b	32単位必修	18単位必修	8単位必修
		(1) 医療人としての豊かな人間性、主体性、思考力・表現力を身につける幅広い総合教育 (2) 医療の目的を理解して、協働性と患者への思いやりを持った医療人としての倫理教育 (3) 優れたコミュニケーション能力及び問題発見・判断・解決能力を養成するためのPBL教育 (4) 専門教育で培った知識・技能・態度を応用し、実践能力を身につけるための実務実習教育	(5) 専門教育をより広く深く理解して自己研鑽していくための基礎力となる薬学準備教育 (6) 薬剤師に必要な研究マインドや問題発見・解決能力を醸成するための薬学卒業研究教育	(7) 薬学を科学の一分野として理解し、医療・臨床薬学専門教育へとつながる薬学基礎教育			(8) 健康と疾病に関わる栄養や環境要因を理解して、疾病を予防するための衛生薬学教育	(9) 人体の構造や機能、疾患の病態生理、薬理作用、薬物治療を理解するための医療薬学教育 (10) 医薬品の動態や生体内代謝機序を理解し、最適な薬剤設計を考えるための応用薬学教育	(11) 医薬品情報、病態と薬物療法を理解し、医薬品を適正に使用するための臨床薬学教育	(12) 最新の先端医療と科学の進歩を学び、キャリア形成につなげるためのアドバンス教育
アドミッション・ポリシー		1) 医療人として人々の健康と福祉に貢献したいという強い意志 2) 目標を掲げ、主体的に学ぶとする学習意欲と高い向学心 3) 探求心と洞察力をもち、新しい課題に柔軟に取り組む意欲 4) 薬学専門科目の学習に必要な理科、数学等の基礎的な学力 5) 高校レベルの論理的思考力やそれに基づく判断力・行動力 6) 基礎的コミュニケーション能力と相手を理解し対応する力								

^a基礎薬学実習は物理系・化学系合わせて1単位 ^b生命薬学実習Ⅱは微生物遺伝子・衛生合わせて1単位 ^c基礎薬学総合演習は物理・化学・生物系合わせて1単位(いずれも科目群の必要単位数に含めて)

(基礎資料 2) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選)をつける)実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
A. 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	薬学への招待 初年次ゼミナール 医療倫理学			実務実習事前学習	病院・薬局実務実習	
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	薬学への招待 初年次ゼミナール 医療倫理学			実務実習事前学習	病院・薬局実務実習	
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	薬学への招待 初年次ゼミナール 医療倫理学			実務実習事前学習	病院・薬局実務実習	
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学への招待 初年次ゼミナール 医療倫理学			実務実習事前学習	病院・薬局実務実習	
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	医療倫理学					
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。 (知識・態度)	医療倫理学					
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。 (知識・態度)	医療倫理学					
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)				薬局管理学演習	薬剤師職能論	
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。				薬局管理学演習	薬剤師職能論	
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。				薬局管理学演習 医薬品情報学	薬剤師職能論	
4) 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。				薬局管理学演習	薬剤師職能論	
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	薬学への招待 薬学への招待 初年次ゼミナール			薬局管理学演習	薬剤師職能論	
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	初年次ゼミナール			薬局管理学演習	薬剤師職能論	
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。 (知識・態度)	薬学への招待				薬剤師職能論	
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)				薬局管理学演習	薬剤師職能論	
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。				薬局管理学演習	薬剤師職能論	
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。				薬局管理学演習	新薬開発論	
4) 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。					新薬開発論 臨床薬学総合演習	
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)					新薬開発論	
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	薬学対話演習			薬局管理学演習	新薬開発論	
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。 (知識・態度)	薬学対話演習			薬局管理学演習	新薬開発論	
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学への招待					
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学への招待					
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学への招待					
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	薬学への招待					
【(2) 薬剤師に求められる倫理観】						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	医療倫理学					
2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	医療倫理学					
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	医療倫理学					
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	医療倫理学					
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	医療倫理学					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）					該 当 科 目					
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2）薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。						薬学対話演習		薬事関係法規		
3）医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。						医療倫理学				
【③患者の権利】										
1）患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）						薬学対話演習				
2）患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。						薬学対話演習				
3）患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。						薬学対話演習		新薬開発論		
4）知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 （知識・技能・態度）						薬学対話演習				
【④研究倫理】										
1）臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。						医療倫理学		新薬開発論		
2）「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。						医療倫理学		新薬開発論		
3）正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）									卒業特別研究	
【③信頼関係の構築】										
【①コミュニケーション】										
1）意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。					初年次ゼミナール サイエンスコミュニケーション		臨床コミュニケーション演習			
2）言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。					初年次ゼミナール サイエンスコミュニケーション		臨床コミュニケーション演習			
3）相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。					初年次ゼミナール サイエンスコミュニケーション		臨床コミュニケーション演習			
4）対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。					初年次ゼミナール サイエンスコミュニケーション		臨床コミュニケーション演習			
5）相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度）					初年次ゼミナール サイエンスコミュニケーション		臨床コミュニケーション演習			
6）自分の心理状態を認識して、他者と接することができる。（態度）					初年次ゼミナール サイエンスコミュニケーション		臨床コミュニケーション演習			
7）適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度）					初年次ゼミナール サイエンスコミュニケーション		臨床コミュニケーション演習			
8）適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度）					初年次ゼミナール サイエンスコミュニケーション		臨床コミュニケーション演習			
9）他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度）					初年次ゼミナール サイエンスコミュニケーション		臨床コミュニケーション演習 医療薬学実習			
【②患者・生活者と薬剤師】										
1）患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。							臨床コミュニケーション演習			
2）患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。（態度）							臨床コミュニケーション演習			
【④多職種連携協働とチーム医療】								薬剤師職能論 臨床薬学総合演習		
1）保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。								薬剤師職能論		
2）多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。								臨床薬学総合演習		
3）チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。								薬剤師職能論		
4）自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。（態度）					薬学への招待 サイエンスコミュニケーション			臨床薬学総合演習		
5）チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。（知識・態度）					薬学への招待 サイエンスコミュニケーション			臨床薬学総合演習		
【⑤自己研鑽と次世代を担う人材の育成】								臨床薬学総合演習		
【①学習の在り方】										
1）医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。（態度）					薬学への招待 医療倫理学 サイエンスコミュニケーション		臨床コミュニケーション演習	実務実習事前学習 臨床薬学総合演習	病院・薬局実務実習	卒業特別ゼミナール
2）講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。 （技能）					初年次ゼミナール サイエンスコミュニケーション		臨床コミュニケーション演習	実務実習事前学習 臨床薬学総合演習	病院・薬局実務実習	卒業特別ゼミナール

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）						設 当 科 目											
						1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年						
3）必要な情報を的確に収集し、信頼性について判断できる。（知識・技能） 4）得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。（技能） 5）インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度）								臨床コミュニケーション演習	実務実習事前学習臨 床薬学総合演習	病院・薬局実務実習	卒業特別ゼミナール						
						サイエンスコミュニ ケーション		臨床コミュニケーション演習	実務実習事前学習臨 床薬学総合演習	病院・薬局実務実習	卒業特別ゼミナール						
								医薬品情報学	実務実習事前学習臨 床薬学総合演習	病院・薬局実務実習	卒業特別ゼミナール						
						【②薬学教育の概要】											
						1）「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。 2）薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。（知識・態度）						薬学への招待 初年次ゼミナール		薬局管理学演習 薬局管理学演習	薬剤師職能論 臨床薬学総合演習		
【③生涯学習】 1）生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 2）生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。（技能）										薬師職能論	病院・薬局実務実習						
						薬学への招待 サイエンスコミュニ ケーション											
						サイエンスコミュニ ケーション						病院・薬局実務実習					
						【④次世代を担う人材の育成】											
						1）薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。 （態度） 2）後輩等への適切な指導を実践する。（技能・態度）											卒業特別研究 卒業特別研究
B 薬学と社会																	
(1) 人と社会に関わる薬剤師																	
							薬学対話演習										
						薬学対話演習											
						薬学対話演習											
						薬学対話演習											
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規制																	
【①薬剤師の社会的地位づけと責任に係る法規制】																	
										薬事関係法規							
										薬事関係法規							
										薬事関係法規							
										薬事関係法規							
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規制】																	
										新薬開発論							
										新薬開発論							
										新薬開発論							
										新薬開発論							
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規制】																	
										薬事関係法規							
										新薬開発論							
										新薬開発論							
										新薬開発論							
【④医療、福祉、介護の制度】																	
										薬事関係法規							
										薬事関係法規							
										薬事関係法規							
										薬事関係法規							

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					該 当 科 目					
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
5) 介護保険制度について概説できる。								薬事関係法規		
6) 薬価基準制度について概説できる。								薬事関係法規		
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。								薬事関係法規		
【②医薬品と医療の経済性】										
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。								薬剤師職能論 薬事関係法規		
2) 国民医療費の動向について概説できる。								薬事関係法規		
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。								薬事関係法規		
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。								薬事関係法規		
【④地域における薬局と薬剤師】										
【①地域における薬局の役割】					初年次ゼミナール		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習		
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。							薬局管理学演習			
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。							薬局管理学演習			
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。							薬局管理学演習	臨床薬学総合演習		
4) 地域ファーマーケーションにおける薬局の役割について説明できる。							薬局管理学演習	臨床薬学総合演習		
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。							薬局管理学演習	臨床薬学総合演習		
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。							薬局管理学演習			
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】										
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。							薬局管理学演習	薬剤師職能論 臨床薬学総合演習		
2) 在宅医療及び在宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。							薬局管理学演習	薬事関係法規		
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。							薬局管理学演習	臨床薬学総合演習		
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。							薬局管理学演習	臨床薬学総合演習		
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。 (知識・態度)							薬局管理学演習	臨床薬学総合演習		
C 薬学基礎										
C1 物質の物理的性質										
(1) 物質の構造										
【①化学結合】										
1) 化学結合の様式について説明できる。					基礎化学演習 化学物質の構造と性質					
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。					基礎化学演習 化学物質の構造と性質					
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。					基礎化学演習 化学物質の構造と性質					
【②分子間相互作用】										
1) ファンデルワールス力について説明できる。					化学物質の構造と性質					
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。					化学物質の構造と性質					
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。					化学物質の構造と性質					
4) 分散力について例を挙げて説明できる。					化学物質の構造と性質					
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。					化学物質の構造と性質					
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。					化学物質の構造と性質					
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。					化学物質の構造と性質					
【③原子・分子の挙動】										
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。					機器分析化学					
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。					機器分析化学					
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。					機器分析化学					
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。					機器分析化学					
5) 光の散乱および干渉について説明できる。					機器分析化学					
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。					機器分析化学					
【④放射線と放射能】										

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						該 当 科 目					
						1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 原子の構造と放射線衰変について説明できる。						化学物質の構造と性質	医療放射化学				
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。						化学物質の構造と性質	医療放射化学				
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						化学物質の構造と性質	医療放射化学				
4) 核反応および放射平衡について説明できる。						化学物質の構造と性質	医療放射化学				
5) 放射線測定の方法と利用について概説できる。						化学物質の構造と性質	医療放射化学 生命科学実習Ⅰ				
(2) 物質のエネルギーと平衡											
【①気体の微視的状態と巨視的状態】											
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。							熱力学と物理平衡				
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。							熱力学と物理平衡				
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。							熱力学と物理平衡				
【②エネルギー】											
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。							熱力学と物理平衡				
2) 熱力学第一法則を説明できる。							熱力学と物理平衡				
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。							熱力学と物理平衡				
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。							熱力学と物理平衡				
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。							熱力学と物理平衡				
6) エンタルピーについて説明できる。							熱力学と物理平衡				
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。							熱力学と物理平衡				
【③自発的な変化】											
1) エントロピーについて説明できる。							熱力学と物理平衡				
2) 熱力学第二法則について説明できる。							熱力学と物理平衡				
3) 熱力学第三法則について説明できる。							熱力学と物理平衡				
4) ギブズエネルギーについて説明できる。							熱力学と物理平衡				
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。							熱力学と物理平衡				
【④化学平衡の原理】											
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。							熱力学と物理平衡				
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。							熱力学と物理平衡				
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。							熱力学と物理平衡				
4) 共役反応の原理について説明できる。							熱力学と物理平衡				
【⑤相平衡】											
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。							溶液の性質と化学反応 応速度論				
2) 相平衡と相律について説明できる。							溶液の性質と化学反応 応速度論				
3) 状態図について説明できる。							溶液の性質と化学反応 応速度論				
【⑥溶液の性質】											
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。							溶液の性質と化学反応 応速度論				
2) 活量と活量係数について説明できる。							溶液の性質と化学反応 応速度論				
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。							溶液の性質と化学反応 応速度論				
4) イオン強度について説明できる。							溶液の性質と化学反応 応速度論				
【⑦電気化学】											
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。							熱力学と物理平衡				
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。							熱力学と物理平衡				
(3) 物質の変化											
【⑧反応速度】											
1) 反応次数と速度定数について説明できる。							溶液の性質と化学反応 応速度論 基礎薬学実習				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)							溶液の性質と化学反応 応速度論				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。							溶液の性質と化学反応 応速度論				
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)							溶液の性質と化学反応 応速度論 基礎薬学実習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）					該 当 科 目					
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
5）代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。						溶液の性質と化学反 応速度論				
6）反応速度と温度との関係を説明できる。						溶液の性質と化学反 応速度論				
7）代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応など）について説明できる。						溶液の性質と化学反 応速度論				
C2 化学物質の分析										
(1) 分析の基礎										
【①分析の基本】										
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。（知識・技能）					医薬品分析化学	基礎薬学実習				
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。（知識・技能）					医薬品分析化学	基礎薬学実習				
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。					医薬品分析化学					
(2) 溶液中の化学平衡										
【①酸・塩基平衡】										
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。					医薬品分析化学					
2) pH および解離定数について説明できる。（知識・技能）					医薬品分析化学	基礎薬学実習				
3) 溶液の pH を測定できる。（技能）					医薬品分析化学	基礎薬学実習				
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。					医薬品分析化学					
【②各種の化学平衡】										
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。					医薬品分析化学					
2) 沈殿平衡について説明できる。					医薬品分析化学					
3) 酸化還元平衡について説明できる。					医薬品分析化学					
4) 分配平衡について説明できる。					医薬品分析化学					
(3) 化学物質の定性分析・定量分析										
【①定性分析】										
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。					無機化学 医薬品分析化学					
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。					医薬品分析化学		医薬品化学 医療薬学実習			
【②定量分析（容量分析・重量分析）】										
1) 中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。					医薬品分析化学					
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。					医薬品分析化学					
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。					医薬品分析化学					
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。					医薬品分析化学					
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（知識・技能）					医薬品分析化学	基礎薬学実習				
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。					医薬品分析化学					
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。					医薬品分析化学					
(4) 機器を用いる分析法										
【①分光分析法】										
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。						生命薬学実習Ⅰ 機器分析化学				
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。						機器分析化学				
3) 赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。						機器分析化学				
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および 応用例を説明できる。						機器分析化学				
5) 旋光度測定法（旋光分散）の原理および応用例を説明できる。						機器分析化学				
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。（技能）						機器分析化学 基礎薬学実習				
【②核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法】										
1) 核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。						機器分析化学				
【③質量分析法】										
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。						機器分析化学				
【④X線分析法】										
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。						機器分析化学				
2) 粉末 X 線回折測定法の原理と利用法について概説できる。						機器分析化学				
【⑤熱分析】										
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。						機器分析化学				
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。						機器分析化学				
(5) 分離分析法										
【①クロマトグラフィー】										
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。										
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。										
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。										
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。										

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					該 当 科 目					
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)						臨床分析技術 基礎薬学実習 生命薬学実習Ⅰ				
【②電気泳動法】										
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。						臨床分析技術 生命薬学実習Ⅰ				
(6) 臨床現場で用いる分析技術										
【①分析の準備】										
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。						臨床分析技術				
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						臨床分析技術				
【②分析技術】										
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。						臨床分析技術				
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。						臨床分析技術 生命薬学実習Ⅰ				
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。						臨床分析技術				
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。						臨床分析技術 生命薬学実習Ⅰ				
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。						臨床分析技術				
C3 化学物質の性質と反応										
(1) 化学物質の基本的性質										
【①基本事項】										
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。					有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅱ 有機薬化学Ⅲ	化学系薬学演習			
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。					有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅱ 有機薬化学Ⅲ	化学系薬学演習			
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。					有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅱ 有機薬化学Ⅲ				
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。					有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅱ 有機薬化学Ⅲ				
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。					有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅱ 有機薬化学Ⅲ				
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。					有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅱ				
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。					有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅱ 有機薬化学Ⅲ				
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。					有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅱ 有機薬化学Ⅲ				
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)					有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅱ 有機薬化学Ⅲ 基礎薬学実習				
【②有機化合物の立体構造】										
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。					基礎化学演習					
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。					基礎化学演習					
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。					基礎化学演習					
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。					基礎生物学演習					
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)					基礎化学演習					
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans) ならびに E, Z 異性) について説明できる。					基礎化学演習					
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)					基礎化学演習					
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。					基礎化学演習					
【②有機化合物の基本骨格の構造と反応】										
【①アルカン】										
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。					基礎化学演習					
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)					有機薬化学Ⅰ 基礎化学Ⅰ					
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。					基礎化学演習					
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)					有機薬化学Ⅰ 基礎化学Ⅰ					
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。					基礎化学演習					
【②アルケン・アルキン】										
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。					有機薬化学Ⅰ		化学系薬学演習			
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。					有機薬化学Ⅰ		化学系薬学演習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					該 当 科 目					
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。					有機薬化学Ⅰ		化学系薬学演習			
【③芳香族化合物】										
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。						有機薬化学Ⅱ				
2) 芳香族性の概念を説明できる。						有機薬化学Ⅱ				
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						有機薬化学Ⅱ				
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。						有機薬化学Ⅱ				
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。						有機薬化学Ⅱ				
(3) 官能基の性質と反応										
【①概説】										
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。						有機薬化学Ⅲ				
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)						基礎薬学実習				
【②有機ハロゲン化合物】										
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。					有機薬化学Ⅰ					
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。					有機薬化学Ⅰ		化学系薬学演習			
3) 脱離反応の特徴について説明できる。					有機薬化学Ⅰ		化学系薬学演習			
【③アルコール・フェノール・エーテル】										
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						有機薬化学Ⅲ				
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						有機薬化学Ⅲ	化学系薬学演習			
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】										
1) アルデヒドおよびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						有機薬化学Ⅱ				
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。						有機薬化学Ⅲ				
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化合物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。						有機薬化学Ⅲ				
【⑤アミン】										
1) アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。						有機薬化学Ⅲ	化学系薬学演習			
【⑥電子効果】										
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。						有機薬化学Ⅱ				
【⑦酸性度・塩基性度】										
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。						有機薬化学Ⅲ				
2) 含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。						有機薬化学Ⅲ				
(4) 化学物質の構造決定										
【①核磁気共鳴 (NMR)】										
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。						機器分析化学				
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。						機器分析化学				
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。						機器分析化学				
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。						機器分析化学				
5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)						基礎薬学実習				
【②赤外吸収 (IR)】						機器分析化学				
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。						基礎薬学実習				
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)						機器分析化学				
【③質量分析】										
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。						機器分析化学				
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)						基礎薬学実習				
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。						機器分析化学				
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)						基礎薬学実習				
【④総合演習】						機器分析化学				
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)						基礎薬学実習				
【⑤無機化合物・錯体の構造と性質						機器分析化学				
【①無機化合物・錯体】										
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。					無機化学					
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。					無機化学					
3) 活性酸素と遷移酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。					無機化学					
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。					無機化学					
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。					無機化学					
C4 生体分子・医薬品の化学による理解										
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質										

	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【①医薬品の構造的な生体高分子の化学構造】						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子 (アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど) の構造に基づき化学的性質を説明できる。	生化学 I					
2) 医薬品の構造的な生体高分子 (タンパク質、核酸など) の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。	生化学 I					
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内 (核内) 受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。	生化学 I	生体情報化学				
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。	生化学 I					
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。	生化学 I					
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。	生化学 I	生化学 II				
【③生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
1) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の構造と化学的性質を説明できる。		生体情報化学				
2) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の生体内での機能を化学的に説明できる。		生体情報化学				
【④酵素阻害剤と作用機構】						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生化学 I					
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生化学 I					
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生化学 I					
【⑤受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
1) 代表的な受容体のアゴニスト (作用薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		生体情報化学				
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。		生体情報化学				
【⑥生体内で起こる有機反応】						
1) 代表的な生体分子 (脂肪酸、コレステロールなど) の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。	生化学 I					
2) 異物代謝の反応 (発がん性物質の代謝的活性化など) を有機化学の観点から説明できる。	生化学 I					
【⑦医薬品の化学構造と性質、作用】						
【⑧医薬品と生体分子の相互作用】						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点 (結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など) から説明できる。			医薬品化学			
【⑨医薬品の化学構造に基づく性質】						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質 (酸性、塩基性、親水性、疎水性など) を説明できる。			医薬品化学			
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			医薬品化学			
【⑩医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。			医薬品化学			
2) バイオアイソスター (生物学的等価体) について、代表的な例を挙げて概説できる。			医薬品化学			
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			医薬品化学			
【⑪酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1) スクレオジドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学			
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学			
3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学			
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学			
5) β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学			
6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学			
【⑫受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学			
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学			
3) ストロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学			
4) ペンジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学			
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学			
【⑬DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品 (アルキル化剤、シスプラチン類) を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			医薬品化学			
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			医薬品化学			
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			医薬品化学			
【⑭イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）					該 当 科 目					
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1）イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。							医薬品化学			
C5 自然が生み出す薬物										
（1）薬になる動植物										
【①薬用植物】										
1）代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。						生薬学				
2）代表的な薬用植物を外形形態から説明し、区別できる。（知識、技能）						生薬学	基礎薬学実習			
3）植物の主な内部形態について説明できる。						生薬学				
4）法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。						生薬学				
【②生薬の基原】										
1）日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。						生薬学				
【③生薬の用途】										
1）日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、蕈類由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。							化学系薬学演習			
2）副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。							化学系薬学演習			
【④生薬の同定と品質評価】										
1）生薬の同定と品質評価法について概説できる。					生薬学	生薬学	化学系薬学演習			
2）日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。					生薬学	基礎薬学実習	化学系薬学演習			
3）代表的な生薬を鑑別できる。（技能）										
4）代表的な生薬の確認試験を説明できる。						基礎薬学実習				
5）代表的な生薬の純度試験を説明できる。						基礎薬学実習				
【⑤薬の宝庫としての天然物										
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】										
1）生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。					天然物化学					
2）脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					天然物化学					
3）芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					天然物化学					
4）テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					天然物化学					
5）アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					天然物化学					
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】										
1）微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。					天然物化学					
2）微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。					天然物化学					
【③天然生物活性物質の取扱い】										
1）天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。（知識、技能）					天然物化学	基礎薬学実習				
【④天然生物活性物質の利用】										
1）医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。					天然物化学					
2）天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。					天然物化学					
3）農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。					天然物化学					
C6 生命現象の基礎										
（1）細胞の構造と機能										
【①細胞膜】										
1）細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。					基礎生物学演習	生体情報化学				
2）エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。					基礎生物学演習	生体情報化学				
【②細胞小器官】										
1）細胞小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）やリボソームの構造と機能を説明できる。					基礎生物学演習	生体情報化学				
【③細胞骨格】										
1）細胞骨格の構造と機能を説明できる。					基礎生物学演習	生体情報化学				
（2）生命現象を担う分子										
【①脂質】										
1）代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。					基礎生物学演習	生化学Ⅱ				
【②糖質】										
1）代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。					基礎生物学演習	生化学Ⅱ				
2）代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。					基礎生物学演習	生化学Ⅱ				
【③アミノ酸】										
1）アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。					生化学Ⅰ					
【④タンパク質】										
1）タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。					生化学Ⅰ					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
		該 当 科 目					
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
	【⑤ヌクレオチドと核酸】						
	1) スクレオチドと核酸 (DNA、RNA) の種類、構造、性質を説明できる。						
	【⑥ビタミン】						
	1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。						
	【⑦微量元素】						
	1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。						
	【⑧生体分子の定性・定量】						
	1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。						
	【⑨生命活動を担うタンパク質】						
	1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。						
	【⑩タンパク質の構造と機能】						
	1) 多彩な機能をもつタンパク質 (酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質) を列挙し概説できる。						
	【⑪タンパク質の成熟と分解】						
	1) タンパク質の翻訳後の成熟過程 (細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾) について説明できる。						
	2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。						
	【⑫酵素】						
	1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。						
	2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
	3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
	4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)						
	【⑬酵素以外のタンパク質】						
	1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。						
	2) 血漿リボタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。						
	【⑭生命情報を担う遺伝子】						
	【⑮遺伝情報】						
	1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。						
	2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。						
	【⑯遺伝情報を担う分子】						
	1) 染色体の構造 (ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。						
	2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。						
	3) RNA の種類 (mRNA、rRNA、tRNA など) と機能について説明できる。						
	【⑰遺伝子の複製】						
	1) DNA の複製の過程について説明できる。						
	【⑱転写・翻訳の過程と調節】						
	1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。						
	2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。						
	3) 転写因子による転写制御について説明できる。						
	4) RNA のプロセシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。						
	5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。						
	【⑲遺伝子の変異・修復】						
	1) DNA の変異と修復について説明できる。						
	【⑳組換え DNA】						
	1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。						
	2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。						
	【㉑生体エネルギーと生命活動を支える代謝系】						
	【㉒糖論】						
	1) エネルギー代謝の概要を説明できる。						
	【㉓ATP の産生と消費代謝】						
	1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。						
	2) クエン酸回路 (TCA サイクル) について説明できる。						
	3) 電子伝達系 (酸化リン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。						
	4) グリコーゲンの代謝について説明できる。						
	5) 糖新生について説明できる。						
	【㉔脂質代謝】						
	1) 脂防酸の合成とβ酸化について説明できる。						
	2) コレスステロールの合成と代謝について説明できる。						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該 当 科 目					
1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【④細胞状態と細胞機能】					
1) 創傷状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。	生化学Ⅱ				
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	生化学Ⅱ				
【⑤その他の代謝系】					
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝（尿素回路など）について説明できる。	生化学Ⅱ				
2) スクレオオサットの合成と分解について説明できる。	分子生物学				
3) ペントースリン酸回路について説明できる。	生化学Ⅰ				
【⑥細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達】					
【① 概論】					
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	生体情報化学				
【②細胞内情報伝達】					
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	生体情報化学				
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。	生体情報化学				
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。	生体情報化学				
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。	生体情報化学				
5) 細胞内（核内）受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	生体情報化学				
【③細胞間コミュニケーション】					
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生体情報化学				
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	生体情報化学				
【⑦ 細胞の分裂と死】					
【①細胞分裂】					
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	分子生物学				
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	分子生物学				
【②細胞死】					
1) 細胞死（アポトーシスとネクロシス）について説明できる。	分子生物学	病理生理学Ⅰ			
【③がん細胞】					
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	分子生物学	病理生理学Ⅰ			
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。	分子生物学				
67 人体の成り立ちと生体機能の調節					
【1 人体の成り立ち】					
【①遺伝】					
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。		遺伝子工学			
2) 遺伝子多型について概説できる。		遺伝子工学			
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。		遺伝子工学			
【②発生】					
1) 個体発生について概説できる。		病理生理学Ⅱ			
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	分子生物学	病理生理学Ⅰ			
【③器官系概論】					
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	人体構成学Ⅰ	医療薬学実習			
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	人体構成学Ⅰ	医療薬学実習			
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。		医療薬学実習			
4) 代表的な臓器の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。（技能）		医療薬学実習			
【④神経系】					
1) 中枢神経系について概説できる。	人体構成学Ⅰ				
2) 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。	人体構成学Ⅰ				
【⑤骨格系・筋肉系】					
1) 骨、筋肉について概説できる。	人体構成学Ⅰ				
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	人体構成学Ⅰ				
【⑥皮膚】					
1) 皮膚について概説できる。	人体構成学Ⅰ				
【⑦循環器系】					
1) 心臓について概説できる。	人体構成学Ⅰ				
2) 血管系について概説できる。	人体構成学Ⅰ				
3) リンパ管系について概説できる。	人体構成学Ⅰ				
【⑧呼吸器系】					
1) 肺、気管支について概説できる。	人体構成学Ⅰ				
【⑨消化器系】					
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	人体構成学Ⅱ				
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	人体構成学Ⅱ				
【⑩泌尿器系】					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）					該 当 科 目					
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 泌尿器系について概説できる。						人体構成学Ⅰ				
【⑩生殖系系】										
1) 生殖系系について概説できる。						人体構成学Ⅱ				
【⑪内分泌系】										
1) 内分泌系について概説できる。						人体構成学Ⅱ				
【⑫感覚器系】										
1) 感覚器系について概説できる。						人体構成学Ⅰ				
【⑬血液・造血器系】										
1) 血液・造血器系について概説できる。						人体構成学Ⅰ	医療薬学実習			
(2) 生体機能の調節										
【⑭神経による調節機構】										
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。						人体構成学Ⅰ				
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						人体構成学Ⅰ				
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						人体構成学Ⅰ				
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。						人体構成学Ⅰ				
【⑮ホルモン・内分泌系による調節機構】										
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。						人体構成学Ⅱ				
【⑯オートサイトカイン・増殖因子による調節機構】										
1) 代表的なオートサイトカインを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						薬理学Ⅰ				
【⑰サイトカイン・増殖因子による調節機構】										
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						免疫学				
【⑱血圧の調節機構】										
1) 血圧の調節機構について概説できる。						人体構成学Ⅰ	病態生理学Ⅰ 医療薬学実習			
【⑲血糖の調節機構】										
1) 血糖の調節機構について概説できる。						人体構成学Ⅱ	病態生理学Ⅰ			
【⑳体液の調節】										
1) 体液の調節機構について概説できる。							病態生理学Ⅰ			
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。						人体構成学Ⅰ	病態生理学Ⅰ			
【㉑体温の調節】										
1) 体温の調節機構について概説できる。							病態生理学Ⅰ			
【㉒血液凝固・線溶系】										
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。						人体構成学Ⅰ	病態生理学Ⅰ			
【㉓性周期の調節】										
1) 性周期の調節機構について概説できる。						人体構成学Ⅱ	病態生理学Ⅱ			
08 生体防御と微生物										
(1) 身体をまもる										
【㉔生体防御反応】										
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。						免疫学				
2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。						免疫学				
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。						免疫学				
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。						免疫学				
【㉕免疫を担当する組織・細胞】										
1) 免疫に關与する組織を列挙し、その役割を説明できる。						免疫学				
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						免疫学	医療薬学実習			
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						免疫学				
【㉖分子レベルで見た免疫のしくみ】										
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。						免疫学				
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。						免疫学				
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。						免疫学				
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。						免疫学				
5) 免疫系に關わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。						免疫学				
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用										
【㉗免疫応答の制御と破綻】										
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。						免疫学				
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。						免疫学				
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。						免疫学				
4) 臓器移植と免疫反応の關わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。						免疫学				
5) 感染症と免疫応答との關わりについて説明できる。						免疫学				
6) 腫瘍排除に關与する免疫反応について説明できる。						免疫学				
【㉘免疫反応の利用】										

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					該 当 科 目					
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) ワクチンの原理と種類 (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど) について説明できる。						免疫学				
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。						免疫学				
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。						免疫学				
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法 (ELISA 法、ウエスタンブロット法など) を実施できる。(技能)						生命薬学実習 I				
(3) 微生物の基本										
【①総論】										
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。						微生物薬品化学				
【②細菌】										
1) 細菌の分類や性質 (系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など) を説明できる。						微生物薬品化学				
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。						微生物薬品化学				
3) 細菌の異化作用 (呼吸と発酵) および同化作用について説明できる。						微生物薬品化学				
4) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。						微生物薬品化学				
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。						微生物薬品化学				
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。						微生物薬品化学				
【③ウイルス】										
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。						微生物薬品化学				
【④真菌・原虫・蠕虫】										
1) 真菌の性状を概説できる。						微生物薬品化学				
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。						微生物薬品化学				
【⑤消毒と滅菌】										
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。						微生物薬品化学				
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。						微生物薬品化学				
【⑥検出方法】										
1) グラム染色を実施できる。(技能)							生命薬学実習 II			
2) 無菌操作を実施できる。(技能)							生命薬学実習 II			
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)							生命薬学実習 II			
(4) 病原体としての微生物										
【①感染の成立と共生】										
1) 感染の成立 (感染源、感染経路、侵入門戸など) と共生 (腸内細菌など) について説明できる。						微生物薬品化学				
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。						微生物薬品化学				
【②代表的な病原体】										
1) DNA ウイルス (ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど) について概説できる。							臨床微生物学			
2) RNA ウイルス (ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など) について概説できる。							臨床微生物学			
3) グラム陰性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌など) およびグラム陽性桿菌 (破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など) について概説できる。							臨床微生物学			
4) グラム陽性球菌 (淋菌、髄膜炎菌など) およびグラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など) について概説できる。							臨床微生物学			
5) グラム陰性らせん菌 (ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど) およびスピロヘータについて概説できる。							臨床微生物学			
6) 抗酸菌 (結核菌、らい菌など) について概説できる。							臨床微生物学			
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。							臨床微生物学			
8) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白黴菌など) について概説できる。							臨床微生物学			
9) 原虫 (マラリア原虫、トキソプラズマ、陰トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫 (回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど) について概説できる。							臨床微生物学			
D 衛生薬学										
D1 健康										
(1) 社会・集団と健康										
【①健康と疾病の概念】										
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。						公衆衛生学				
【②保健統計】										
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。						公衆衛生学				
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。						公衆衛生学				
3) 人口動態 (死因別死亡率など) の変遷について説明できる。						公衆衛生学				
【③疫学】										

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）				該 当 科 目					
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1）疾病の予防における疫学の役割を説明できる。					公衆衛生学				
2）疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。					公衆衛生学				
3）疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。					公衆衛生学	医薬品情報学			
4）リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）					公衆衛生学	医薬品情報学			
(2) 疾病の予防									
【①疾病の予防とは】									
1）疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。					公衆衛生学				
2）健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。					公衆衛生学				
【②感染症とその予防】									
1）現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。					公衆衛生学				
2）感染症における、感染症とその分類について説明できる。					公衆衛生学				
3）代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。					公衆衛生学				
4）予防接種の意義と方法について説明できる。					公衆衛生学				
【③生活習慣病とその予防】									
1）生活習慣病の種類とその動向について説明できる。					公衆衛生学				
2）生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。					公衆衛生学				
3）食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）					公衆衛生学	生命薬学実習Ⅱ			
【④母子保健】									
1）新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。					公衆衛生学				
2）母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。					公衆衛生学				
【⑤労働衛生】									
1）代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。					公衆衛生学				
2）労働衛生管理について説明できる。					公衆衛生学				
(3) 栄養と健康									
【①栄養】									
1）五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。					衛生化学				
2）各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。					衛生化学				
3）食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。					衛生化学				
4）五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。					衛生化学				
5）エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。					衛生化学				
6）日本人の食事摂取基準について説明できる。					衛生化学				
7）栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。					衛生化学				
8）疾病治療における栄養の重要性を説明できる。					衛生化学				
【②食品機能と食品衛生】									
1）炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。						食品衛生学演習			
2）油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）						食品衛生学演習Ⅱ			
3）食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。						食品衛生学演習			
4）食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						食品衛生学演習			
5）代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						食品衛生学演習			
6）特別用途食品と保健機能食品について説明できる。						食品衛生学演習			
7）食品衛生に関する法的規制について説明できる。						食品衛生学演習			
【③食中毒と食品汚染】									
1）代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。						食品衛生学演習			
2）食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						食品衛生学演習			
3）化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						食品衛生学演習			
D2 環境									
(1) 化学物質・放射線の生体への影響									
【①化学物質の毒性】									
1）代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。						環境毒性学			
2）肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。						環境毒性学			
3）重金属、POB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						環境毒性学			
4）重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						環境毒性学			
5）薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度）						生命薬学実習Ⅱ			
6）代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。						環境毒性学			
7）代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。						環境毒性学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②化学物質の安全性評価と適正使用】					
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。					
(態度)					
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。					
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒量 (NOAEL) などについて概説できる。					
4) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。					
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法、化管法など) を説明できる。					
【③化学物質による毒がん】					
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。					
2) 遺伝毒性試験 (Ames試験など) の原理を説明できる。					
3) 発がんに至る過程 (イニシエーション、プロモーションなど) について概説できる。					
【④放射線の生体への影響】					
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。					
2) 代表的な放射性核種 (天然、人工) と生体との相互作用を説明できる。					
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。					
4) 非電離放射線 (紫外線、赤外線など) を列挙し、生体への影響を説明できる。					
【⑤生活環境と健康】					
【①地球環境と生態系】					
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。					
2) 生態系の構成を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。					
3) 化学物質の環境内動態 (生物濃縮など) について例を挙げて説明できる。					
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。					
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)					
【②環境保全と法的規制】					
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。					
2) 環境基本法の理念を説明できる。					
3) 環境汚染 (大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など) を防止するための法規制について説明できる。					
【③水環境】					
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。					
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。					
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)					
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。					
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)					
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。					
【④大気環境】					
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。					
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)					
3) 大気汚染に影響する気象要因 (逆転層など) を概説できる。					
【⑤室内環境】					
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)					
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。					
【⑥医薬物】					
1) 医薬物の種類と処理方法を列挙できる。					
2) 医薬物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。					
3) マニフェスト制度について説明できる。					
E 医療薬学					
E1 薬の作用と体の変化					
(1) 薬の作用					
【①薬の作用】					
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。					
2) アゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) について説明できる。					
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。					
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。					
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(06(6)【②細胞内情報伝達】1.~5. 参照)					
6) 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）					
該 当 科 目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 薬物の選択（禁忌を含む）、用法、用量の変更が必要となる要因（年齢、疾病、妊娠等）について具体例を挙げて説明できる。	薬理学Ⅰ	薬理学Ⅲ			
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。 （E4（1）【②吸収】5. 【④代謝】5. 【⑤排泄】5. 参照）	薬理学Ⅰ	薬理学Ⅲ 調剤学			
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。	薬理学Ⅰ	薬理学Ⅲ			
【②動物実験】					
1) 動物実験における倫理について配慮できる。（態度）		医療薬学実習			
2) 実験動物を通正に取り扱うことができる。（技能）		医療薬学実習			
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。（技能）		医療薬学実習			
【③日本薬局方】					
(1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。			製剤学		
【①症状】					
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、腹痛・やせ、貧血、出血傾向、リンパ節腫大、浮腫、心性亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血尿・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、嚔痛、悪心・嘔吐、臍下困棘・腰痛、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰部部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害		病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ			
【②病態・臨床検査】					
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生理学Ⅱ			
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生理学Ⅱ			
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生理学Ⅱ			
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生理学Ⅱ			
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生理学Ⅱ			
6) 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生理学Ⅱ			
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		臨床微生物学			
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生理学Ⅰ			
【③薬物治療の位置づけ】					
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。		薬理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ		
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。 （知識・技能）			実務実習事前学習		
【④医薬品の安全性】					
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬理学Ⅲ			
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。		薬理学Ⅲ			
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害		薬理学Ⅲ			
4) 代表的障害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）		薬対話演習	薬理学Ⅲ		
E2 薬理・病態・薬物治療					
【①神経系の疾患と薬】					
【①自律神経系に作用する薬】					
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	薬理学Ⅰ				
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	薬理学Ⅰ				
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。（技能）	薬理学Ⅰ				
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。					
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】					
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		医療薬学実習			
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	薬理学Ⅱ				
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）	薬理学Ⅱ 医療薬学実習				
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barre（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）	薬理学Ⅱ				
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】					
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。	薬理学Ⅱ				
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。	医療薬学実習				

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
3) 中枢興奮薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅱ			
4) 統合失調症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅱ 病態生理学Ⅰ 薬理学Ⅱ			
5) うつ病、躁うつ病 (双極性障害) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態生理学Ⅰ 薬理学Ⅱ			
6) 不安神経症 (パニック障害と全般性不安障害) 、心身症、不眠症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態生理学Ⅰ 薬理学Ⅱ			
7) てんかんについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態生理学Ⅰ 薬理学Ⅱ			
8) 脳血管疾患 (脳内出血、脳梗塞 (脳血管、一過性脳虚血) 、くも膜下出血) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態生理学Ⅰ 薬理学Ⅱ			
9) Parkinson (パーキンソン) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態生理学Ⅰ 薬理学Ⅱ			
10) 認知症 (Alzheimer (アルツハイマー) 型認知症、脳血管性認知症等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態生理学Ⅰ 薬理学Ⅱ			
11) 片頭痛について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) について説明できる。			病態生理学Ⅰ 薬理学Ⅱ			
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。 (技能)			薬理学Ⅱ 医療薬学実習			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。 (態度)			医療薬学実習			
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎 (重複) 、多発性硬化症 (重複) 、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy (ナルコレプシー) 、薬物依存症、アルコール依存症	医療倫理学		病態生理学Ⅰ 薬理学Ⅱ			
【④化学構造と薬効】						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		薬理学Ⅰ				
【⑤免疫・致症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬】						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬 (ステロイド性および非ステロイド性) および解熱性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅲ	薬物治療Ⅱ		
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。			薬理学Ⅲ	薬物治療Ⅱ		
3) 創傷治癒の過程について説明できる。				薬物治療Ⅱ		
【②免疫・致症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギー・治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅲ	薬物治療Ⅱ 薬理学演習 薬理学Ⅲ		
2) 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅲ	薬物治療Ⅱ 薬理学演習		
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複)			病態生理学Ⅰ 薬理学Ⅲ	薬物治療Ⅱ 薬理学演習 処方解析Ⅱ		
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (スティーブンス-ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複) 、薬剤性過敏症候群、薬疹			薬理学Ⅲ	薬物治療Ⅱ		
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅰ	病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療Ⅱ 薬理学演習 処方解析Ⅱ		
6) 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 尋常性乾癬、水痘、光線過敏症、ペーチェット病				薬物治療Ⅱ		
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 ハセドウ病 (重複) 、橋本病 (重複) 、悪性貧血 (重複) 、アジソン病、1型糖尿病 (重複) 、重症筋無力症、多発性骨小髄減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血 (重複) 、シェーグレン症候群			病態生理学Ⅰ 薬理学Ⅲ	薬物治療Ⅱ 処方解析Ⅱ		
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性皮膚炎、関節リウマチ (重複)				薬物治療Ⅱ 薬理学演習 処方解析Ⅱ		
9) 臓器移植 (腎臓、肝臓、骨髄、脾臓、輸血) について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD) の病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			病態生理学Ⅰ 薬理学Ⅲ	薬物治療Ⅱ 処方解析Ⅱ		
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅲ	薬物治療Ⅱ 薬理学演習 処方解析Ⅱ		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該 当 科 目					
1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		病態生理学 I	薬物治療学 II 薬理学演習		
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学 II 薬理学演習		
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患 (副甲狀腺機能亢進 (低下) 症、骨軟化症 (くる病を含む))、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		病態生理学 I	薬物治療学 II 薬理学演習		
【④化学構造と薬物】					
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		薬理学 III	薬理学演習		
【③循環器系・血液系・造血系・泌尿器系・生殖系系の疾患と薬】					
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】					
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 不整脈の例示、上室性期外収縮 (PAC)、心室性期外収縮 (PVC)、心房細動 (Af)、発作性上室性頻拍 (PSVT)、WPW症候群、心室頻拍 (VT)、心室細動 (VF)、房室ブロック、QT延長症候群		病態生理学 II 薬理学 III	薬物治療学演習 処方解剖学 II		
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		病態生理学 II 薬理学 III	薬物治療学演習 処方解剖学 II		
3) 虚血性心疾患 (狭心症、心筋梗塞) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		病態生理学 II 薬理学 III	薬物治療学演習 処方解剖学 II		
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症 (腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)		病態生理学 II 薬理学 III	薬物治療学演習 処方解剖学 II		
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症 (ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患		薬理学 III	薬物治療学演習		
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)		医療薬学実習			
【②血液・造血系疾患の薬、病態、治療】					
1) 止血薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理学演習 薬物治療学演習		
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理学演習 薬物治療学演習		
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血 (悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血 (AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血		病態生理学 II	薬理学演習 薬物治療学演習 処方解剖学 II		
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学演習 薬物治療学演習		
5) 以下の疾患について治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病 (重複)、悪性リンパ腫 (重複)		病態生理学 II	薬理学演習 薬物治療学演習		
(E2 (7)) 【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照					
【③泌尿器系、生殖系疾患の薬、病態、治療】					
1) 利尿薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬理学 II	薬理学演習 病態生理学 II		
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学 II 薬物治療学 I	薬理学演習 病態生理学 I		
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		病態生理学 II 薬理学 II	薬理学演習 病態生理学 I		
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		病態生理学 II 薬理学 II	薬理学演習 病態生理学 I		
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 慢性腎臓病 (CKD)、糸球体腎炎 (重複)、糖尿病性腎症 (重複)、薬剤性腎臓病 (重複)、膀胱炎 (重複)、尿路感染症 (重複)、尿路結石		病態生理学 II 薬理学 II 薬物治療学 I	薬理学演習 薬物治療学 I		
6) 以下の生殖系疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜炎、子宮筋腫	薬理学 I	病態生理学 II 薬物治療学 I	薬理学演習 薬物治療学 I		
7) 妊婦・分娩・産後に関連して用いられる薬物について、薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	薬理学 I		薬理学演習 薬物治療学 II		
8) 以下の生殖系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症		病態生理学 II	薬物治療学 II		
【④化学構造と薬物】					
1) 循環系・泌尿器系・生殖系系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		病態生理学 II 薬理学 III	薬理学演習 薬物治療学 II		
【④呼吸器系・消化器系の疾患と薬】					
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						該 当 科 目					
						1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ 処方解析学Ⅰ 処方解析学Ⅱ		
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ 処方解析学Ⅰ		
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ	薬物治療学Ⅱ		
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。								薬理学Ⅲ	処方解析学Ⅰ		
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】											
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ 処方解析学Ⅱ		
2) 胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎								病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ 処方解析学Ⅱ		
3) 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ 処方解析学Ⅱ		
4) 肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ 処方解析学Ⅱ		
5) 胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ 処方解析学Ⅱ		
6) 機能性消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ 処方解析学Ⅱ		
7) 痔核・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ 処方解析学Ⅱ		
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ 処方解析学Ⅱ		
9) 痔について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ 薬理学Ⅲ	薬物治療学Ⅱ 処方解析学Ⅱ		
【③化学構造と薬効】											
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。								薬理学Ⅲ			
（5）代謝系・内分泌系の疾患と薬											
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】											
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ 薬理学Ⅲ		
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ 薬理学Ⅲ		
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅰ	薬理学Ⅲ		
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】											
1) 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。									薬物治療学Ⅱ 薬理学Ⅲ		
2) Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ	薬物治療学Ⅱ 薬理学Ⅲ		
3) 甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。								病態生理学Ⅱ	薬物治療学Ⅱ 薬理学Ⅲ		
4) 尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。											
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群（SIADH）、副甲狀腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内腺症（重複）、アジソン病（重複）								病態生理学Ⅱ	薬物治療学Ⅱ 薬理学Ⅲ		
【③化学構造と薬効】											
1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。								薬理学Ⅲ			
（6）感覚器・皮膚の疾患と薬											
【①眼疾患の薬、病態、治療】											
1) 緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。							薬理学Ⅰ	病態生理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			
2) 白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。							薬理学Ⅰ	病態生理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。							薬理学Ⅰ	病態生理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
	該 当 科 目				
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎 (重症)、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症			病態生理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ		6 年
【②耳鼻咽喉科疾患の薬、病態、治療】					
1) めまい (動揺病 Meniere (メニエール) 病等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学Ⅱ 病態生理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ		
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎 (重症)、花粉症 (重症)、副鼻腔炎 (重症)、中耳炎 (重症)、口内炎 ・咽頭炎 ・扁桃腺炎 (重症)、喉頭蓋炎			病態生理学Ⅱ 薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ	
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】					
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ 処方解析学Ⅱ	
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) ・抗結核薬 (ST合剤を含む) ・その他の抗菌薬 (E2) (7) 【⑤重篤感染症の薬、病態、治療】 (参照)			薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ	
3) 瘡癤について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ	
4) 以下の疾患について概説できる。 尋麻疹 (重症)、薬疹 (重症)、水疱症 (重症)、乾燥性皮膚炎 (重症)、光線過敏症 (重症)			薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ	
【④化学構造と薬効】					
1) 感覚器 ・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理 ・薬物動態) の関連を概説できる。		薬理学Ⅰ	薬物治療学Ⅰ		
【⑦病原微生物 (感染症) ・悪性新生物 (がん) と薬】					
【⑧抗菌薬】					
1) 以下の抗菌薬の薬理 (薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体 (アミノグリコシド) 系、キノロン系、グリコプレブド系、抗結核薬、サルファ剤 (ST合剤を含む) ・その他の抗菌薬		微生物薬品化学		薬理学演習	
2) 細菌感染症に關係する代表的な生物学的製剤 (ワクチン等) を挙げ、その作用機序を説明できる。		微生物薬品化学		薬理学演習	
【⑨抗ウイルス薬】					
1) 主要な抗ウイルス薬の耐性獲得機構および耐性出現への対応を説明できる。		微生物薬品化学		薬理学演習	
【⑩細菌感染症の薬、病態、治療】					
1) 以下の呼吸器感染症について、病態 (病態生理、症状等) ・感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 上気道炎 (かぜ症候群 (大分部分がウイルス感染症) を含む) ・気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎			臨床微生物学	処方解析学Ⅰ	
2) 以下の消化器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター ・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎			臨床微生物学		
3) 以下の感覚器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎			臨床微生物学		
4) 以下の尿路感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎			臨床微生物学 病態生理学Ⅱ		
5) 以下の性感染症について、病態 (病態生理、症状等) ・予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等			臨床微生物学 病態生理学Ⅱ		
6) 脳炎、髄膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			臨床微生物学		
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハセン病			臨床微生物学		
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			臨床微生物学 病態生理学Ⅱ		
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			臨床微生物学	処方解析学Ⅰ	
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) ・感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等			臨床微生物学		
【⑪ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】					
1) 以下のウイルス感染症について、病態 (病態生理、症状等) ・感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 ジフテリア、創傷型人獣B溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症			臨床微生物学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						該 当 科 目					
						1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1) ヘルペスウイルス感染症 (単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								臨床微生物学	処方解析学 I 薬理学演習		
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								臨床微生物学	処方解析学 I 薬理学演習		
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) を説明できる。								臨床微生物学	処方解析学 I 薬理学演習		
4) ウイルス性肝炎 (HAV、HBV、HCV) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								臨床微生物学 II 病態生理学 II	処方解析学 I 薬理学演習		
5) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								臨床微生物学 II 病態生理学 II	処方解析学 I 薬理学演習		
6) 以下のウイルス感染症 (プリオン病を含む) について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								臨床微生物学			
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】							微生物薬品化学		薬理学演習		
1) 抗真菌薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。								臨床微生物学			
2) 以下の真菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								臨床微生物学	処方解析学 I		
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】									薬理学演習		
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								臨床微生物学			
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								臨床微生物学			
【⑦悪性腫瘍】								病態生理学 I			
1) 腫瘍の定義 (良性腫瘍と悪性腫瘍の違い) を説明できる。								病態生理学 II			
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。								病態生理学 II			
(腫瘍型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査 (細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー (腫瘍関連の発がん遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学 (がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因)								薬物治療学 I			
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。								薬物治療学 I	薬物治療学演習		
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】											
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。								薬理学演習			
アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬								薬理学演習			
2) 抗悪性腫瘍薬に対する毒性獲得機構を説明できる。								薬物治療学 I	薬理学演習 薬物治療学演習		
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用 (下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害 (手足症候群を含む)、血小板減少等) の軽減のための対処法を説明できる。								薬物治療学 I			
4) 代表的ながん化学療法レジメン (FOLFIRI等) について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。								処方解析学 II			
5) 以下の白血病について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								病態生理学 II	薬物治療学演習		
急性 (慢性) 骨髄性白血病、急性 (慢性) リンパ性白血病、成人 T 細胞白血病 (ATL)									薬物治療学演習 処方解析学 II		
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。									薬物治療学演習 処方解析学 II		
7) 骨肉腫について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。									薬物治療学演習		
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。									薬物治療学演習		
胃癌、食道癌、肝臓、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膀胱癌								病態生理学 II	薬物治療学 II		
9) 肺臓について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								病態生理学 I 薬物治療学 I	薬物治療学 II		
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。											
脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻咽、鼻腭、口腔の悪性腫瘍								薬物治療学 I	薬物治療学 II		
11) 以下の生殖器系の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。											
前立腺癌、子宮癌、卵巣癌								薬物治療学 I	薬物治療学 II		
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍 (腎癌、膀胱癌) について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								病態生理学 II 薬物治療学 I			
13) 乳腺について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。								病態生理学 II	薬物治療学 II		
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】											
1) がん終末期の病態 (病態生理、症状等) と治療を説明できる。							薬理学 I		薬理学演習		

	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
				処方解析学Ⅱ		
2) がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。						
【⑩化学構造と薬効】						
1) 病原微生物・悪性新生物に関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。		微生物薬品化学		薬理学演習		
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【⑪組織生体医薬品】						
1) 組織生体医薬品の特徴と有用性を説明できる。			遺伝子工学			
2) 代表的な組織生体医薬品を列挙できる。			遺伝子工学			
3) 組織生体医薬品の安全性について概説できる。			遺伝子工学			
【⑫遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			遺伝子工学			
【⑬細胞、組織を利用した移植医療】						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			遺伝子工学			
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。			遺伝子工学			
3) 調帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。			遺伝子工学			
4) 胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。			遺伝子工学			
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。			薬局管理学演習			
2) 要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。			薬局管理学演習			
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患を見逃してはならない疾患を列挙できる。			薬局管理学演習			
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）			薬局管理学演習			
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等			薬局管理学演習			
6) 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。			薬局管理学演習			
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。			薬局管理学演習			
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）			調剤学	実務実習事前学習		
(10) 医療の中の漢方薬						
【⑭漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。				処方解析学Ⅰ		
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証				処方解析学Ⅰ		
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。				処方解析学Ⅰ		
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。				処方解析学Ⅰ		
【⑮漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。				処方解析学Ⅰ		
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。				処方解析学Ⅰ		
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。				処方解析学Ⅰ		
【⑯漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。				処方解析学Ⅰ		
(11) 薬物治療の最適化						
【⑰総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）				実務実習事前学習		
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）				臨床薬学総合演習		
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）				臨床薬学総合演習		
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【⑱情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。				実務実習事前学習		
2) 医薬品情報に關わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。				臨床薬学総合演習		
3) 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。				臨床薬学総合演習		
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。				臨床薬学総合演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					該 当 科 目					
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度 (「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GSP、RMP など) とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。							医薬品情報学			
【②情報源】										
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。							医薬品情報学			
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。							医薬品情報学			
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。							医薬品情報学			
4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけについて説明できる。							医薬品情報学			
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の記載項目 (警告、禁忌、効能・効果・用量、使用上の注意など) を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。							医薬品情報学			
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。							医薬品情報学			
【③収集・評価・加工・提供・管理】										
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬物動態、妊婦への投与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)							医薬品情報学			
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)							医薬品情報学			
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本項目を列挙できる。							医薬品情報学			
4) 臨床試験などの原書論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)							医薬品情報学			
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点 (知的所有権、守秘義務など) について説明できる。							医薬品情報学			
【④EBM (Evidence-based Medicine)】										
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。							医薬品情報学			
2) 代表的な臨床研究法 (ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など) の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。							医薬品情報学			
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本項目を列挙し、内的妥当性 (研究結果の正確度や再現性) と外的妥当性 (研究結果の一般化の可能性) について概説できる。 (E3: (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)							医薬品情報学			
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。							医薬品情報学			
【⑤生物統計】										
1) 臨床研究における基本的な統計量 (平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など) の意味と違いを説明できる。							医療統計学			
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。							医療統計学			
3) 代表的な分布 (正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布) について概説できる。							医療統計学			
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。							医療統計学			
5) 二群間の検定 (t検定、 χ^2 検定など) を実施できる。(技能)							医療統計学			
6) 主な帰帰分析 (直線回帰、ロジスティック回帰など) と相関係数の検定について概説できる。							医療統計学			
7) 基本的な生存時間解析法 (カプラン・マイヤー曲線など) について概説できる。							医療統計学			
【⑥臨床研究デザインと解析】										
1) 臨床研究 (治験を含む) の代表的な手法 (介入研究、観察研究) を列挙し、それらの特徴を概説できる。							医薬品情報学			
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。							医薬品情報学			
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン (症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など) について概説できる。							医薬品情報学			
4) 副作用の因果関係を評価するための方法 (副作用判定アルゴリズムなど) について概説できる。							医薬品情報学			
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。							医薬品情報学			
6) 介入研究の計画上の技法 (症例数設定、ランダム化、盲検化など) について概説できる。							医薬品情報学			
7) 統計解析時の注意点について概説できる。							医療統計学			
8) 介入研究の効果指標 (真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント) の違いを、例を挙げて説明できる。							医薬品情報学			
9) 臨床研究の結果 (有効性、安全性) の主なパラメータ (相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合) を説明し、計算できる。 (知識・技能)							医薬品情報学			
【⑦医薬品の比較・評価】										
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。							薬局管理学演習			
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効果の有効性や安全性について比較・評価できる。(技能)								実務実習事前学習		
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)								実務実習事前学習		
(2) 患者情報										
【⑧情報と情報源】										
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。							医薬品情報学 調剤学			
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。							医薬品情報学 調剤学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）					該 当 科 目					
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【②収集・評価・管理】										
1）問題志向型システム（POS）を説明できる。							医薬品情報学 調剤学			
2）SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。							医薬品情報学 調剤学			
3）医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。							医薬品情報学 調剤学			
4）患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 （A（2）【③患者の権利】参照）							医薬品情報学 調剤学			
（3）個別化医療										
【①遺伝的薬因】										
1）薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的薬因について、例を挙げて説明できる。							薬物代謝学			
2）薬物動態に影響する代表的な遺伝的薬因（薬物代謝酵素・トランスポートターの遺伝子変異など）について、例を挙げて説明できる。							薬物代謝学			
3）遺伝的薬因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。							医薬品情報学			
【②年齢的薬因】										
1）低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。							薬物代謝学			
2）高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。							医薬品情報学 薬物代謝学			
【③臓器機能低下】										
1）腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。							薬物代謝学 調剤学			
2）肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。							薬物代謝学 調剤学			
3）心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。							薬物代謝学			
【④その他の薬因】										
1）薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる。						生物薬剤学	医薬品情報学			
2）妊娠・授乳期における薬物動態と、生瘤・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。							医薬品情報学			
3）栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						薬理学Ⅰ 生物薬剤学				
【⑤個別化医療の計画・立案】										
1）個別の患者情報（遺伝的薬因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）								実務実習事前学習		
2）コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。							医薬品情報学			
E4 薬の生体内運命										
（1）薬物の体内動態										
【①生体膜透過】										
1）薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。							薬物代謝学			
2）薬物の生体膜透過に関わるトランスポートターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。						生物薬剤学 生物薬剤学	薬物代謝学 薬物代謝学			
【②吸収】										
1）経口投与された薬物の吸収について説明できる。						生物薬剤学	薬物代謝学			
2）非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。						生物薬剤学				
3）薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。						生物薬剤学	調剤学			
4）薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						生物薬剤学	薬物代謝学			
5）初回通過効果について説明できる。						生物薬剤学	薬物代謝学			
【③分布】										
1）薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。						生物薬剤学				
2）薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。						生物薬剤学				
3）薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。						生物薬剤学				
4）血液－組織間門の構造・機能と、薬物の胎児等への移行について説明できる。						生物薬剤学	薬物代謝学			
5）薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。						生物薬剤学				
6）薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						生物薬剤学	調剤学			
【④代謝】										
1）代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。						生物薬剤学	薬物代謝学 医療薬学実習			
2）薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。						生物薬剤学	薬物代謝学 医療薬学実習			
3）代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。						生物薬剤学	薬物代謝学 医療薬学実習			
4）プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。						生物薬剤学	薬物代謝学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）					該 当 科 目					
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
5）薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。						生物薬理学	調剤学 薬物代謝学			
【⑤排泄】										
1）薬物の尿中排泄機構について説明できる。						生物薬理学	薬物代謝学			
2）腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。						生物薬理学	薬物代謝学			
3）代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。						生物薬理学	生物薬理学			
4）薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。						生物薬理学	薬物代謝学			
5）薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						生物薬理学	調剤学 薬物代謝学			
(2) 薬物動態の解析										
【①薬物速度論】										
1）線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など）の概念を説明できる。							薬物動態学 医療薬学実習			
2）線形1－コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与〔単回および反復投与〕、定速静注）。（知識、技能）							薬物動態学 医療薬学実習			
3）体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。（知識、技能）							薬物動態学 医療薬学実習			
4）モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。							薬物動態学 医療薬学実習			
5）組織クリアランス（肝、腎）および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。							薬物動態学 医療薬学実習			
6）薬物動態学－薬力学解析（PK-PD解析）について概説できる。							薬物動態学 医療薬学実習			
【②TDM（Therapeutic Drug Monitoring）と投与設計】										
1）治療薬物モニタリング（TDM）の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。							薬物動態学			
2）TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。							薬物動態学			
3）薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。（知識、技能）							医療薬学実習			
4）ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。							薬物動態学			
E5 製剤化のサイエンス										
(1) 製剤の性質										
【①固形材料】										
1）粉体の性質について説明できる。							物理薬理学			
2）結晶（安定形および準安定形）や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。							物理薬理学			
3）固形材料の溶解現象（溶解度、溶解平衡など）や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。							物理薬理学 医療薬学実習			
4）固形材料の溶解に影響を及ぼす因子（pHや温度など）について説明できる。							物理薬理学 医療薬学実習			
5）固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。							物理薬理学 医療薬学実習			
【②半固形・液状材料】										
1）流動と変形（レオロジー）について説明できる。							物理薬理学			
2）高分子の構造と高分子溶液の性質（粘度など）について説明できる。							物理薬理学			
【③分散系材料】										
1）界面の性質（界面張力、分配平衡、吸着など）や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。							物理薬理学			
2）分散的な分散系（分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など）を列挙し、その性質について説明できる。							物理薬理学			
3）分散した粒子の安定性と分離現象（沈降など）について説明できる。							物理薬理学			
4）分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。							物理薬理学			
【④薬物及び製剤材料の物性】										
1）製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。							物理薬理学			
2）薬物の安定性（反応速度、複合反応など）や安定性に影響を及ぼす因子（pH、温度など）について説明できる。							物理薬理学			
3）薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。							物理薬理学			
(2) 製剤設計										
【①代表的な製剤】										
1）製剤化の概要と意義について説明できる。										製剤学
2）経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。										製剤学
3）粘膜に適用する製剤（点眼剤、吸入剤など）の種類とその特性について説明できる。										製剤学
4）注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。										製剤学
5）皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。										製剤学

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
1 年		2 年	3 年	4 年	6 年
該 当 科 目					
6) その他の製剤 (生薬関連製剤、透析に用いる製剤など) の種類と特性について説明できる。					
【②製剤化と製剤試験法】					
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。					
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。					
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。					
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。					
【③生物学的同等性】					
1) 製剤の特性 (通用部位、製剤からの薬物の放出性など) を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。					
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)					
【①DDS の必要性】					
1) DDSの概念と有用性について説明できる。					
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1)【4代計】4.も参照)					
【②コントロールリリース (放出制御)】					
1) コントロールリリースの概要と意義について説明できる。					
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。					
3) コントロールリリース技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。					
【③ターゲティング (標的指向性)】					
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。					
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。					
3) ターゲティング技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。					
【④吸収改善】					
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。					
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。					
3) 吸収改善技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。					
F 薬学臨床					
前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項					
(1) 薬学臨床の基礎					
【①早期臨床体験】 ※原則として 2年次修了までに学習する事項					
1) 患者・生活者の視点に立つて、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について認識する。(知識・態度)					
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を認識する。(知識・態度)					
3) 一次救命処置 (心肺蘇生、外傷対応等) を説明し、シミュレーションを用いて実施できる。(知識・技能)					
【②臨床における心構え】 [A (1)、(2) 参照]					
1) 前) 医療の担い手を守るべき倫理規範や法令について認識する。(態度)					
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)					
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を認識する。(態度)					
4) 医療の担い手を守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)					
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)					
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)					
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)					
【③臨床実習の基礎】					
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。					
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。					
3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。					
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。					
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度 (医療、福祉、介護) の概略を説明できる。 [B (3) ①参照]					
6) 病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。(態度)					
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関与することができる。(態度)					
9) 急性期医療 (救急医療・集中治療・外傷治療等) や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。					
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。					
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。					
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。					

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
			製剤学		
		医療薬学実習	製剤学		
		医療薬学実習	製剤学		
		医療薬学実習	製剤学		
		医療薬学実習	製剤学		
			製剤学		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
			製剤機能論		
	</				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
	該 当 科 目				
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。					病院・薬局実務実習
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					病院・薬局実務実習
15) 薬局の調剤に対して、処方せんの交付から薬剤の交付に至るまで継続して関与することができる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
(2) 処方せんに基づく調剤					
【①法令・規則等の理解と遵守】 [B (2)、(3) 参照]					
1) 前) 調剤業務に関わる事項 (処方せん、調剤録、疑義照会等) の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。			薬局管理学習 調剤学	実務実習事前学習 医療薬学演習 臨床薬学総合演習	
2) 調剤業務に関わる法的文書 (処方せん、調剤録等) の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)					
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。					病院・薬局実務実習
【②処方せんと疑義照会】					
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。			調剤学	実務実習事前学習 処方解析学 I 医療薬学演習 処方解析学 II 臨床薬学総合演習	
2) 前) 処方オーダーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。			調剤学	医療薬学演習 臨床薬学総合演習	
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。			調剤学	実務実習事前学習 医療薬学演習 臨床薬学総合演習	
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。			調剤学	実務実習事前学習 医療薬学演習 臨床薬学総合演習	
5) 前) 処方せんの監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。			調剤学	実務実習事前学習 医療薬学演習 臨床薬学総合演習	
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)					病院・薬局実務実習
7) 処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、用法・用量等) が適切であるか確認できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
8) 注射薬処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等) が適切であるか確認できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)					病院・薬局実務実習
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方が必要であるか判断できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)					病院・薬局実務実習
【③処方せんに基づく医薬品の調剤】					
1) 前) 薬袋、薬札 (ラベル) に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)				実務実習事前学習	
2) 前) 主な医薬品の成分 (一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。				実務実習事前学習	
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)			調剤学	実務実習事前学習	
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。			調剤学	実務実習事前学習 医療薬学演習 臨床薬学総合演習	
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				実務実習事前学習	
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)				実務実習事前学習 臨床薬学総合演習	
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)				実務実習事前学習	
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)				実務実習事前学習 臨床薬学総合演習	
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)					病院・薬局実務実習
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)					病院・薬局実務実習
12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
13) 一回量 (一包化) 調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
14) 注射剤処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)					病院・薬局実務実習
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関する回避方法を列挙できる。					病院・薬局実務実習
16) 注射剤 (高カロリー輸液等) の無菌的混合操作を実施できる。(技能)					病院・薬局実務実習
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
18) 特別な注意を要する医薬品 (劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等) の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
19) 調剤された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
【④患者・薬局・医療関係者、服薬指導、患者教育】					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）						
		1 年	2 年	就 業 科 目		
		3 年	4 年	5 年	6 年	
1）前）適切な態度で、患者・来局者と応対できる。（態度）		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
2）前）妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習 医療薬学演習			
3）前）患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
4）前）患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果・用量・用法・禁忌・警告、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習 医療薬学演習			
5）前）代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
6）前）患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（技能・態度）		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
7）前）薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
8）前）代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（技能）		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
9）患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。（態度）		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
10）患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
11）医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
12）患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
13）妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。（知識・態度）		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
14）お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
15）収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）		臨床コミュニケーション演習 薬局管理学演習 医薬品情報学	実務実習事前学習			
【⑤医薬品の供給と管理】						
1）前）医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		薬局管理学演習	医療薬学演習 臨床薬学総合演習			
2）前）医薬品管理の流れを概説できる。		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習			
3）前）創薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習			
4）前）特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習			
5）前）代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習			
6）前）院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習			
7）前）薬局製剤・漢方製剤について概説できる。		薬局管理学演習	実務実習事前学習 処方解析学Ⅰ			
8）前）医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。		薬局管理学演習	医療薬学演習			
9）医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習			
10）医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習			
11）医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習			
12）創薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習			
13）特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習			
【⑥安全管理】						
1）前）処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。		薬局管理学演習 調剤学	医療薬学演習 臨床薬学総合演習 実務実習事前学習 処方解析学Ⅰ			
2）前）特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習 処方解析学Ⅱ 医療薬学演習 臨床薬学総合演習 実務実習事前学習 実務実習事前学習			
3）前）代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体的な対策と発生後の適切な対応方法を討議する。（知識・態度）		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習 処方解析学Ⅱ 医療薬学演習 臨床薬学総合演習 実務実習事前学習 実務実習事前学習			
4）前）感染予防の基本的考え方とその方法を説明できる。		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習 処方解析学Ⅱ 医療薬学演習 臨床薬学総合演習 実務実習事前学習 実務実習事前学習			
5）前）衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習 処方解析学Ⅱ 医療薬学演習 臨床薬学総合演習 実務実習事前学習 実務実習事前学習			
6）前）代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。		薬局管理学演習	臨床薬学総合演習 処方解析学Ⅱ 医療薬学演習 臨床薬学総合演習 実務実習事前学習 実務実習事前学習			
7）前）医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。		薬局管理学演習 医薬品情報学	臨床薬学総合演習			
8）特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）		薬局管理学演習 医薬品情報学	臨床薬学総合演習			
9）調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。		薬局管理学演習 医薬品情報学	臨床薬学総合演習			
10）施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体的な対策と発生後の適切な対応方法を提案することができる。（知識・態度）		薬局管理学演習 医薬品情報学	臨床薬学総合演習			
11）施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）		薬局管理学演習 医薬品情報学	臨床薬学総合演習			
12）施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）		薬局管理学演習 医薬品情報学	臨床薬学総合演習			

	就 業 科 目				
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)				6 年
13) 臨床検体・感染性病原体を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)					病院・薬局実務実習
14) 院内での感染対策 (予防、蔓延防止など) について具体的な提案ができる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
【③ 薬物療法の実践】					
【① 患者情報の把握】					
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。			医薬品情報学	実務実習事前学習	
2) 前) 患者および種々の情報源 (診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等) から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)			医薬品情報学	実務実習事前学習	
〔E3 (2) ①参照〕					
3) 前) 身体所見の観察・測定 (フィジカルアセスメント) の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。				実務実習事前学習	
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)				実務実習事前学習	
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
6) 患者・薬局および種々の情報源 (診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等) から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)					病院・薬局実務実習
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)					病院・薬局実務実習
【② 医薬品情報の収集と活用】〔E3 (1) 参照〕					
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)			医薬品情報学	実務実習事前学習	
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で取扱うことができる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
【③ 処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案)】					
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				実務実習事前学習 処方解析学 I	
2) 前) 病態 (肝・腎臓重など) や生理的特性 (妊婦・授乳婦、小児、高齢者など) 等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。			調剤学	実務実習事前学習 処方解析学 II	
3) 前) 患者のアトヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。			調剤学	医療薬学演習	
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				実務実習事前学習	
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。			調剤学	実務実習事前学習 処方解析学 II	
6) 前) 患者の栄養状態や体流量、電解質の過不足などが評価できる。					病院・薬局実務実習
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。					病院・薬局実務実習
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。					病院・薬局実務実習
9) 患者の状態 (病態、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等) や薬剤の特徴 (作用機序や製剤的性質等) に基づき、適切な処方提案ができる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリカルパスを活用できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
12) アトヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					病院・薬局実務実習
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由 (投与量、投与方法、投与期間等) について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
【④ 処方設計と薬物療法における効果と副作用の評価】					
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。			臨床コミュニケーション演習	実務実習事前学習 処方解析学 I 医療薬学演習 処方解析学 II	
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)			臨床コミュニケーション演習	臨床薬学総合演習	
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)			臨床コミュニケーション演習	実務実習事前学習	
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)			臨床コミュニケーション演習	実務実習事前学習	
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の提案ができる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
6) 薬物血中濃度の推移と使用医薬品の関連性を説明できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。					病院・薬局実務実習
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					病院・薬局実務実習
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					病院・薬局実務実習
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
11) 報告に必要な要素 (SWH) に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)					病院・薬局実務実習

	就 業 科 目				
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
	6 年				
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記述する。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
(4) チーム医療への参画【A(4)参照】					
【①医療機関におけるチーム医療】					
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。			薬局管理学演習	医療薬学演習 臨床薬学総合演習	
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。			薬局管理学演習	医療薬学演習 臨床薬学総合演習	
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携カニカルパス、退院時共同指導、薬局・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。			薬局管理学演習		
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)					病院・薬局実務実習
5) 医師・看護師等の地域性と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診等の参加等)する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
9) 病院内の多様な医療チーム(OT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
【②地域におけるチーム医療】					
1) 前) 地域の保健・医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。			薬局管理学演習	臨床薬学総合演習	
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)			薬局管理学演習		
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)					病院・薬局実務実習
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画【B(4)参照】					
【③在宅(訪問)医療・介護への参画】					
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。			薬局管理学演習	薬剤師職能論 薬剤師職能論	
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。			薬局管理学演習	臨床薬学総合演習	
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。			薬局管理学演習		病院・薬局実務実習
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務)を体験する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
6) 在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
【④地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】					
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等)について説明できる。			薬局管理学演習	臨床薬学総合演習	
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			薬局管理学演習		
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
4) 地域住民の衛生管理(消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等)における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
【⑤プライマリケア、セルフメディケーションの実践】【E2(9)参照】					
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)			薬局管理学演習		
2) 前) 代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す末局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)			臨床コミュニケーション演習	実務実習事前学習	
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)				実務実習事前学習	
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)				実務実習事前学習	
5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)					病院・薬局実務実習
6) 末局者から収集した情報や身体所見などに基づき、末局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
7) 末局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を末局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
【⑥災害時医療と薬剤師】					
1) 前) 災害時医療について概説できる。			薬局管理学演習	臨床薬学総合演習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						該 当 科 目					
						1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。										病院・薬局実務実習	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)										病院・薬局実務実習	
g 薬学研究											
(1) 薬学における研究の位置づけ											
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。									卒業特別研究	卒業特別研究	
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。									卒業特別研究	卒業特別研究	
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)									卒業特別研究	卒業特別研究	
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)									卒業特別研究	卒業特別研究	
(2) 研究に必要な法規範と倫理											
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。									新薬開発論 卒業特別研究	卒業特別研究	
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。									新薬開発論 卒業特別研究	卒業特別研究	
3) 正確性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-(4)-3再掲									卒業特別研究	卒業特別研究	
(3) 研究の実践											
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)									卒業特別研究	卒業特別研究	
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)									卒業特別研究	卒業特別研究	
3) 研究計画に沿って、意図的に研究を実施できる。(技能・態度)									卒業特別研究	卒業特別研究	
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)									卒業特別研究	卒業特別研究	
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。 (知識・技能・態度)									卒業特別研究	卒業特別研究	
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)									卒業特別研究	卒業特別研究	

(基礎資料3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		100	100	120	120	120	120
入学時の学生数 ²⁾		A	82	83	94	63	94
在籍学生数 ³⁾		B	83	105	83	54	84
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者	C	1	22	12	5	12
	休学による者	D					
編入学などによる在籍者数		E		1	1		2
ストレート在籍者数 ⁵⁾		F	82	82	70	49	70
ストレート在籍率 ⁶⁾		F/A	1.00	0.99	0.74	0.78	0.74
過年度在籍率 ⁷⁾		(C+D)/B	0.01	0.21	0.14	0.09	0.14
							0.25

1) 各学年が入学した年度の入学選抜で設定されていた入学定員を記載してください。

2) 当該学年が入学した時点での実入学人数を記載してください。

3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。

4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。

5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。
ストレート在籍者数 [B-(C+D+E)]

6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

(基礎資料3-2) 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	98	64	100	89	83
	休学者数 ²⁾	1	2	1	1	0
	退学者数 ²⁾	8	1	2	3	0
	留年者数 ²⁾	0	4	5	0	0
	進級率 ³⁾	0.91	0.89	0.92	0.96	1.00
2年次	在籍者数 ¹⁾	122	103	66	100	105
	休学者数 ²⁾	0	0	0	1	2
	退学者数 ²⁾	5	10	4	4	8
	留年者数 ²⁾	15	9	6	18	8
	進級率 ³⁾	0.84	0.82	0.85	0.77	0.83
3年次	在籍者数 ¹⁾	128	113	88	59	83
	休学者数 ²⁾	0	0	2	0	1
	退学者数 ²⁾	10	2	2	1	1
	留年者数 ²⁾	9	4	1	6	5
	進級率 ³⁾	0.85	0.95	0.94	0.88	0.92
4年次	在籍者数 ¹⁾	122	113	112	87	54
	休学者数 ²⁾	1	1	0	0	0
	退学者数 ²⁾	2	0	2	2	0
	留年者数 ²⁾	1	2	3	1	7
	進級率 ³⁾	0.97	0.97	0.96	0.97	0.87
5年次	在籍者数 ¹⁾	111	119	111	106	84
	休学者数 ²⁾	0	0	0	1	4
	退学者数 ²⁾	0	0	0	0	2
	留年者数 ²⁾	1	1	0	0	3
	進級率 ³⁾	0.99	0.99	1.00	0.99	0.89

(基礎資料3-3) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾	A	94	111	119	116	108
学士課程修了(卒業)者数 ¹⁾	B	69	90	86	106	95
卒業率 ²⁾	B/A	0.73	0.81	0.72	0.91	0.88
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年	59	82	81	81	80
	7年	3	3	2	12	11
	8年	1		1	6	
	9年以上		1		1	
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾	D	107	135	139	111	108
ストレート卒業率 ⁵⁾	C/D	0.55	0.61	0.58	0.73	0.74

1) 当該年度の9月に卒業した学生は、「在籍学生数」(A)にも、「卒業者数」(B)にも含みません。

なお、卒業者数は、**当該年度の卒業判定会議(年度末)における卒業認定者数**を記載してください。

2) 卒業率＝(学士課程修了者数)／(6年次の在籍者数)の値(B/A)を小数点以下第2位まで記載してください。

3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。

4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。

5) ストレート卒業率＝(卒業までに要した在学期間が6年間の学生数)／(入学時の学生数)の値(C/D)を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料3ー4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	平均値 ⁵⁾
入学定員 A	120	120	120	120	100	100	87
実入学者数 ¹⁾ B	108	94	63	94	83	82	
入学定員充足率 ²⁾ B/A	0.90	0.78	0.53	0.78	0.83	0.82	0.77
編入学定員							3
編入学者数 ³⁾ C+D+E	3	3	4	2	3	1	
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2年次 C	2	1	1	1	1	1
	3年次 D		1				0
	4年次 E	1	1	3	2	2	2

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入(転入)学による入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

	学科名	入試の種類		2017年度入試 (2016年度実施)	2018年度入試 (2017年度実施)	2019年度入試 (2018年度実施)	2020年度入試 (2019年度実施)	2021年度入試 (2020年度実施)	2022年度入試 (2021年度実施)	募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均)
薬学	薬学	一般入試	受験者数	244	153	265	262	269	320	74.8%
			合格者数	206	124	234	233	231	298	
			入学者数 (A)	35	35	50	46	42	59	
			募集定員数 (B)	60	60	60	51	51	51	
			A/B*100 (%)	58.33%	58.33%	83.33%	90.20%	82.35%	115.69%	
		大学入学共通テスト利用入試 (2020年度入試まではセンター利用入試)	受験者数	59	58	54	48	49	55	
			合格者数	49	46	29	34	34	29	
			入学者数 (A)	7	1	5	4	2	3	
			募集定員数 (B)	15	15	15	14	14	14	
			A/B*100 (%)	46.67%	6.67%	33.33%	28.57%	14.29%	21.43%	
		附属校推薦	受験者数	17	5	11	5	8	5	
			合格者数	17	5	11	5	8	5	
			入学者数 (A)	17	5	11	5	8	5	
			募集定員数 (B)							
			A/B*100 (%)	-	-	-	-	-	-	
		指定校推薦	受験者数	8	5	6	8	6	3	
			合格者数	8	5	6	8	6	3	
			入学者数 (A)	8	5	6	8	6	3	
			募集定員数 (B)							
			A/B*100 (%)	-	-	-	-	-	-	
		公募推薦入試	受験者数	65	43	44	46	55	35	
			合格者数	46	33	35	39	44	34	
			入学者数 (A)	27	17	16	14	18	19	
			募集定員数 (B)	45	45	30	25	25	25	
			A/B*100 (%)	60.00%	37.78%	53.33%	56.00%	72.00%	76.00%	
		総合型選抜	受験者数			9	11	10	17	
			合格者数			8	9	9	16	
			入学者数 (A)			6	6	6	12	
			募集定員数 (B)			15	10	10	10	
			A/B*100 (%)	-	-	40.00%	60.00%	60.00%	120.00%	
学 科 計	受験者数	393	264	389	380	397	435			
	合格者数	326	213	323	328	332	385			
	入学者数 (A)	94	63	94	83	82	101			
	募集定員数 (B)	120	120	120	100	100	100			
	A/B*100 (%)	78.33%	52.50%	78.33%	83.00%	82.00%	101.00%			
編（転）入試験	受験者数	6	6	5	4	3	4			
	合格者数	3	4	2	4	1	2			
	入学者数 (A)	3	4	2	3	1	2			
	募集定員数 (B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名			
	A/B*100 (%)	-	-	-	-	-	-			

- 38

(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 ¹⁾
21名	7名	8名	8名	44名	29名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ²⁾
4名	0名	2名	3名	9名	5名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2の教員は含まず

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼任教員 ²⁾
0名	0名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計
0名	16名	0名	16名

自己点検・評価を実施した年度の実績を記入

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員

事務職員 ¹⁾	技能職員 ²⁾	その他 ³⁾	合計
2名	5名	0名	7名

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤者数は()に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	名	名	名	名	0名	0%
60代	13名	名	名	名	13名	29.55%
50代	7名	2名	名	名	9名	20.45%
40代	1名	5名	5名	名	11名	25.00%
30代	名	名	3名	8名	11名	25.00%
20代	名	名	名	名	0名	0%
合計	21名	7名	8名	8名	44名	100.00%

専任教員の定年年齢:(60歳もしくは65歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	17名	7名	7名	5名	36名	81.82%
女性	4名	0名	1名	3名	8名	18.18%

(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾
薬学科	教授						医薬品分析化学(15年度生～)	18.00	0.60
							化学平衡(～14年度生)	22.50	0.75
							課題研究	院 22.50	0.75
							基礎薬学実習(物理系・化学系)(15～)	◎ 67.50	2.25
							基礎薬学総合演習(15年度生～)	4.50	0.15
							初年次ゼミナール(15年度生～)	3.00	0.10
							卒業特別講義a(15年度生～)	3.00	0.10
							物理系薬学演習(15年度生～)	10.50	0.35
							薬学への招待(15年度生～)	7.50	0.25
							卒業特別ゼミナールa	22.50	0.75
							臨床分析技術(15年度生～)	18.00	0.60
							授業担当時間の合計	199.50	6.65
薬学科	教授						化学系薬学演習(15年度生～)	6.00	0.20
							基礎化学演習(15年度生～)	7.50	0.25
							基礎薬学実習(物理系・化学系)(15～)	◎ 67.50	2.25
							基礎薬学総合演習(15年度生～)	3.00	0.10
							現代生活と化学(=生命と生活の化学)	22.50	0.75
							初年次ゼミナール(15年度生～)	3.00	0.10
							卒業特別講義a(15年度生～)	4.50	0.15
							病因究明創薬学特論	院 4.50	0.15
							無機化学(15年度生～)	12.00	0.40
							薬学への招待(15年度生～)	7.50	0.25
							卒業特別ゼミナールc	22.50	0.75
							有機薬化学Ⅰ(15年度生～)	22.50	0.75
							授業担当時間の合計	183.00	6.10
薬学科	教授						医療薬学実習(薬理・薬剤)(15～)	◎ 67.50	2.25
							最適薬物療法学演習g	院 22.50	0.75
							薬理学Ⅰ(15年度生～)	22.50	0.75
							薬理学演習(15年度生～)	18.00	0.60
							免疫薬理学(15年度生～)	9.00	0.30
							薬学への招待(15年度生～)	7.50	0.25
							初年次ゼミナール(15年度生～)	3.00	0.10
							卒業特別講義a(15年度生～)	3.00	0.10
							卒業特別ゼミナールo	22.50	0.75
							スタートアップ就実	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	177.00	5.90
薬学科	教授						医療薬学実習(薬理・薬剤)(15～)	◎ 67.50	2.25
							病態生理学Ⅰ(15年度生～)	19.50	0.65
							病態生理学Ⅱ(15年度生～)	16.50	0.55
							薬学への招待(15年度生～)	16.50	0.55
							医療倫理学(15年度生～)	12.00	0.40
							小児疾病論1	7.50	0.25
							薬学対話演習(15年度生～)	7.50	0.25
							初年次ゼミナール(15年度生～)	4.50	0.15
							卒業特別ゼミナールm	22.50	0.75
							卒業特別講義a(15年度生～)	3.00	0.10
							授業担当時間の合計	177.00	5.90
薬学科	教授						医療薬学実習(薬理・薬剤)(15～)	◎ 67.50	2.25
							生物薬剤学(15年度生～)	22.50	0.75
							物理薬剤学(15年度生～)	22.50	0.75
							製剤機能論(15年度生～)	12.00	0.40
							香粧品科学(15年度生～)	10.50	0.35
							薬学への招待(15年度生～)	7.50	0.25
							薬剤学演習(15年度生～)	6.00	0.20
							臨床薬物動態学特論	院 6.00	0.20
							初年次ゼミナール(15年度生～)	3.00	0.10
							卒業特別ゼミナールq	22.50	0.75
							卒業特別講義a(15年度生～)	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	181.50	6.05

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当たり授業時間 ⁵⁾								
薬学科	教授						生命薬学実習Ⅰ（生化学・免疫学）（15～）	◎	67.50	2.25							
							遺伝子診断薬学特論	院	22.50	0.75							
							課題研究	院	22.50	0.75							
							遺伝子工学（15年度生～）		21.00	0.70							
							医療放射化学（15年度生～）		10.50	0.35							
							環境と地球（＝化学と環境問題）		7.50	0.25							
							基礎薬学英語（15年度生～）		7.50	0.25							
							薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10							
							生物系薬学演習（15年度生～）		3.00	0.10							
							卒業特別ゼミナールh		22.50	0.75							
							卒業特別講義a（15年度生～）		1.50	0.05							
							授業担当時間の合計			196.50	6.55						
							薬学科	教授						生命薬学実習Ⅱ（衛生・微生物）（15～）	◎	67.50	2.25
初年次ゼミナール（15年度生～）		18.00	0.60														
臨床微生物学（15年度生～）		15.00	0.50														
感染症予防学（15年度生～）		12.00	0.40														
薬学への招待（15年度生～）		12.00	0.40														
生物系薬学演習（15年度生～）		10.50	0.35														
微生物薬品化学（15年度生～）		4.50	0.15														
サイエンスコミュニケーション（15～）		1.50	0.05														
卒業特別ゼミナールj		22.50	0.75														
卒業特別講義a（15年度生～）		1.50	0.05														
授業担当時間の合計			165.00	5.50													
薬学科	教授													生命薬学実習Ⅰ（生化学・免疫学）（15～）	◎	67.50	2.25
														生化学Ⅰ（15年度生～）		18.00	0.60
														生化学Ⅱ（15年度生～）		18.00	0.60
							サイエンスコミュニケーション（15～）		7.50	0.25							
							薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25							
							病態生化学（15年度生～）		4.50	0.15							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10							
							生物系薬学演習（15年度生～）		3.00	0.10							
							卒業特別講義a（15年度生～）		3.00	0.10							
							卒業特別ゼミナールg		22.50	0.75							
							基礎薬学総合演習（15年度生～）		1.50	0.05							
							授業担当時間の合計			156.00	5.20						
							薬学科	教授						医療薬学実習（薬理・薬剤）（15～）	◎	67.50	2.25
														人体の構造と機能2（＝生理学）		22.50	0.75
人体構成学Ⅰ（15年度生～）		21.00	0.70														
人体構成学Ⅱ（15年度生～）		21.00	0.70														
人体の構造と機能1（＝解剖学）		12.00	0.40														
薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25														
生体機能調節学（15年度生～）		6.00	0.20														
からだの構造と機能（＝人体の構造と機能）		4.50	0.15														
卒業特別講義a（15年度生～）		4.50	0.15														
病態生理学Ⅱ（15年度生～）		4.50	0.15														
初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10														
卒業特別ゼミナールn		22.50	0.75														
病態生理学Ⅰ（15年度生～）		1.50	0.05														
授業担当時間の合計			198.00	6.60													
薬学科	教授						基礎薬学実習（物理系・化学系）（15～）	◎	67.50	2.25							
							熱力学と物理平衡（15年度生～）		22.50	0.75							
							溶液の性質と化学反応速度論（15～）		22.50	0.75							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		18.00	0.60							
							化学の世界と歴史		12.00	0.40							
							生体薬物情報解析学特論	院	12.00	0.40							
							薬学への招待（15年度生～）		12.00	0.40							
							物理系薬学演習（15年度生～）		6.00	0.20							
							基礎薬学総合演習（15年度生～）		4.50	0.15							
							卒業特別ゼミナールb		22.50	0.75							
							卒業特別講義a（15年度生～）		3.00	0.10							
							授業担当時間の合計			202.50	6.75						

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当たり授業時間 ⁵⁾								
薬学科	教授						生命薬学実習Ⅰ（生化学・免疫学）（15～）	◎	67.50	2.25							
							基礎生物学演習（15年度生～）		22.50	0.75							
							生化学Ⅰ（細胞の生化学）（～14年度生）		22.50	0.75							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		18.00	0.60							
							環境と生命（＝病気と環境）		12.00	0.40							
							薬学への招待（15年度生～）		12.00	0.40							
							リメディアルサイエンス（15年度生～）		10.50	0.35							
							細胞工学（15年度生～）		10.50	0.35							
							生物系薬学演習（15年度生～）		3.00	0.10							
							卒業特別講義a（15年度生～）		3.00	0.10							
							卒業特別ゼミナールi		22.50	0.75							
							基礎薬学総合演習（15年度生～）		1.50	0.05							
							授業担当時間の合計		205.50	6.85							
							薬学科	教授 （実務）						生命薬学実習Ⅱ（衛生・微生物）（15～）	◎	67.50	2.25
公衆衛生学（15年度生～）		22.50	0.75														
生命機能のプログラム（～命と病～）		22.50	0.75														
臨床疫学（15年度生～）		10.50	0.35														
薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25														
衛生薬学演習（15年度生～）		6.00	0.20														
初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10														
卒業特別ゼミナールk		22.50	0.75														
卒業特別講義a（15年度生～）		1.50	0.05														
授業担当時間の合計		163.50	5.45														
薬学科	教授													生命薬学実習Ⅱ（衛生・微生物）（15～）	◎	67.50	2.25
														環境衛生学（15年度生～）		22.50	0.75
														公衆衛生学		22.50	0.75
														薬学対話演習（15年度生～）		22.50	0.75
							薬学への招待（15年度生～）		16.50	0.55							
							環境と地球（＝化学と環境問題）		7.50	0.25							
							衛生薬学演習（15年度生～）		6.00	0.20							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		4.50	0.15							
							食品衛生学演習（15年度生～）		1.50	0.05							
							卒業特別ゼミナールk		22.50	0.75							
							卒業特別講義a（15年度生～）		1.50	0.05							
							授業担当時間の合計		195.00	6.50							
							薬学科	教授						医療薬学実習（薬理・薬剤）（15～）	◎	67.50	2.25
														薬物治療学Ⅰ（15年度生～）		21.00	0.70
薬物治療学演習（15年度生～）		21.00	0.70														
薬理学Ⅱ（15年度生～）		21.00	0.70														
薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25														
初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10														
卒業特別ゼミナールp		22.50	0.75														
卒業特別講義a（15年度生～）		3.00	0.10														
授業担当時間の合計		166.50	5.55														
薬学科	教授													医療薬学実習（薬理・薬剤）（15～）	◎	67.50	2.25
							最適薬物療法学演習h	院	22.50	0.75							
							製剤学（15年度生～）		22.50	0.75							
							薬物動態学（15年度生～）		22.50	0.75							
							薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25							
							臨床薬物動態学特論	院	6.00	0.20							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10							
							卒業特別講義a（15年度生～）		1.50	0.05							
							薬剤学演習（15年度生～）		1.50	0.05							
							授業担当時間の合計		154.50	5.15							
							薬学科	教授						生命薬学実習Ⅱ（衛生・微生物）（15～）	◎	67.50	2.25
分子生物学（15年度生～）		22.50	0.75														
初年次ゼミナール（15年度生～）		18.00	0.60														
薬学への招待（15年度生～）		12.00	0.40														
ゲノム科学（15年度生～）		10.50	0.35														
基礎薬学英語（15年度生～）		7.50	0.25														
コロナレーション学修1（いのちとは？）		3.00	0.10														
情報リテラシー（15年度生～）		3.00	0.10														
卒業特別講義a（15年度生～）		3.00	0.10														
基礎薬学総合演習（15年度生～）		1.50	0.05														
卒業特別ゼミナールj		22.50	0.75														
生物系薬学演習（15年度生～）		1.50	0.05														
授業担当時間の合計		172.50	5.75														

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾		授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾	
薬学科	教授 (実務)						実務実習事前学習 (15年度生～)	◎	90.00	3.00	
							初年次ゼミナール(15年度生～)		18.00	0.60	
							薬学への招待 (15年度生～)		12.00	0.40	
							新薬開発論 (15年度生～)		10.50	0.35	
							医薬品情報学 (15年度生～)		9.00	0.30	
							処方解析学Ⅰ (15年度生～)		6.00	0.20	
							専門薬剤師概論Ⅱ (15年度生～)		4.50	0.15	
							臨床コミュニケーション演習(15～)		4.50	0.15	
							臨床薬学総合演習 (15年度生～)		4.50	0.15	
							卒業特別講義a (15年度生～)		3.00	0.10	
							授業担当時間の合計			162.00	5.40
薬学科	教授						生命薬学実習Ⅰ (生化学・免疫学) (15～)	◎	67.50	2.25	
							生体情報化学 (15年度生～)		22.50	0.75	
							初年次ゼミナール(15年度生～)		18.00	0.60	
							薬学への招待 (15年度生～)		12.00	0.40	
							サイエンスコミュニケーション (15～)		7.50	0.25	
							基礎薬学英語 (15年度生～)		7.50	0.25	
							疾病機構解析学特論	院	6.00	0.20	
							生体機能調節学 (15年度生～)		6.00	0.20	
							リメディアルサイエンス (15年度生～)		4.50	0.15	
							病態生化学 (15年度生～)		3.00	0.10	
							基礎薬学総合演習 (15年度生～)		1.50	0.05	
							生物系薬学演習 (15年度生～)		1.50	0.05	
							卒業特別ゼミナールg		22.50	0.75	
							卒業特別講義a (15年度生～)		1.50	0.05	
							授業担当時間の合計			181.50	6.05
薬学科	教授 (実務)						実務実習事前学習 (15年度生～)	◎	90.00	3.00	
							医療薬学演習 (15年度生～)		22.50	0.75	
							最適薬物療法学演習c	院	22.50	0.75	
							薬学への招待 (15年度生～)		16.50	0.55	
							からだの化学と生物学 (＝いきものと物質		12.00	0.40	
							薬学対話演習 (15年度生～)		9.00	0.30	
							処方解析学Ⅱ (15年度生～)		7.50	0.25	
							臨床薬学総合演習 (15年度生～)		6.00	0.20	
							初年次ゼミナール(15年度生～)		4.50	0.15	
							臨床コミュニケーション演習(15～)		4.50	0.15	
							卒業特別ゼミナールs		22.50	0.75	
							卒業特別講義a (15年度生～)		3.00	0.10	
							授業担当時間の合計			220.50	7.35
							薬学科	教授 (実務)			
専門薬剤師概論Ⅰ (15年度生～)		22.50	0.75								
薬事関係法規 (15年度生～)		15.00	0.50								
薬剤師職能論 (15年度生～)		12.00	0.40								
からだの化学と生物学 (＝いきものと物質		10.50	0.35								
処方解析学Ⅱ (15年度生～)		7.50	0.25								
薬学への招待 (15年度生～)		7.50	0.25								
薬物療法解析学特論 (木6前半)	院	6.00	0.20								
初年次ゼミナール(15年度生～)		3.00	0.10								
卒業特別講義a (15年度生～)		3.00	0.10								
臨床コミュニケーション演習(15～)		3.00	0.10								
卒業特別ゼミナールt		22.50	0.75								
臨床薬学総合演習 (15年度生～)		3.00	0.10								
授業担当時間の合計			205.50	6.85							
薬学科	教授						基礎薬学実習 (物理系・化学系) (15～)	◎	67.50	2.25	
							天然物化学(15年度生～)		22.50	0.75	
							薬学への招待 (15年度生～)		21.00	0.70	
							初年次ゼミナール(15年度生～)		19.50	0.65	
							生薬学 (15年度生～)		10.50	0.35	
							基礎化学演習 (15年度生～)		7.50	0.25	
							健康と栄養		7.50	0.25	
							化学系薬学演習 (15年度生～)		4.50	0.15	
							卒業特別講義a (15年度生～)		4.50	0.15	
							病因究明創薬学特論	院	4.50	0.15	
							基礎薬学総合演習 (15年度生～)		3.00	0.10	
							授業担当時間の合計			172.50	5.75

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾								
薬学科	准教授						生命薬学実習Ⅱ（衛生・微生物）（15～）	◎	67.50	2.25							
							衛生化学（15年度生～）		22.50	0.75							
							衛生学		19.50	0.65							
							未病薬学（15年度生～）		10.50	0.35							
							基礎薬学英語（15年度生～）		7.50	0.25							
							健康と衛生（＝健康と食品）		7.50	0.25							
							薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25							
							衛生薬学演習（15年度生～）		4.50	0.15							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10							
							卒業特別ゼミナールl		22.50	0.75							
							卒業特別講義a（15年度生～）		1.50	0.05							
							授業担当時間の合計		174.00	5.80							
薬学科	准教授						医療薬学実習（薬理・薬剤）（15～）	◎	67.50	2.25							
							薬物代謝学（15年度生～）		22.50	0.75							
							からだの構造と機能（＝人体の構造と機能		10.50	0.35							
							基礎薬学英語（15年度生～）		7.50	0.25							
							薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25							
							薬剤学演習（15年度生～）		6.00	0.20							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10							
							卒業特別ゼミナールr		22.50	0.75							
							卒業特別講義a（15年度生～）		1.50	0.05							
							授業担当時間の合計		148.50	4.95							
							薬学科	准教授						基礎薬学実習（物理系・化学系）（15～）	◎	67.50	2.25
														有機薬化学Ⅱ（15年度生～）		22.50	0.75
有機薬化学Ⅲ（15年度生～）		22.50	0.75														
基礎薬学英語（15年度生～）		7.50	0.25														
薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25														
サイエンスコミュニケーション（15～）		6.00	0.20														
化学系薬学演習（15年度生～）		6.00	0.20														
卒業特別講義a（15年度生～）		4.50	0.15														
病因究明創薬学特論	院	4.50	0.15														
基礎薬学総合演習（15年度生～）		3.00	0.10														
卒業特別ゼミナールd		22.50	0.75														
初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10														
授業担当時間の合計		177.00	5.90														
薬学科	准教授						基礎薬学実習（物理系・化学系）（15～）	◎	67.50	2.25							
							機器分析化学（15年度生～）		22.50	0.75							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		18.00	0.60							
							医薬品化学（15年度生～）		12.00	0.40							
							薬学への招待（15年度生～）		12.00	0.40							
							リメディアルサイエンス（15年度生～）		10.50	0.35							
							創薬化学（15年度生～）		10.50	0.35							
							基礎化学演習（15年度生～）		7.50	0.25							
							サイエンスコミュニケーション（15～）		6.00	0.20							
							化学系薬学演習（15年度生～）		6.00	0.20							
							卒業特別講義a（15年度生～）		4.50	0.15							
							卒業特別ゼミナールe		22.50	0.75							
							基礎薬学総合演習（15年度生～）		3.00	0.10							
							授業担当時間の合計		202.50	6.75							
薬学科	准教授						実務実習事前学習（15年度生～）	◎	90.00	3.00							
							課題研究	院	22.50	0.75							
							薬局管理学演習（15年度生～）		22.50	0.75							
							薬学への招待（15年度生～）		16.50	0.55							
							生体防御科学（15年度生～）		10.50	0.35							
							薬学対話演習（15年度生～）		7.50	0.25							
							薬物療法解析学特論（木6前半）	院	6.00	0.20							
							臨床薬学総合演習（15年度生～）		6.00	0.20							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		4.50	0.15							
							情報リテラシー（15年度生～）		4.50	0.15							
							専門薬剤師概論Ⅱ（15年度生～）		3.00	0.10							
							臨床コミュニケーション演習（15～）		3.00	0.10							
							卒業特別ゼミナールu		22.50	0.75							
							卒業特別講義a（15年度生～）		1.50	0.05							
							授業担当時間の合計		220.50	7.35							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当たり授業時間 ⁵⁾								
薬学科	准教授						実務実習事前学習（15年度生～）	◎	90.00	3.00							
							医療にかかわる用語		22.50	0.75							
							医療統計学（15年度生～）		22.50	0.75							
							最適薬物療法学演習c	院	22.50	0.75							
							臨床コミュニケーション演習（15～）		22.50	0.75							
							薬学への招待（15年度生～）		16.50	0.55							
							医薬品情報学（15年度生～）		13.50	0.45							
							漢方薬学Ⅰ（15年度生～）		10.50	0.35							
							コラボレーション学修1（いのちとは？）		9.00	0.30							
							コラボ学修2（日常の数字を考える）		4.50	0.15							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		4.50	0.15							
							臨床薬学総合演習（15年度生～）		4.50	0.15							
							卒業特別ゼミナールt		22.50	0.75							
							卒業特別講義a（15年度生～）		3.00	0.10							
							授業担当時間の合計			268.50	8.95						
薬学科	准教授						基礎薬学実習（物理系・化学系）（15～）	◎	67.50	2.25							
							基礎物理学演習（15年度生～）		22.50	0.75							
							化学物質の構造と性質（15年度生～）		12.00	0.40							
							化学の世界と歴史		10.50	0.35							
							サイエンスコミュニケーション（15～）		7.50	0.25							
							リメディアルサイエンス（15年度生～）		7.50	0.25							
							薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25							
							物理系薬学演習（15年度生～）		6.00	0.20							
							基礎薬学総合演習（15年度生～）		4.50	0.15							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10							
							卒業特別ゼミナールa		22.50	0.75							
							卒業特別講義a（15年度生～）		3.00	0.10							
							授業担当時間の合計			174.00	5.80						
							薬学科	講師						医療薬学実習（薬理・薬剤）（15～）	◎	67.50	2.25
														化学		22.50	0.75
薬理学Ⅲ（15年度生～）		22.50	0.75														
薬学への招待（15年度生～）		16.50	0.55														
薬学対話演習（15年度生～）		6.00	0.20														
初年次ゼミナール（15年度生～）		4.50	0.15														
臨床コミュニケーション演習（15～）		4.50	0.15														
情報リテラシー（15年度生～）		3.00	0.10														
卒業特別講義a（15年度生～）		3.00	0.10														
卒業特別ゼミナールp		22.50	0.75														
病態生理学Ⅰ（15年度生～）		1.50	0.05														
授業担当時間の合計			174.00	5.80													
薬学科	講師													生命薬学実習Ⅱ（衛生・微生物）（15～）	◎	67.50	2.25
														環境毒性学（15年度生～）		22.50	0.75
														環境と地球（＝化学と環境問題）		7.50	0.25
							薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25							
							衛生薬学演習（15年度生～）		6.00	0.20							
							初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10							
							卒業特別ゼミナールk		22.50	0.75							
							卒業特別講義a（15年度生～）		1.50	0.05							
							授業担当時間の合計			138.00	4.60						
							薬学科	講師						生命薬学実習Ⅰ（生化学・免疫学）（15～）	◎	67.50	2.25
免疫学（15年度生～）		22.50	0.75														
薬学への招待（15年度生～）		16.50	0.55														
環境と生命（＝病気と環境）		10.50	0.35														
生物系薬学演習（15年度生～）		10.50	0.35														
薬学対話演習（15年度生～）		10.50	0.35														
初年次ゼミナール（15年度生～）		4.50	0.15														
臨床コミュニケーション演習（15～）		4.50	0.15														
遺伝子工学（15年度生～）		1.50	0.05														
基礎薬学総合演習（15年度生～）		1.50	0.05														
卒業特別ゼミナールh		22.50	0.75														
卒業特別講義a（15年度生～）		1.50	0.05														
授業担当時間の合計			174.00	5.80													

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当たり授業時間 ⁵⁾		
薬学科	講師						生命薬学実習Ⅱ（衛生・微生物）（15～）	◎	67.50	2.25	
							生物学		22.50	0.75	
							微生物薬品化学（15年度生～）		18.00	0.60	
							生物系薬学演習（15年度生～）		10.50	0.35	
							薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25	
							臨床微生物学（15年度生～）		7.50	0.25	
							コラボ学修2（日常の数字を考える）		4.50	0.15	
							初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10	
							卒業特別ゼミナールj		22.50	0.75	
							情報リテラシー（15年度生～）		3.00	0.10	
							授業担当時間の合計			166.50	5.55
							薬学科	講師			
薬学への招待（15年度生～）		16.50	0.55								
基礎数学演習（15年度生～）		13.50	0.45								
臨床コミュニケーション演習（15～）		13.50	0.45								
基礎薬学英語（15年度生～）		7.50	0.25								
処方解析学Ⅱ（15年度生～）		7.50	0.25								
薬学対話演習（15年度生～）		7.50	0.25								
薬事関係法規（15年度生～）		7.50	0.25								
リメディアルサイエンス（15年度生～）		4.50	0.15								
初年次ゼミナール（15年度生～）		4.50	0.15								
卒業特別ゼミナールu		22.50	0.75								
臨床薬学総合演習（15年度生～）		4.50	0.15								
授業担当時間の合計			199.50	6.65							
薬学科	講師						生命薬学実習Ⅱ（衛生・微生物）（15～）	◎	67.50	2.25	
							食品衛生学演習（15年度生～）		21.00	0.70	
							薬学への招待（15年度生～）		16.50	0.55	
							薬学対話演習（15年度生～）		12.00	0.40	
							からだの構造と機能（＝人体の構造と機能）		7.50	0.25	
							衛生薬学演習（15年度生～）		7.50	0.25	
							健康と衛生（＝健康と食品）		7.50	0.25	
							コラボレーション学修1（いのちとは？）		6.00	0.20	
							卒業特別ゼミナールk		22.50	0.75	
							初年次ゼミナール（15年度生～）		4.50	0.15	
							授業担当時間の合計			172.50	5.75
							薬学科	講師 （実務）			
薬物治療学Ⅱ（15年度生～）		22.50	0.75								
薬学への招待（15年度生～）		16.50	0.55								
薬学対話演習（15年度生～）		10.50	0.35								
医学一般と薬理の知識		7.50	0.25								
基礎薬学英語（15年度生～）		7.50	0.25								
健康と栄養		7.50	0.25								
初年次ゼミナール（15年度生～）		4.50	0.15								
臨床コミュニケーション演習（15～）		4.50	0.15								
情報リテラシー（15年度生～）		3.00	0.10								
薬物治療学Ⅰ（15年度生～）		1.50	0.05								
薬物治療学演習（15年度生～）		1.50	0.05								
卒業特別ゼミナールp		22.50	0.75								
薬理学Ⅱ（15年度生～）		1.50	0.05								
授業担当時間の合計			178.50	5.95							
薬学科	講師 （実務）						実務実習事前学習（15年度生～）	◎	90.00	3.00	
							調剤学（15年度生～）		22.50	0.75	
							臨床検査と薬の知識		22.50	0.75	
							基礎薬学英語（15年度生～）		7.50	0.25	
							薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25	
							臨床コミュニケーション演習（15～）		6.00	0.20	
							処方解析学Ⅰ（15年度生～）		4.50	0.15	
							初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10	
							卒業特別講義a（15年度生～）		3.00	0.10	
							卒業特別ゼミナールs		22.50	0.75	
							臨床薬学総合演習（15年度生～）		3.00	0.10	
							授業担当時間の合計			192.00	6.40

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当たり授業時間 ⁵⁾								
薬学科	助教						生命薬学実習Ⅰ(生化学・免疫学)(15～)	◎	67.50	2.25							
							薬学への招待(15年度生～)		16.50	0.55							
							薬学対話演習(15年度生～)		9.00	0.30							
							サイエンスコミュニケーション(15～)		7.50	0.25							
							健康と栄養		7.50	0.25							
							疾病機構解析学特論	院	6.00	0.20							
							初年次ゼミナール(15年度生～)		4.50	0.15							
							生化学Ⅰ(15年度生～)		4.50	0.15							
							生化学Ⅱ(15年度生～)		4.50	0.15							
							病態生化学(15年度生～)		4.50	0.15							
							卒業特別ゼミナールg		22.50	0.75							
							生物系薬学演習(15年度生～)		1.50	0.05							
							授業担当時間の合計		156.00	5.20							
							薬学科	助教						医療薬学実習(薬理・薬剤)(15～)	◎	67.50	2.25
薬学への招待(15年度生～)		16.50	0.55														
薬学対話演習(15年度生～)		10.50	0.35														
医学一般と薬理の知識		7.50	0.25														
臨床コミュニケーション演習(15～)		6.00	0.20														
初年次ゼミナール(15年度生～)		4.50	0.15														
薬理学Ⅰ(15年度生～)		4.50	0.15														
薬理学演習(15年度生～)		4.50	0.15														
卒業特別ゼミナールo		22.50	0.75														
免疫薬理学(15年度生～)		3.00	0.10														
授業担当時間の合計		147.00	4.90														
薬学科	助教													基礎薬学実習(物理系・化学系)(15～)	◎	67.50	2.25
														薬学への招待(15年度生～)		16.50	0.15
														薬学対話演習(15年度生～)		10.50	0.15
							サイエンスコミュニケーション(15～)		7.50	0.15							
							健康と衛生(＝健康と食品)		7.50	0.15							
							医薬品分析化学(15年度生～)		4.50	0.15							
							初年次ゼミナール(15年度生～)		4.50	0.15							
							臨床分析技術(15年度生～)		4.50	0.15							
							リメディアルサイエンス(15年度生～)		1.50	0.05							
							卒業特別ゼミナールa		22.50	0.75							
							卒業特別講義a(15年度生～)		1.50	0.05							
							授業担当時間の合計		148.50	4.15							
							薬学科	助教						実務実習事前学習(15年度生～)	◎	90.00	3.00
														臨床コミュニケーション演習(15～)		15.00	0.50
薬学への招待(15年度生～)		7.50	0.25														
処方解析学Ⅰ(15年度生～)		6.00	0.20														
臨床薬学総合演習(15年度生～)		4.50	0.15														
初年次ゼミナール(15年度生～)		3.00	0.10														
専門薬剤師概論Ⅱ(15年度生～)		3.00	0.10														
卒業特別講義a(15年度生～)		1.50	0.05														
授業担当時間の合計		130.50	4.35														
薬学科	助教 (実務)													医療薬学実習(薬理・薬剤)(15～)	◎	67.50	2.25
							薬剤学演習(15年度生～)		10.50	0.35							
							基礎数学演習(15年度生～)		9.00	0.30							
							薬学への招待(15年度生～)		7.50	0.25							
							リメディアルサイエンス(15年度生～)		4.50	0.15							
							初年次ゼミナール(15年度生～)		3.00	0.10							
							授業担当時間の合計		102.00	3.40							
薬学科	助教						基礎薬学実習(物理系・化学系)(15～)	◎	67.50	2.25							
							薬学への招待(15年度生～)		16.50	0.55							
							薬学対話演習(15年度生～)		9.00	0.30							
							サイエンスコミュニケーション(15～)		7.50	0.25							
							医学一般と薬理の知識		7.50	0.25							
							初年次ゼミナール(15年度生～)		4.50	0.15							
							情報リテラシー(15年度生～)		4.50	0.15							
							臨床コミュニケーション演習(15～)		4.50	0.15							
							卒業特別講義a(15年度生～)		3.00	0.10							
							リメディアルサイエンス(15年度生～)		1.50	0.05							
							卒業特別ゼミナールb		22.50	0.75							
							生体薬物情報解析学特論	院	1.50	0.05							
							授業担当時間の合計		150.00	5.00							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏 名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した 週当たり授業時間 ⁵⁾	
薬学科	助教 (実務)						実務実習事前学習（15年度生～）	◎	90.00	3.00
							薬学への招待（15年度生～）		7.50	0.25
							初年次ゼミナール（15年度生～）		3.00	0.10
							卒業特別ゼミナールt		22.50	0.75
							臨床薬学総合演習（15年度生～）		1.50	0.05
							授業担当時間の合計		124.50	4.15
薬学科	助教 (実務)						医療薬学実習（薬理・薬剤）（15～）	◎	67.50	2.25
							薬学への招待（15年度生～）		16.50	0.55
							薬学対話演習（15年度生～）		10.50	0.35
							基礎数学演習（15年度生～）		9.00	0.30
							初年次ゼミナール（15年度生～）		4.50	0.15
							人体構成学Ⅰ（15年度生～）		1.50	0.05
							人体構成学Ⅱ（15年度生～）		1.50	0.05
							卒業特別ゼミナールn		22.50	0.75
							病態生理学Ⅱ（15年度生～）		1.50	0.05
							授業担当時間の合計		135.00	4.50

- 1) 薬学科 (6年制) 専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は (兼任学科名) を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に (実務) と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目 (兼任学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む) を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。
※講義科目は時間割から計算される実際の時間数 (1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間) を記入します。
※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
※実習科目では、同一科目を複数教員 (例えば、教授1名と助教、助手2名) が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当り授業時間」には、総授業時間を「30」 (授業が実施される1年間の基準週数) で除した値を記入してください。
開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

(基礎資料 8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

4年生の在籍学生数	54 名
5 年生の在籍学生数	84 名
6 年生の在籍学生数	108 名

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m ²)
1	応用分析化学	3	4	7	8	19	109.8
2	薬品物理化学	2	2	3	4	9	110.8
3	創薬合成化学	1	0	0	4	4	45.4
4	生薬学	1	2	0	0	2	64.4
5	医薬品合成化学	1	2	3	4	9	65.4
6	医薬品構造解析学	1	2	3	4	9	45.4
7	生化学	3	4	6	8	18	109.8
8	分子臨床診断学	2	2	3	4	9	48.5
9	生体分子化学	1	1	3	4	8	45.4
10	分子生物学	3	5	6	8	19	155.2
11	公衆衛生学	4	5	9	12	26	235.8
12	保健衛生化学	1	0	2	4	6	45.4
13	病態解析学	1	2	4	3	9	57.0
14	人体構成学	2	2	4	4	10	74.9
15	薬効解析学	2	2	3	4	9	109.8
16	生体情報学	3	4	7	8	19	176.2
17	生物薬剤学	1	0	3	5	8	45.4
18	薬物動態学	2	2	0	0	2	65.4
19	代謝毒性学	1	1	3	4	8	45.4
20	薬物治療学	2	1	0	0	1	109.8
21	臨床薬学	2	4	6	4	14	110.8
22	医療薬学	3	3	6	8	17	109.8
23	薬物療法設計学	2	4	3	4	11	92.5
合 計		44	54	84	108	246	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
- 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
- 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。
- 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 応用分析化学	職名 教授	氏名 片岡 洋行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
形成的評価を測る小テストと課題、授業に対する質問対応と成績開示		2017年4月～	毎回の授業で小テストを行い、理解度をチェックするとともに、復習のために課題を与えてレポート提出させている。授業に対する質問は、随時メールや直接対面で受け付け、丁寧に説明している。試験成績は、答案用紙を直接開示して確認させている。
コミュニケーションカード、マルチメディア機器を用いた授業		2017年4月～	コミュニケーションカードに毎回の授業の概要や質問を書かせ、次回の授業で回答している。オンラインでオンデマンドビデオを作成、配信するとともに、ライブ授業を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
『薬学分析化学』第2版、萩中淳・片岡洋行・四宮一総編（廣川書店）（共著）		2017年3月1日	錯体・キレート生成平衡（p.56-69）、キレート滴定（p.168-179）、付表（p.273-288）、（全41ページ担当）、全体編集
『わかりやすい機器分析学』改訂第4版、片岡洋行・四宮一総編（廣川書店）（共著）		2018年3月20日	質量分析法（p.129-154）、センサーとドライケミストリー（p.348-356）、画像診断（p.357-392）、（全70ページ担当）、全体編集
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
FD研修、講演会への参加		2017年4月～	毎年開催される、全学及び薬学部主催のFD研修会・講演会に参加している。
FSD研修会主催		2018年3月12日	前橋国際大学学長 大森昭生先生をお招きし、FSD研修会を開催した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Sample Preparation for Liquid Chromatography, in Handbooks in Separation Science: Liquid Chromatography 2 nd Edn, Edited by S. Fanali, P.R. Haddad, C.F. Poole, M.-L. Riekkola	単著	2017年6月	Handbooks in Separation Science: Liquid Chromatography 2 nd Edn, Vol. 2, 1-37. (Elsevier).
Simultaneous analysis of multiple urinary biomarkers for the evaluation of oxidative stress by automated online in-tube solid-phase microextraction coupled with negative/positive ion-switching mode liquid chromatography-tandem mass spectrometry.	共著	2018年7月	J. Sep. Sci., 41: 2743-2749 (Wiley)
Pharmaceutical Analysis/Sample Preparation, in Encyclopedia of Analytical Science 3 rd Edn, Edited by P. Worsfold, A. Townshend, C. Poole, M. Miró	単著	2019年2月	Encyclopedia of Analytical Science 3 rd Edn, Vol. 8, 231-255. (Elsevier).
A sensitive method for the determination of tobacco-specific nitrosamines in main- and side-stream smoke samples by online in-tube solid-phase microextraction coupled with liquid chromatography-tandem mass spectrometry.	共著	2019年10月	Anal. Chim. Acta, 1075: 98-105. (Elsevier)
In-tube solid-phase microextraction: Current trends and future perspectives.	単著	2021年1月	J. Chromatogr. A, 1636: 461787. (Elsevier)

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
アミノ酸及びタンパク質の糖化モデル反応によるAGEs生成のLC-MS/MS分析	2021年5月	第81回分析化学討論会（山形市）
受動喫煙による毛髪中ニコチン及びコチニンレベルとその曝露源の解析	2021年6月	第29回環境化学討論会（大阪市）
インチューブSPME/LC-MS/MSによる硫酸化ステロイド代謝物の高感度分析法の開発	2021年9月	日本分析化学会第70年会（神戸市）
医薬品に混入したニトロソアミン類のインチューブSPME/LC-MS/MS法による分析	2021年9月	日本分析化学会第70年会（神戸市）
オンラインインチューブSPME/LC-MS/MSによるステロイドホルモン類の高感度分析法の開発	2021年11月	第32回クロマトグラフィー科学会議（野田市）
オンラインインチューブSPME/LC-MS/MS法によるタバコ煙曝露バイオマーカーとしてのニコチン及び代謝物の高感度分析	2022年3月	日本薬学会第142年会（名古屋）
ポラリティースイッチングLC-MS/MSに基づくストレス応答ステロイドホルモン類のオンライン自動分析システムの開発	2022年3月	日本薬学会第142年会（名古屋）
ポラリティースイッチングLC-MS/MSによるストレス関連カテコールアミン及び代謝物の高感度一斉分析法の開発	2022年3月	日本薬学会第142年会（名古屋）
リラクゼーションバイオマーカーとしてのオキシトシン、ドーパミン、セロトニン及び代謝物のLC-MS/MSによる高感度同時分析法の開発	2022年3月	日本薬学会第142年会（名古屋）
LC-MS/MSによる食品中のルテオリン及びアピゲニンの高感度自動分析	2022年3月	日本薬学会第142年会（名古屋）
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2003年4月～現在	薬学教育協議会 分析化学教科検討委員	
2009年4月～現在	Editorial Advisory Board of Analytica Chimica Acta (Elsevier) IF: 6.558	
2011年4月～現在	日本分析化学会中国四国支部幹事	
2011年4月～現在	おかやまバイオアクティブ研究会幹事	
2011年4月～現在	クロマトグラフィー科学会評議員、Editorial Board of Chromatography	
2013年3月～2020年3月	薬学教育評価機構 評価委員	
2015年4月～現在	岡山県 薬事審議会委員・部会長、2021年度～副会長	
2015年4月～2020年3月	国際化を進める岡山中央協議会 理事	
2015年4月～2020年3月	日本私立大学協会 中国四国支部評議員	
2015年10月～2018年3月	Permanent Contributing Editor in Trends in Analytical Chemistry (Elsevier) IF: 12.296	
2016年4月～2018年3月	大学コンソーシアム岡山 第六期会長	
2016年4月～2018年3月	岡山マラソン実行委員会 大学コンソーシアム岡山代表委員	
2016年4月～2018年3月	岡山芸術交流実行委員会委員	
2016年3月～2020年3月	日本医師会認定医療秘書養成運営委員会 副委員長	
2016年4月～2020年3月	岡山県私立短期大学協会 副会長（2016-2017）、会長（2018-2019）	
2016年4月～2020年3月	日本私立短期大学協会 常任理事（2018-2019）・中四国支部監事（2016-2017）、副会長（2018-2019）	
2018年5月～現在	Editorial Board of Journal of Chromatography A (Elsevier) IF: 4.759	
2018年10月～現在	岡山県後発医薬品の安心使用のための協議会 会長	
2018年11月～現在	Academic Editor of Molecules (MDPI) IF: 4.411	
2019年6月	第26回クロマトグラフィーシンポジウム開催（実行委員長）	
2020年4月～現在	大学基準協会 大学評価分科会委員	
2020年12月～現在	岡山県立大学保健福祉学部外部評価委員	
2021年6月～現在	日本分析化学会第71年会（2022年9月開催）副実行委員長	

【注】 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 創薬合成化学	職名 教授	氏名 鈴木 利典
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 小テストの実施		担当する「無機化学」と「有機薬化学Ⅰ」の毎時間の授業で「小テスト」を実施した。内容は前回授業の重要箇所の振り返りである。	
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Uric acid as a photosensitizer in the reaction of deoxyribonucleosides with UV light of wavelength longer than 300 nm: Identification of products from 2'-deoxycytidine.	共著	2021年	Chem. Pharm. Bull. 69, 1067-1074
Reactions of methotrexate with hypobromous acid and hypochlorous acid.	共著	2019年	Chem. Pharm. Bull. 67, 1250-1254
Reactions of rebamipide with hypobromous acid.	共著	2019年	Chem. Pharm. Bull. 67, 1164-1167
Effects of urea on the reactions of nucleosides with hypobromous acid.	共著	2019年	Chem. Pharm. Bull. 67, 707-712
Salicylic acid as a photosensitizer for thymidine dimerization induced by UV.	共著	2019年	Chem. Pharm. Bull. 67, 130-134
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
尿酸およびサリチル酸存在下のヌクレオシドのUV反応における共存化合物の影響		2021年3月	日本薬学会第141年会
尿酸存在下でのUV照射におけるヌクレオシドの反応生成物の同定		2021年3月	日本薬学会第141年会
ヌクレオシドのUV反応における尿酸の光増感作用		2021年3月	日本薬学会第141年会
ミエロペルオキシダーゼによるフロセミドの反応		2021年3月	日本薬学会第141年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年7月～2019年7月		岡山県薬剤師会主催による毒物劇物取扱者試験事前講習会講師	

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬効解析学	職名 教授	氏名 見尾 光庸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
<p>1 教育内容・方法の工夫 講義のストリーミング配信ならびにアーカイブ化</p> <p>全学共通初年次教育の立ち上げと運営</p> <p>LMSによる学生の理解度の把握と振り返りの促し</p>	<p>2012年4月～</p> <p>2018年4月～</p> <p>2016年4月～</p>	<p>毎回の授業（薬理学Ⅰ、薬理学演習、免疫薬理学）は、2012年より対面で実施する際にもストリーミング配信するとともに、クラウドサーバーにアーカイブすることにより、授業の復習、次年度受講者の予習、欠席者の自宅での視聴に供している。2017年度まではサーバーとしてUstreamを使用していたが、規約変更により、2018年度からはYoutubrを使用している。コロナ禍以前よりこのシステムを確立していたことから、コロナ禍におけるオンライン授業への対応も無理なく行えた。</p> <p>就実大学教育開発センター長として、就実大学における全学共通初年次教育科目「スタートアップ就実」を立ち上げ、就実大学の全1年生約600人を対象として、自校教育、人権教育、研究倫理教育、キャリア教育、情報リテラシー教育を実施している。全ての学部の教員に協力を要請し、運営を行っている。グループワークなどのアクティブラーニングを行う場合には、すべての学部・学科の学生グループを構成するように配慮することにより、学部・学科を超えたつながりが授業の中から生まれるようにしている。</p> <p>担当する授業において、毎回の授業後に、LMSの機能を用いて、学生自身にとってその授業の中で最も重要と感じたポイントを書かせるようにしている。学生自身にとって大切と感じたことを書かせることで、授業の振り返りを促すとともに、学生の理解度把握に役立ててている。</p>	
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 新しい疾患薬理学（岩崎・徳山編、南江堂）</p> <p>臨床薬学テキストシリーズ〔薬理・病態・薬物治療〕呼吸器／免疫・炎症・アレルギー／骨・関節（乾監修、赤池・稲垣・河合編、中山書店）</p> <p>スタートアップ就実テキスト（就実大学編）</p>	<p>2018年3月</p> <p>2020年9月</p> <p>2018年4月～</p>	<p>「免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と治療薬」の章を担当。炎症性疾患、アレルギー疾患、自己免疫疾患、関節リウマチ、臓器特異的自己免疫疾患、骨粗鬆症、変形性関節炎の病態について解説し、それぞれに使用する治療薬について解説した。また、臓器移植に用いられる免疫抑制薬について解説を加えた。なお、本書は、出版以降毎年1回、新規医薬品についてホームページより情報提供を行っている。</p> <p>血管炎症候群、混合性結合組織病、ベーチェット病について、病態生理に基づく治療方針と治療薬について解説を行った。</p> <p>就実大学教育開発センター長として、就実大学における全学共通初年次教育科目「スタートアップ就実」に使用する教科書の編集を行うとともに、自校教育ならびに研究倫理教育に関して執筆を行った。</p>	

クラス担任ハンドブック第3版（就実大学編）	2021年2月	就実大学教育開発センター長として、全学のクラス担任の教員が適切に担任としての責務を遂行できるよう、学内の関係部署と協力して、担任教員に必要な情報をハンドブックとしてまとめた。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 Ustream, Youtubeを用いた授業のネット配信（就実大学FD研修会講師）	2018年2月	就実大学FD研修会の講師として、授業をストリーミング配信ならびにWebアーカイブに保存して配信することで、授業の復習や欠席した学生の補習として役立てる方法について解説した。	
オンライン授業を行う趣旨と著作権の説明（就実大学学内向けe-learningサポート）	2020年4月	新型コロナウイルス感染症の拡大により、全学的にオンライン授業を実施することになったため、副学長（教育担当）として、オンライン授業の趣旨説明と、著作権に配慮した教材の使用について、解説を行った。	
改正著作権法35条の実際の運用について（就実大学学内向けe-learningサポート）	2020年4月	オンライン授業を実施するにあたり、著作物を用いた公衆配信に当たる行為が想定されたことから、副学長（教育担当）として、改正著作権法35条において許容されている著作物の使用と、禁じられていることを中心に、解説を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 授業評価アンケートの実施	2017年4月～	副学長（教育担当）として、本学の授業評価アンケートの実施に対して責任をもって行っている。	
前期オンライン授業に関するアンケート調査とFD研修会における報告	2020年5月及び 2020年7月～8月	全学生を対象として、新型コロナウイルス感染症によって全面的にオンライン授業となったことの影響についてアンケート調査を行った。調査は、オンライン授業開始直後の5月と、前期定期試験の時期の2回実施した。また、この結果について、FD研修会において全教職員に対して報告し、フィードバックを行った。	
第2回学生生活実態調査の実施	2020年12月～ 2021年1月	就実大学の全学生を対象に4年に1回実施することになっている学生生活実態調査を実施した。前回は紙ベースの調査であったが、今回は新型コロナウイルス感染症の影響も考慮し、オンラインで実施した。	
2020年度学生生活実態調査の概略（就実大学FD研修会講師）	2021年7月	2020年度に実施した第2回学生生活実態調査の結果について、その概略、大学全体として対応すべき内容、学部・学科ごとに対応すべき内容について、FD研修会の講師として報告を行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）The Challenge of New Therapeutic Approaches for Unmet Therapeutic Needs. Rosa AC, Mio M, Andreadou I, Sumbayev VV eds.	共著	2020年12月	Frontiers Media SA, Lausanne
（論文）L-Asparaginase-induced allergy in mice: in vivo sensitization and in vitro activation of RBL-2H3 cells. Mio M, Nogami-Hara A, Yabuki K et al.	共著	2017年7月	Inflamm Res, 66, S16
（論文）Intracranial self-stimulation and immobilization had different effects on neurite extension and the p38 MAPK pathway in PC12m3 cells. Gomita Y, Esumi S, Mio M et al	共著	2017年12月	Life Sci, 190, 78-83
（論文）Influence of cyclophosphamide on L-Asparaginase-induced allergy in animal model. Nogami-Hara A, Shimada A, Mio M	共著	2019年12月	Blood, 114(suppl 1), 5119

(論文) New approaches to non-invasive diagnosis and treatment strategy for drug allergies. Nogami-Hara A and Mio M	共著	2021年1月	Medical Science Digest, 47, 58-59
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
L-アスパラギナーゼアレルギーマウス脾臓細胞のサイトカイン産生に対するシクロホスファミドの影響. 森 映美加, 原 (野上) 愛, 見尾 光庸 et al.		2021年11月	第60回日本薬学会中国四国支部学術大会, 松山 (オンライン開催)
L-アスパラギナーゼアレルギーモデルにおける脾細胞サイトカインの変動. 茶畑 沙央里, 原 (野上) 愛, 見尾 光庸 et al.		2021年11月	第60回日本薬学会中国四国支部学術大会, 松山 (オンライン開催)
Introduction to Low histamine diets: facts and controversies. Mitsunobu Mio and Katerina Tiligada		2021年11月	Third European Histamine Research Society Webinar 2021-2022, online
Risk management of L-Asparaginase-induced allergy: focusing on the influence of concomitant drugs. Ai Nogami-Hara, Akira Shimada, Mitsunobu Mio et al		2021年11月	第63回日本小児血液・がん学会学術集会, 大阪 (オンライン開催)
L-アスパラギナーゼアレルギーマウス脾臓細胞のサイトカイン産生に対するシクロホスファミドの影響. 見尾光庸, 原 (野上) 愛, 嶋田明 et al.		2022年1月	第23回日本ヒスタミン学会, 京都
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったものの数件)			
2007年10月～現在	日本ヒスタミン学会幹事、事務局長		
2015年4月～現在	大学コンソーシアム岡山運営委員、将来構想委員		
2018年5月～現在	European Histamine Research Society, Council Member		
2019年1月～現在	Frontiers of Pharmacology, Guest Associate Editor		
2020年1月～現在	日本薬理学会エデュケーター		
2021年12月～現在	Frontiers in Drug Discovery, Associate Editor		

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 病態解析学	職名 教授	氏名 小山 真也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 病態薬理実習課題のオンライン化	2020年10月	医療薬学実習(薬理)において「循環器生理」を担当し、コロナ禍に対応するための「オンラインで血圧制御機構を理解する課題」を作成して学生に提供した。	
病態薬理実習課題のオンライン化	2021年10月	医療薬学実習(薬理)において、対面実習とオンデマンド教材の複合化を図り、コロナ禍において効率的な実習の実施に取り組んだ。	
2 作成した教科書、教材、参考書 オンデマンド型教材の提供	2020年4月～	コロナ禍において、対面講義では得られない利点を活かしたオンデマンド講義・復習課題の提供を目指して、教材提供に取り組んだ。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 医療薬学実習(薬理) (令和3年度) 実習書(実習E 循環薬理 の部分)	2021年10月	初期から本実習に関与してきているが、コロナ禍に合わせて実習のオンライン化を試み、それに対応した実習内容となるよう、実習書を改編した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 学修支援委員として、要指導学生への対応に関与	2017年4月～	学修支援委員として、学修に困難を抱える学生の指導に関わってきた。2019年度からは、学修支援センターに関与する教員として、薬学教育の中で基礎医学的領域を中心に学生への指導に注力してきている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

[注] 1 対象期限: 2017年4月—2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

（基礎資料 9） 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生物薬剤学	職名 教授	氏名 丹羽 俊朗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 「薬の生体内運命」 改訂7版		2017年3月13日	薬の薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）を纏めた生物薬剤学の教科書（共著）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 日本TDM学会 第58回TDMセミナー（岐阜開催）招待講演		2020年2月22日	薬物動態及びTDMの基礎及び最新情報を現場薬剤師に講演した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Effect of genetic polymorphism on the inhibition of dopamine formation from p-tyramine catalyzed by brain cytochrome P450 2D6.	共著	2017年1月	Arch Biochem Biophys. vol 620, No. 1
Inhibitory and stimulatory effects of selective serotonin reuptake inhibitors on cytochrome P450 2D6-mediated dopamine formation from p-tyramine.	共著	2019年11月	J Pharm Pharm Sci. vol 22 No. 1
Comparison of steroid hormone hydroxylation mediated by cytochrome P450 3A subfamilies.	共著	2020年3月	Arch Biochem Biophys. vol 682, 108283
Comparison of the stimulatory and inhibitory effects of steroid hormones and α -naphthoflavone on steroid hormone hydroxylation catalyzed by human cytochrome P450 3A subfamilies.	共著	2021年4月	Biol Pharm Bull. vol 44 No. 4
Role of amino acids at positions 34, 296, and 486 of cytochrome P450 2D6 in the stimulatory and inhibitory effects of psychotropic agents on dopamine formation from p-tyramine.	共著	2021年11月	Xenobiotica, vol 72 No. 11
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Effect of CYP2D6 polymorphism on inhibition and stimulation of dopamine formation from p-tyramine by psychotropic agents.		2021年11月	日本薬物動態学会 第36年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2018年4月～2021年3月	日本薬学会学術誌編集委員		
2005年4月～現在	日本薬物動態学会代議員		
2014年2月～現在	日本薬学会中国四国支部大学選出幹事		
2002年1月～現在	Xenobiotica 編集委員		

〔注〕 1 対象期限：2017年4月—2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 分子臨床診断学	職名 教授	氏名 中西 徹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
遺伝子の基礎と最新の医療に関する専門的解説、国試対策も含めた授業		2017年4月14日-	遺伝子工学(3年次前期)
放射性医薬品、放射線治療等に関する解説、国試対策も含めた授業		2017年4月10日-	医療放射化学(3年次前期)
放射性同位元素の安全取扱及び放射性医薬品、核医学診断等に関する基礎を実習で学ぶ		2017年9月25日-	放射化学実習
テキストに基づいた薬学英語知識の習得、英文和訳及び文法的理解		2017年10月4日-	基礎薬学英語
2 作成した教科書、教材、参考書			
「薬学領域の放射化学」廣川書店		2019年3月28日	廣川書店より刊行(第2版)、編集委員長
「遺伝子工学」廣川書店		2017年4月15日	廣川諸点より刊行、編集委員長
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
CLIL promotes globalization of university education		2018年3月	All Shujitsu International Music Festival
「やり抜く力」グリットを育成するためのアクティブラーニングの活用と実践		2018年3月	大学教育研究フォーラム、京都大学高等教育研究開発推進センター
グリットを育成するための教育実践方法		2018年4月	大阪医療福祉専門学校(講演)
教科言語統合型学習CLILによる大学教育グローバル化の推進		2017年3月	大学教育改革フォーラムin東海 金城大学
オーストラリア薬学海外研修の成果報告		2021年3月26日	日本薬学会第141年会 オンライン
4 その他教育活動上特記すべき事項			
職場体験学習		2017年5月~	中学生の薬学学習体験行事、再生医療の解説、細胞培養体験
キッズフェスティバルin京山祭		2020年12月	岡山県生涯学習センター主催、ブース展示、コロナウイルスの解説、模型の作製
人形峠原子力センター見学会		2020年9月	岡山県環境文化部主催、県委員会委員として引率、学生の放射線理解を深める
就実サマープログラム		2019年8月18日-25日	国際交流センター主催、海外提携校から学生を招き本学学生と交流、引率
製薬企業見学会		2020年2月17, 18日	岡山大学、就実大学共催、学生の製薬企業見学会、引率
OSCE外部評価委員		2021年11月28日	岡山大学薬学部OSCE、岡山大学鹿田キャンパスにて実施
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(原著) Identification of Specific Protein Markers of Rheumatoid Arthritis in Synovial Fluid and Serum	共著	2018年	J Hard Tissue
(原著) Construction of an expression vector containing mouse-rat chimeric genes encoding a therapeutic antibody against CD81	共著	2019年	J Hard Tissue
(原著) The tetraspanin CD81 mediates the growth and metastases of human osteosarcoma	共著	2019年	Cell Oncol
(原著) Functional evaluation of the ethanol extracts from Rosmarinus officinalis L. (rosemary)	共著	2021年	J Hard Tissue
(著書) 理系、とりわけ生物学から見たリベラルアーツ	単著	2019年6月25日	主体的学び第6号 東信堂
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
大学と地域社会との科学を通じた共生を目指して		2021年12月2日	第44回日本分子生物学会年会フォーラム(オーガナイザー)

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近５年間に携わったもの数件）	
2017年4月～	岡山県環境放射線等測定技術委員会委員
2017年4月～	日本硬組織再生生物学会理事
2017年4月～	日本食品衛生学会理事
2017年4月～	日本軟骨代謝学会評議員
2017年4月～	日本生化学会評議員
2017年4月～	おかやまバイオアクティブ研究会役員・企画委員
2018年7月～	ASEAN-JAPANゲノム医療研究推進国際会議 代表
2017年4月～	主体的学び研究所 フェロー
2018年4月～	Texcell Japan社 Research Advisor
2017年4月～	日本パストール財団会員

[注] 1 対象期限：2017年4月—2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近５年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 分子生物学	職名 教授	氏名 塩田 澄子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 毎回の小テスト実施によるSB0sの到達度の確認		2017年4月～	毎回、講義開始時10分で前回の講義のSB0sの到達度を確認するための小テストを実施する。 (2021年度は第4波の影響によりオンラインになったことから小テストの実施は5回に留まった)
講義におけるe-learningの活用		2017年4月～	WEBClass上でCBT問題を作成し、講義後1週間アクセスできるようにし、課題としている。小テストの解答もアップして、自己採点できるようにしている。
各種学会、ICD講習会からの情報およびICT活動の実践を活用した医療現場の最新情報を伝える講義		2018年4月～	感染症関連の各種学会やICD (infection control doctor) 講習会で得た最新の情報を授業内容に加えている。
ビデオによる実験手技のデモンストレーションとプロトコルの活用		2020年4月～	実験の手順をビデオ撮影し、実習講義の際に見せている。手順がよくわかり失敗が少ない。事前にプロトコルを書いて実験に臨むがその意義や書き方を指導する。2020年度はオンライン実習となったため撮影をし直し編集した。
小テスト及び中間試験による形成的評価と学業不振者への面談によるフィードバック		2021年度	小テストに質問欄を設け、回答やコメントを記入し返却することで、学生との対話を図ってきた。今年度から中間試験結果で基準点に達していない学生と面談し、学習方法について指導することでフィードバックをしている。
授業評価		2021年前期	担当科目の総合的な評価(1～4)は「薬学への招待」では3.68、「臨床微生物学」では3.77、「生命薬学実習2」は3.22であった。実習はオンラインになったことへの不満が自由記述に多く見られた。
2 作成した教科書、教材、参考書 スタンダード薬学シリーズII6 医療薬学 IV. 薬理・病態・薬物治療(4) 日本薬学会編(東京化学同人)		2017年5月	細菌による呼吸器感染症、全身性感染症の薬・病態・治療及び薬剤耐性菌による院内感染対策・予防・病態・治療を解説した。また、抗感染症薬の基礎構造と薬効の関連性についても言及した。
化学療法学一病原微生物・がんと戦う一改訂第2版(南江堂)		2018年2月	第1章微生物感染症総論とウイルス及び寄生虫を除く微生物学各論及び微生物感染症を担当した。
シンプル微生物学改訂第6版(南江堂)		2018年3月	化学療法と細菌感染症治療を共同で担当した。医学生用の教科書のため、本文は基本的な内容で、専門的な内容はAdvanceというコラムで紹介した。
薬学領域の病原微生物学・感染症学・化学療法学改訂第(廣川書店)		2018年3月	細菌の基礎では、遺伝子を担当した。また、細菌による特徴的な疾患の病原因子、病態、診断、治療を詳細にまとめた。
薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム改訂版(羊土社)		2019年11月	「激論! トリアージ」のタイトルで就実大学の対話演習で行われている取組を執筆した。
微生物学～病原微生物と治療薬～改訂第8版(南江堂)		2021年8月	「抗菌薬の働き」を担当し、抗菌薬の特徴、耐性機構及び重要な薬剤耐性菌を解説した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 実務実習に向けた薬学統合演習のトライアルについて(第3回日本薬学教育学会)		2018年9月	患者症例に基づき、問題点を把握し、チームメンバーと協働し、具体的なケア計画を提案する薬学統合演習の成果と課題を結果を発表した。
薬学海外研修の成果報告(第6回日本薬学教育学会)		2021年8月	オーストラリアにおける薬学海外研修における語学力と異文化理解に関する主観的評価を行った結果を共著者が発表した。

研究室訪問体験を通じた研究マインドの涵養 ―就実大学薬学部における探究心を醸成する初年次教育の実践―（第6回日本薬学会教育学会）	2021年8月21日	初年次の研究室訪問は満足度が高く、研究マインドの醸成を行うための有効な教育手法の一つとなっていることを共著者が発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 入学前後教育を担当	2021年4月～7月 2021年12月	初年次教育で薬学部の教育研究の目的、3ポリシー等の説明を行った。6年間の教育を見通すため、履修要覧を活用した履修表作成のためのSGDを指導した。入学前セミナーも担当した。	
薬学部・FD研修会 演題①認証評価に向けて、本学において推進する内部質保証について 演題②前期オンライン授業に対するアンケート結果の活用	2021年2月15日	大学の認証評価に向けて、大学が取り組む内部質保証の進捗状況を把握、同時に審査を受ける薬学部で行うべきことを確認した。オンライン授業のアンケート結果は改善につなげることとした。	
全学HD研修会 演題①「適正な成績評価と成績開示について」演題②「成績評価ガイドラインについて」	2021年6月30日	学修成果のアセスメントに関する方針を具体化し、成績評価の運用を厳格化することによって、教育の質保証を行い、各科目レベルや教育プログラムの改善を図ることを共有した。	
薬学部・FD研修会 活動性を高める授業づくり～協同教育のすすめ～	2021年12月16日	久留米大学文学部安永悟教授によるアクティブラーニングの手法である協働教育に関する講演を拝聴し、実践を行った。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Complete Genome Sequence of Systemically Disseminated Sequence Type 8 Staphylococcal Cassette Chromosome mec Type IVI Community-Acquired Methicillin-Resistant	共著	2017年5月	Genome Announc. :5 (35)
MRSAの病原因子遺伝子保有状況調査から見出されたリスクファクターをもつMRSAの性状解析	共著	2019年1月	就実大学薬学雑誌第6巻 p50-54
Reduction of benzalkonium chloride-resistant mutants of Pseudomonas aeruginosa PA01 in the absence of benzalkonium chloride	共著	2020年1月	就実大学薬学雑誌第7巻 p28-36
能動的学修能力と問題解決能力の醸成のためのチーム基盤型学習 (TBL) 実施に向けた取り組みとその評価	共著	2020年1月	就実大学薬学雑誌第7巻 p69-75
Isolation and identification of a compound showing anti-Staphylococcal activity	共著	2021年1月	就実大学薬学雑誌第8巻 p70-74
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
デヒドロアピエチン酸による細菌細胞膜損傷作用の解析		2021年10月9日	第74回日本細菌学会中国・四国支部総会
抗菌・抗バイオフィルム形成コーティングの開発		2021年10月9日	第74回日本細菌学会中国・四国支部総会
ポーラスセラミック膜へ消毒剤を担持させた抗ウイルスコーティングの開発		2022年3月25-28日	日本薬学会第142回年会
臨床分離されたメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の分類とバイオフィルム成分の解析		2022年3月25-28日	日本薬学会第142回年会
紫外発光ダイオードによるバイオフィルム形成抑制		2022年3月25-28日	日本薬学会第142回年会
持続的な抗菌効果・抗バイオフィルム形成効果を示すコーティングの開発		2022年3月25-28日	日本薬学会第142回年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2017年4月～現在	日本細菌学会中国四国支部会評議員		
2017年4月～現在	日本薬学会中国四国支部代議員		
2017年4月～2020年3月	日本薬学会全国学生ワークショップ実行委員（2017年度実行委員長）		
2017年4月～現在	岡山市文化財保護審議会委員		
2018年度～2020年度	文部科学省大学設置分科会 専門委員会委員		
2019年度～2021年度	文部科学省薬学教育指導者のためのワークショップ タスクフォース		
2019年4月～現在	岡山市依存・嗜癖問題対策審議会委員		
2019年4月～現在	岡山市社会福祉協議会身体障害者福祉専門分科会委員		
2019年4月～現在	岡山県薬剤師会顧問 2019年4月1日～現在		

〔注〕 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生化学	職名 教授	氏名 坪井 誠二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
前回講義の復習と小テストの実施		2017年～	前回講義の復習と関連する内容の小テストを行い、時間内に解説を行った。
授業評価		2017年～	授業評価において、「毎回復習があったので良かった。」、「大変わかりやすかった。」等の高い評価を受けている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
生命薬学実習Ⅰ 実習書		2017年～	2年後期の実習で使用するテキストを作成した。実験手法、実験原理が効率的に理解出来るよう工夫したものである。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
学生実習におけるルーブリック評価導入の試みと学生の意識調査		2017年	就実大学薬学雑誌, 4, 37-42
薬剤師国家試験問題を活用したアクティブラーニングの構築と実践—就実大学薬学部におけるサイエンスコミュニケーションの実践②—		2018年	第3回日本薬学教育学会
4 その他教育活動上特記すべき事項			
職場体験学習		2017年～	中学生（2年生）を対象として「職場体験学習」を行っている。「研究者体験」及び「薬剤師体験」を実施しており、それぞれ複数の教員が担当している。この「職場体験学習」は2004年より実施しており、現在では5校の中学生に對して行っている。
Open Campus 2017		2017年	オープンラボ 「大腸菌を光らせよう」
サマーサイエンスキャンプ		2018年8月	どうして血液検査で病気がわかるの？—逸脱酵素による疾病診断—
Open Campus 2019		2019年	オープンラボ 「大腸菌を光らせよう」
体験入学 2019		2019年	「酵素の働きを知る」
体験入学 2020		2020年	「酵素の働きを知る」（オンライン）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Hepatoprotective effects of rice-derived peptides against acetaminophen-induced damage in mice	共著	2017年5月	J. Clin. Biochem. Nutr., 60, 115-120
Isolation of activating factors of serotonin N-acetyltransferase from rice peptides.	共著	2018年1月	J. Funct. Foods, 41, 148-154
Protective Effects of Rice Peptide Oryza Peptide-P60 against Oxidative Injury through Activation of Nrf2 Signaling Pathway In Vitro and In Vivo	共著	2020年	ACS Omega, 5, 13096-13107
Hepatoprotective Activity of Yellow Chinese Chive against Acetaminophen-Induced Acute Liver Injury via Nrf2 Signaling Pathway.	共著	2020年8月	J. Nutr. Sci. Vitaminol., 66, 357-363

Isolation of the hemeoxygenase-1 inducer from rice-derived peptide.	共著	2021年11月	J. Clin. Biochem. Nutr., in press
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
黄ニラ抽出物の細胞内グルタチオン上昇作用およびそのメカニズムの解析		2021年5月	日本酸化ストレス学会
米タンパク質加水分解物からの抗酸化酵素発現誘導ペプチドの同定		2021年11月	日本生化学会
黄ニラ抽出物のグルタチオン上昇作用におけるKeap1-Nrf2経路の関与		2021年11月	日本生化学会
黄ニラの細胞内グルタチオン上昇活性成分の同定		2022年3月	日本薬学会
米ぬか由来ペプチドはグルタチオンによるレドックス制御を介して睡眠ホルモン合成酵素を活性化する		2022年3月	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2004年4月～現在	日本生化学会 評議員		
2015年4月～2017年	日本薬学会編集委員		
2017年4月～現在	日本生化学会 代議員		
2017年4月～現在	生化学分野教科担当教員会議 委員		
2017年	日本薬学会中国四国支部 副支部長		
2018年4月～2020年	日本薬学会 代議員		
2018年	日本薬学会中国四国支部 支部長		

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 人体構成学	職名 教授	氏名 洲崎 悦子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 図や写真を多く用いた自作の講義プリントを利用		2017年4月～	自作の講義プリントを中心に、教科書の図を参照しながら、多くの補足事項を板書で説明して、わかりやすい講義を実践している。
e-learning system(WebClass)を用いて、毎回の復習問題を提供		2017年4月～	毎回の講義内容についての復習課題(40～70問程度)をWebClassを用いて提供している。課題は1週間のみ掲示しており、70%以上の得点となるまで繰り返し行うよう指導している。これにより、講義内容の復習と知識の定着を図っている。
医療薬学実習(薬理)において「機能形態」の項目を担当し、組織標本観察を実施		2017年4月～	講義で学んだ人体の構造について実際の標本を観察することで、講義内容の復習と知識の定着を図っている。市販の標本を観察するのみならず、自分達でHE染色した標本を観察し、どの臓器のものであるかをグループで討論しながら同定することも行い、医療系で汎用される染色を体験すると共に顕微鏡レベルでの器官の構造に関する主体的学習を実践している。
授業評価(人体構成学Ⅰ)		2019年9月	授業評価において、「プリントに重要な部分がまとまっているため、理解しやすい」「授業がとてわかりやすく、楽しく授業を受けることができた」「WebClass課題のおかげで復習がしやすかった」というコメントを得ている。学生アンケートの評価点も全体平均より0.18ポイント高い点数を得ている。
オンデマンド型教材の提供		2020年4月～	コロナ禍において、対面とできるだけ変わらない講義を提供したいと考え、通常通りの講義風景を撮影した動画15回分を作製した。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書(翻訳本)の改訂		2017年9月	Structure&Function of the Body 10版(Kevin T. Patton他)の翻訳本を「カラーで学ぶ解剖生理学」(医学書院)として共著で出版していたが、原著の改訂が進んだため、原著15版を翻訳本改訂2版として出版した(4, 5, 6章担当)。自身が担当する講義の教科書としても利用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 「マクロ的実習の体験」を企画・実践		2017年8月	「人体に関する知識基盤の向上を目指した実習の提案」という研究課題で2017～2019年(2020まで1年延長)科研費を得て、薬学部教員と高校理科教員を対象とした人体解剖実習(薬学教員:2泊3日)、人体解剖見学実習(高校教員:1日)を広島大学解剖教育研究施設において企画・実践した。中四国を中心に全国から26名の参加があった。
「ミクロ的実習の体験」を企画・実践		2018年8月	「人体に関する知識基盤の向上を目指した実習の提案」という研究課題で科研費を得て、薬学部教員と高校理科教員を対象とした組織学実習(1日)を就実大学薬学部において企画・実践した。中四国を中心に、全国から12名の参加があった。

ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI (研究成果の社会還元・普及事業) 「よく知っている臓器を顕微鏡で見てみよう！」を企画・実践	2018年8月	「ミクロの実習の体験」で準備したセットを利用して、中学生・高校生を対象とした組織標本観察会(1日)を企画・実施した。中四国を中心に全国から17名の参加があり、楽しい観察会を開催できた。	
「ミクロの実習」を企画・実践	2019年3月	2018年8月に実施した「ミクロの実習の体験」に参加した岡山白陵中・高校の教員から、「大変有益であったので、高校教員を対象とした半日短縮実習を行ってほしい」という依頼を受けて、まずはトライアル的に企画・実践した。岡山県下の公立・私立高校の理科教員13名の参加があった。	
日本生物教育会第74回大会(岡山にて開催)現地研修コース(Ⅰコース)「標本でわくわく～ミクロな人体観察と標本を作ろう！」を企画・実践	2019年8月	2019年3月にトライアル的に行った組織学実習を、日本生物教育会大会後の現地研修として半日コースを企画・実践した。全国大会の参加者の中から北は北海道、南は鹿児島から18名の参加があった。	
全国の薬学部を対象とした「人体に関する教育」に関するアンケートを企画・実践	2019年12月～ 2020年1月	「人体に関する知識基盤の向上を目指した実習の提案」という研究課題で科研費を得た最終年度に、全国の薬学部74大学75学部を対象とした「人体に関する教育」に関するアンケート調査を企画・実施した。約半数の38校から回答を得て、その結果を報告書としてまとめ、回答に協力くださった大学に配布した。(報告書にまとめて配布できたのは、2021年3月)	
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD委員会委員長としてFD研修会を開催	2019年度	11月に学部内教員を講師としてルーブリック評価に関するFD研修会を開催した。2月には立命館大学(当時)山田勉先生を講師として招きパフォーマンス評価に関するFD研修会を開催した。また、12月には、年度末で退職・異動する教員4名の講義を対象とした参観授業を行い、これまでの講義内容を参考に、よい点を継続していく契機とした。	
FD委員会委員長としてFD研修会を開催	2020年度	突然のコロナ禍に対応するため、早期に講義のオンライン化手法に関する学部内研修会を開催した。夏休み期間中には、オンデマンド教材の相互参観も行って、今後の教材作製の向上を図った。また、薬学部認証評価に向けて、本学教育開発センター教員による「認証評価に向けて、本学において推進する内部質保証について」という演題でFD研修会を開催した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)就実大学薬学部生の人体解剖学実習で遭遇した腹部血管の変異について	共著	2017年	就実大学薬学雑誌(4: 54-55)
(論文)Glomerular Hypertrophy and Hyperfiltration in Obesity-Related Diabetic (ob/ob) Mouse.	共著	2017年	Analytical and Quantitative Cytopathology and Histopathology(39: 223-230)
(論文)教員を対象とした解剖学実習—薬学教員と高校理科教員を対象として—	共著	2018年	就実論叢(48: 265-276)
(論文)薬学教員および高校理科教員を対象とした組織学実習	共著	2019年	就実大学薬学雑誌(6: 65-70)
(論文)「人体に関する教育についてのアンケート調査」に関する報告	共著	2021年	就実大学薬学雑誌(9: in press)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
研究室訪問体験を通じた研究マインドの涵養		2021年8月	第6回日本薬学教育学会大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近５年間に携わったものの数件）	
2000年～	日本組織細胞化学会 評議員
2003年～	日本バイオイメーjing学会 評議員、2013年～理事、2021年～副会長
2005年～	日本バイオイメーjing学会 男女共同参画委員会 委員長
2006年～	日本解剖学会 評議員
2010年～	津山洋学資料館 協議会委員
2021～2022年	日本薬学会 代議員

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近５年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬品物理化学	職名 教授	氏名 増田 和文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
e-ラーニングシステムの利用		2017年4月～ 2021年12月	練習問題の解答や採点結果、講義に関する通知をe-ラーニングシステムを使って連絡、公開している。コロナ禍においては講義ビデオを作成し、講義に加え復習にも利用した。
マルチメディア機器を用いた授業		2017年4月～ 2021年12月	講義において、図や写真をスライドで示し、ビデオを見せるなど学生の理解の向上の一助とした。
授業評価		2017年4月～ 2021年12月	授業評価アンケートにおいて、「興味がわいた」「わかりやすかった」などのコメントがあり高評価を得た。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
教務データの処理におけるエクセルVBAの応用（第2報）		2017年4月	就実論叢，第46号，273-284 増田和文，加藤久登，石崎 厚，齋藤啓太，片岡洋行
初年次生の学習意欲を高めるための工夫 ― 6年間の学びを見通すためのグループワーク ―		2017年9月2日	第2回 日本薬学教育学会 塩田澄子，守谷智恵，森山 圭，増田和文，渡辺雅彦，坪井誠二
Google社が提供するwebサービスを利用した学生間ピア評価システムの構築		2020年1月	就実大学薬学雑誌，第8巻，96-102 加藤 久登，増田 和文，山崎 勤，吉川 弥里，山田 陽一，阿藤 寛明，平本 一幸，工藤 季之，末丸 克矢，渡辺 雅彦，塩田 澄子
4 その他教育活動上特記すべき事項なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）Cannabinoids as Potent Inhibitors of Human CYP1 Enzymes, Watanabe K., Yamaori S., Masuda K., Katsu T., Narimatsu S., Yamamoto I.	共著	2017年4月	Academic Press (US), Handbook of Cannabis and Related Pathologies : Biology, Pharmacology, Diagnosis, and Treatment and Pharmacology, ed. by Victor R. Preedy, pp. 813-820.
（論文）Structure-activity relationship of porphyrin- induced photoinactivation with membrane function in bacteria and erythrocytes, H. Kato, K. Komagoe, T. Inoue, K. Masuda, T. Katsu	共著	2018年6月	Photochem. Photobiol. Sci., 17, 954-963.
（論文）Gramicidin S-inspired Antimicrobial Cyclodextrin to Disrupt Gram-negative and Gram-positive Bacterial Membranes, H. Yamamura, K. Isshiki, Y. Fujita, H. Kato, T. Katsu, K. Masuda, K. Osawa, A. Miyagawa	共著	2019年7月	Med. Chem. Comm., 10, 1432-1437

(論文) Improvement of lipid solubility and oral bioavailability of a poorly water- and poorly lipid-soluble drug, rebamipide, by utilizing its counter ion and SNEDDS preparation, Shinya Okawa, Yusuke Sumimoto, <u>Kazufumi Masuda</u> , Ken-ichi Ogawara, Masato Maruyama, Kazutaka Higaki,	共著	2021年1月	European Journal of Pharmaceutical Sciences, 159 , 105721, DOI: 10.1016/j.ejps.2021.105721
(論文) Antibacterial activity of membrane-permeabilizing bactericidal cyclodextrin derivatives, Hatsuo Yamamura, Tatsuya Hagiwara, Yuma Hayashi, Kayo Osawa, Hisato Kato, Takashi Katsu, <u>Kazufumi Masuda</u> , Ayumi Sumino, Hayato Yamashita, Ryo Jinno, Masayuki Abe, and Atsushi Miyagawa	共著	2021年11月	ACS Omega, 6 , 31831–31842, DOI: 10.1021/acsomega.1c04541
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～現在	薬学教育協議会（物理化学系教科担当教員会議）		
2017年12月10日	身近なもので電池を作ってみよう！，科学キッズフェスティバル in 京山祭，岡山県生涯学習センター		
2019年2月24日	身近なもので電池を作ってみよう！，科学キッズフェスティバル in 京山祭，岡山県生涯学習センター		
2019年6月16日	光で遊ぼう ～身の回りにある光るもの～，大学コンソーシアム岡山 日ようび子ども大学 in 京山祭，岡山県生涯学習センター		
2019年12月8日	身近なもので電池を作ってみよう！，科学キッズフェスティバル in 京山祭，岡山県生涯学習センター		
2021年12月12日	身近なもので電池を作ってみよう！，科学キッズフェスティバル in 京山祭，岡山県生涯学習センター		

〔注〕 1 対象期限：2017年4月—2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生体分子化学	職名 教授	氏名 平岡 修
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 授業評価	2021年度	主となる講義「基礎生物学演習」において、総合評価が「どちらかといえば良い」と「良い」と回答してくれた学生の割合は90%であった。	
	2020年度	主となる講義「基礎生物学演習」において、総合評価が「どちらかといえば良い」と「良い」と回答してくれた学生の割合は86.7%であった。	
	2019年度	主となる講義「基礎生物学演習」において、総合評価が3.59であった（全学平均3.46）。	
	2018年度	主となる講義「基礎生物学演習」において、総合評価が3.38であった（全学平均3.36）。	
	2017年度	主となる講義「基礎生物学演習」において、総合評価が3.57であった（全学平均3.42）。	
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
薬物乱用防止教室講師	2021年度	石井中学校、西大寺高校	
	2020年度	石井中学校、西大寺高校	
	2019年度	石井中学校、岡山東商高校、西大寺高校	
	2018年度	石井中学校、岡山東商高校	
	2017年度	石井中学校、岡山東商高校、備前片上高校	
職場体験、薬剤師体験	2018年度	石井中学校	
	2017年度	福田小学校、石井中学校	
アンチドーピング講習会講師	2018年度	おかやま山陽高校	
学校薬剤師	2017～2021年度	石井中学校、岡山東商高校	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Prediction of intrinsically disordered region of Plasmodium falciparum endoplasmic reticulum-resident calcium binding protein, PFERC, The Research Bulletin of Shujitsu University and Shujitsu Junior College	共著	2021年2月	『就実論叢』No. 50 141-152
（論文） Expression and purification of EF-hand endoplasmic reticulum-resident calcium-binding protein from Plasmodium falciparum using the E. coli Lemo21 (DE3) strain	共著	2018年2月	『就実論叢』No. 47 289-297
（論文） Scientific study of ease of removal of tablets from PTP sheet	共著	2017年11月	J Community Pharm Pharm Sci Vol. 9 No. 2, 219-226

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2017年4月～現在	学校薬剤師：石井中学校、岡山東商高校	
2017年4月～現在	薬学共用センターCBT実施委員	
2017年	CBTモニター員：福山大学	
2018年	CBTモニター員：岡山大学	
2017年4月～2020年8月	岡山県薬剤師会アンチ・ドーピング特別委員会委員	
2017年4月～現在	日本アンチ・ドーピング機構認定スポーツファーマシスト	
2017年4月～現在	日本生物工学会、日本薬学会、日本熱帯医学会、日本薬局学会、日本薬剤師会、岡山県薬剤師会、岡山市学校薬剤師会 会員	

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 公衆衛生学	職名 教授	氏名 末丸 克矢
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
資料配布・小テストの導入		2017年4月－ 2021年12月	公衆衛生学、衛生薬学演習、臨床疫学の授業において、講義資料の配布、小テスト等を組み込み、理解の深耕を計り、知識の定着を図った。
公衆衛生学の授業評価		2017～2019年	担当主要科目の公衆衛生学における授業評価は、4段階評価で2017～2019年でそれぞれ3.66、3.71、3.62であった。
2 作成した教科書、教材、参考書			
Powerpoint講義資料等の配布		2017年4月－ 2021年12月	すべての講義においてpowerpoint講義資料の配布を行った。公衆衛生学においては、要点まとめた講義資料を作成・配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
(論文) 専門職養成授業における選択・記述問題による学習評価方法の再評価と妥当性の検討		2017	渡辺雅彦, 阿藤寛明, 末丸克矢, 高木 亮; 就実論叢, 46, 249-262.
(論文) 能動的学修能力と問題解決能力の醸成のためのチーム基盤型学習 (TBL) 実施に向けた取り組みとその評価		2020	加地弘明、山崎 勤、吉川弥里、山田陽一、阿藤寛明、工藤季之、平本一幸、末丸克矢、渡辺雅彦、塩田澄子: 就実大学薬学雑誌 7, 69-75.
(論文) Google 社が提供する web サービスを利用した学生間ピア評価システムの構築		2021	加藤久登, 増田和文, 山崎 勤, 吉川弥里, 山田陽一, 阿藤寛明, 平本一幸, 工藤季之, 末丸克矢, 渡辺雅彦, 塩田澄子: 就実大学薬学雑誌 8, 96-102.
4 その他教育活動上特記すべき事項			
岡山大学大学院医歯薬総合研究科非常勤講師		2013～2018	臨床薬理学・薬理学
建部医療福祉専門学校非常勤講師		2014～現在	栄養学, 公衆衛生学
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 新しい疾患薬理学 (分担: 7章 代謝系・内分泌系の疾患と治療薬)	共著	2018年3月	南江堂
(著書) 抗てんかん薬TDM標準化ガイドライン 2018 (分担: ゾニサミド, ラモトリギン)	共著	2018年10月	一般社団法人 日本TDM学会, 金原出版
(論文) Environmental enrichment alleviates cognitive and behavioral impairments in EL mice. [Suemaru K, Yoshikawa M, Aso H, Watanabe M.	共著	2018年8月	Epilepsy Behav., 85, 227-233
(論文) TRPV1 mediates the anticonvulsant effects of acetaminophen in mice: Suemaru K, Yoshikawa M, Aso H, Watanabe M.	共著	2018年9月	Epilepsy Res., 145:153-159.
(論文) 5-Fluorouracil exacerbates cefepime-induced convulsions in pentylenetetrazol-kindled mice: Suemaru K, Yoshikawa M, Aso H, Watanabe M.	共著	2019年11月	Epilepsy Res., 157, 106195.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）胎生期葉酸欠乏マウスの前頭前皮質におけるシナプス関連タンパク質の発現量の低下：吉川弥里，阿藤寛明，渡辺雅彦，末丸克矢		2022年3月	第95回日本薬理学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2004年～現在	日本薬理学会（評議員）		
2008年～2021年11月	日本医療薬学会（日本医療薬学会指導薬剤師）		
2013年～2020年3月	日本TDM学会（評議員）、日本TDM学会TDMガイドライン策定委員会		
2015年～2019年6月	日本病院薬剤師会生涯研修委員試験小委員会委員		

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 公衆衛生学	職名 教授	氏名 渡辺 雅彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
授業への学生参加の試み	全期間	教育心理学科（養護）必修科目「公衆衛生学」では、一人一人異なる乱数を用いた生存曲線シミュレーションと公衆衛生的時代背景説明への応用、SGDによる交絡と因果関係に関する討議、アンケート実施とその実施方法・結果の授業への利用、学校保健に関するこれまでの学習内容と各自の重要項目の自由発表と討議、などを実施している。	
授業評価	全期間	評価結果は科目・年度により異なるが、平均レベルである。授業評価の、特に自由記述欄の意見は授業改善に資することが多い。評価に対する自己点検・考察は授業評価に対するコメント（特に2020年度前期授業自己点検評価・報告書）を参照ください。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
Powerpointスライド資料と演習問題資料の作成	全期間	担当専門コア科目「環境衛生学」では、powerpointによる資料と演習問題を作成し配布している。	
配布資料の作成	全期間	その他の科目ではpowerpointの使用は一部にとどまる。科目によって異なるが、資料を作成し配布している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
選択・記述問題による学生評価と留年・卒業延期・薬剤師国家試験合否との関係―記述問題評価の妥当性と有用性	2017年9月3日	筆頭演者として、環境系担当科目試験の長文記述問題評価が、選択問題と比較してその後の学生の進級可否と強く連動していること、ならびに選択問題である薬剤師国家試験においても選択問題評価と同等の判別力を持っていたことを報告した。（第2回日本薬学教育学会大会）	
能動的学習能力と問題解決能力の醸成を目指したTBL演習の実施とその評価	2018年3月28日	共同演者として、実習科目中に実施したTBL演習とその評価について報告した。（日本薬学会第138回年会）	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
薬学部対話演習委員	全期間	副委員長として、薬学対話演習の調整、実施を行うとともに、薬学への招待・初年次ゼミナールと臨床コミュニケーション演習も委員として担当している。	
薬学部FD委員	2020年3月まで	副委員長として、相互参観授業（統合演習関連を含む）を実施するとともに、他の薬学部FD活動にも参加・担当した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Environmental enrichment alleviates cognitive and behavioral impairments in EL mice.	共著	2018年8月	Epilepsy & Behavior vol. 85

(論文) 5-Fluorouracil exacerbates cefepime-induced convulsions in pentylentetrazol-kindled mice.	共著	2019年8月	Epilepsy Research vol.157
(論文) Change in mutation frequency at a <i>TP53</i> hotspot during culture of ENU-mutagenized human lymphoblastoid cells.	共著	2019年12月	Mutagenesis vol.34, No.4
(論文) Multifocal origin of occupational cholangiocarcinoma revealed by comparison of multilesion mutational profiles.	共著	2020年3月	Carcinogenesis vol.41 No.3
(論文) Mutagenicity of carcinogenic heterocyclic amines in <i>Salmonella typhimurium</i> YG strains and transgenic rodents including <i>gpt</i> delta.	共著	2021年9月	Genes and Environment vol.41 No.33
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Decreased expression of synapse-related proteins in prenatal folate deficiency mice in the prefrontal cortex.		2022年3月	第95回日本薬理学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2007年3月～2019年5月	日本気象予報士会岡山支部長		
2016年1月～現在	日本環境変異原ゲノム学会評議員		
2020年1月～現在	Associate Editor, Genes and Environment		
2021年10月～現在	内閣府食品安全委員会専門委員		

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生体情報学	職名 教授	氏名 森 秀治
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 主体的学修を促すための取り組みについて	2017年～	学生自身の主体的学修意欲を高めるために、卒業研究等の参加型科目の中で様々な学修支援活動（定期的ディスカッション、毎週の進展発表、毎月の専門誌抄読、情報収集活動）を継続的に実施することによって、主体的に学び、科学的・論理的・創造的に思考する力や問題解決能力を身に付けるように指導した。	
学修理解度・習熟度を向上させるための取り組み	2017年～	受講生の勉学意識をより高める目的で、①講義毎の到達目標の明示、②改訂モデルコアカリキュラムを意識した授業展開、③アクティブラーニングを進めるための確認テスト、④講義中での重要項目の繰り返しや疑問点の確認を実施するなどして、理解度のいっそうの向上を図った。	
授業評価アンケートや相互参観授業の活用	2017年～	受講生による授業評価アンケートを継続的に受け、得られた結果に基づいて授業の点検・見直しにつなげている。加えて、教員相互の参観授業にも参加し、理解度や学修意欲の向上を目指した授業改善につなげている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 講義用プリント教材の作成	2017年4月～	受講生の主体性・積極性を促すために自作のプリント教材にテキスト（コアカリ準拠のもの）を織り交ぜ、予習復習を促す確認テストを実施するなどして、講義への学習意欲や理解度向上のための工夫を施した。プリント教材は、最新の医療技術や薬物治療法の進歩に合わせて、継続的に最新版に改訂した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） FD研修の企画・参加	2017年～	毎年、全学・学部・大学院レベルで開催されるFD研修会（参加型FDを含む）に加わると共に、それらの企画にも関与した。	
学修支援委員会活動	2021年～	学修支援委員として支援活動を推進し、低学年からの適切な学修習慣の確立・維持に向けた取り組みに関わった。	
大学基準協会による認証評価における評価書作成	2021年～	大学基準協会による認証評価において、大学院の関係書類の作成に関わった。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Differential contribution of possible pattern-recognition receptors to advanced glycation end product-induced cellular responses in macrophage-like RAW264.7 cells	共著	2020年	Biotechnol Appl Biochem 67: 265-272 (2020)

Advanced glycation end products (AGEs) synergistically potentiated the proinflammatory action of lipopolysaccharide (LPS) and high mobility group box-1 (HMGB1) through their direct interactions	共著	2020年	Mol Biol Rep 47: 7153-7159 (2020)
Advanced glycation end-products reduce lipopolysaccharide uptake by macrophages	共著	2021年	PLoS One 16: e0245957 (2021)
Involvement of multiple scavenger receptors in advanced glycation end product-induced vessel tube formation in endothelial cells	共著	2021年	Exp Cell Res 408: 112857 (2021)
Histidine-rich glycoprotein as a prognostic biomarker for sepsis	共著	2021年	Sci Rep 11: 10223 (2021)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
新規AGEs結合分子AGE-BP2がDAMPsの作用に与える影響の解析		2021年6月	第139回日本薬理学会近畿部会
LPS—HMGB1誘導性炎症応答の終末糖化産物による相乗的亢進作用		2021年7月	第42回日本炎症・再生医学会
敗血症病態改善作用を有する高ヒスチジン糖タンパク質の抗酸化能		2021年11月	第94回日本生化学会大会
グリコールアルデヒド由来AGEsによる細胞増殖機構		2021年12月	第43回日本分子生物学会年会
DAMPs相互作用に基づいた炎症応答の制御メカニズム		2022年3月	第95回日本薬理学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
1988年～	日本生化学会（評議員）		
1990年～	日本薬学会（代議員）		
1992年～	日本分子生物学会（正会員）		
2001年～	日本薬理学会（代議員，評議員）		
2015年～	日本炎症・再生医学会（正会員）		
2015年～	日本血栓止血学会（正会員）		
2018年10月	吉備創生カレッジ：医薬品探求と成果（講師）		

[注] 1 対象期限：2017年4月—2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬物動態学	職名 教授	氏名 清水 美貴子
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
小テストの実施	2020年5月～	担当科目について、毎回、講義終了時にWebclassにて小テストを実施している。採点結果を元に弱点を把握し、次の講義の最初に解説等を行っている。	
授業評価	2020年5月～	2021年度の授業評価アンケートの結果において、薬物動態学および製剤学の授業を総合的に良いと評価した割合は96%および95%であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
講義用プリント教材の作成	2017年4月～	全ての担当科目において、power pointによる資料および演習問題を作成し、配布している。	
実習書の作成	2018年9月～	薬剤実習の実習書（分担）を作成している。	
薬物動態解析ソフトの作成	2018年9月～	薬物投与設計のシミュレーションソフトを作成し、講義・演習・実習等に活用している。	
Web配信用教育教材の作成	2020年5月～	担当科目について、講義、演習問題解説、補講（試験対策）等のWeb配信用教材を作成し、配信している。	
実習用ビデオの作成	2020年9月～	実習書の手順に従って実験している様子をビデオに録り、実習時に学生に見本として示している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし。			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
FD講演会への取り組み	2017年4月～	毎年、学内FD講演会・研修会に積極的に参加することにより、大学における質の向上と保証についての理解を深めている。	
薬学教育協議会薬剤学教科担当教員	2020年5月～	薬学教育協議会薬剤学教科担当教員会議への参加および報告を行っている。	
薬学教育協議会日本薬局方教科担当教員	2020年5月～	薬学教育協議会日本薬局方教科担当教員への参加および報告を行っている。	
オープンキャンパス模擬講義担当	2021年8月21日	オープンキャンパスにて、高校生および父兄を対象に、薬の「かたち」には訳がある、というテーマの講義を担当した。	
日本私立薬科大学協会学生部長会への参加	2021年10月15日	私立薬科大学協会学部長会議に参加および報告を行った。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Risk factors for abnormal hepatic enzyme elevation by methotrexate treatment in patients with rheumatoid arthritis: a hospital based-cohort study.	共著	2018年7月	Modern Rheumatology. 28(4):611-620
Factors predicting the therapeutic response to infliximab during maintenance therapy in Japanese patients with Crohn's disease.	共著	2018年10月	PLoS One. 13(10):e0204632. doi:10.1371/journal.pone.0204632
Long-term effect of NUDT15 R139C on hematologic indices in inflammatory bowel disease patients treated with thiopurine.	共著	2019年5月	J. Gastroenterol. Hepatol. 34(10): 1751-1757. doi: 10.1111/jgh.14693

Factors Contributing to the Systemic Clearance of Infliximab with Long-Term Administration in Japanese Patients with Crohn's Disease: Analysis Using Population Pharmacokinetics.	共著	2020年2月	Int. J. Clin. Pharmacol. Ther. 58(2): 89-102. doi: 10.5414/CP203569
Meta-analysis comparing direct oral anticoagulants versus vitamin K antagonists in patients with left ventricular thrombus.	共著	2021年6月	PLoS One. 4;16(6):e0252549. doi:10.1371/journal.pone.0252549
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Comparing Inappropriately Low Dose versus Standard Dose of Direct Oral Anticoagulants in Patients with Atrial Fibrillation: A Meta-analysis.		2021年10月	American College of Clinical Pharmacy Annual Meeting
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
現在所属している学会	日本薬学会、日本臨床薬理学会、日本薬物動態学会、日本癌学会、日本毒性学会、日本薬理学会、日本薬剤疫学会、医薬品情報学会、日本計量生物学会（正会員）		
2016年～2017年	文部科学省科学研究費補助金第1段審査委員（医療系薬学）		
2019年～2020年	岩木健康増進プロジェクト、「医薬品の適正使用とセルフメディケーションの推進」（プロジェクトリーダー）		

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 分子生物学	職名 教授	氏名 工藤 季之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
講義内容のWebでの公開		2007年4月～	講義で使用したPowerPoint資料等を全てe-learningシステムで公開している。
e-learningシステムを利用した自習教材		2009年4月～	講義内容の理解度を確認するためのミニテストをe-learningシステムで提供している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
PowerPoint資料の作成		2007年4月～	講義においてPowerPointによる資料を作成している。
「新入生のための大学でのまなび入門 [第4版]」		2012年4月～	「学習の3要素」「実習レポートの書き方」を作成した。
実習書「生命薬学実習Ⅱ」		2017年4月～	「遺伝子解析による微生物の迅速同定法」を作成した。
「スタートアップ就実一学びとの出会いー」		2018年4月～	キャリア・ライフデザイン分野を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
入学前教育、初年次教育を担当		2009年4月～	学部内委員として、入学前教育、初年次教育を担当している。
教養教育改革を担当		2012年4月～	全学の教養教育改革に関して、初期WGから参加し、全学の新規科目「スタートアップ就実」の構築と運営に携わり、数理・データサイエンス・AI科目の構築にも携わっている。
大学院FD研修会で研究倫理に関する講演を担当		2019年4月～	大学院のFD研修会において研究倫理に関する講演を担当した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Collaborative study of thresholds for mutagens: proposal of a typical protocol for detection of hormetic responses in cytotoxicity tests.	共著	2018年10月	Genes and Environ. 40: 20.
(論文) Changes in prolactin receptor homodimer availability may cause late feathering in chickens.	共著	2019年2月	Gen Comp Endocrinol. 272: 109-116.
(論文) Cloning of chicken R-spondin cDNAs and expression of recombinant protein.	共著	2020年1月	The Shujitsu University Journal of Pharmaceutical Sciences
(論文) The chicken homolog of KIAA0319L functions as a receptor of avian adeno-associated virus (A3V).	単著	2021年1月	The Shujitsu University Journal of Pharmaceutical Sciences
(論文) Collaborative Study of Thresholds for Mutagens: Hormetic Responses in Cell Proliferation Tests Using Human and Murine Lymphoid Cells.	共著	2021年6月	Dose Response, 19(2):15593258211028473.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
変異原物質の閾値に関する共同研究：小核試験における閾値	2021年10月	哺乳動物試験研究会
変異原の閾値に関する共同研究：リンパ系細胞を用いた小核試験におけるホルミシス応答	2021年11月	日本環境変異原ゲノム学会
鳥類アデノ随伴ウイルス（A3V）ベクターのカプシド遺伝子の置換	2021年12月	日本分子生物学会
抗ウイルス効果を持つセラミックコーティングの開発	2021年12月	超異分野学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）		
2007年5月～現在	公益社団法人日本技術士会生物工学会中国地区幹事	
2009年1月～現在	公益社団法人日本技術士会中国本部修習技術者支援委員会委員	
2011年6月～現在	公益社団法人日本技術士会中国本部環境部会副部会長	
2013年8月～現在	公益社団法人日本技術士会中国本部岡山県支部幹事	
2015年4月～現在	岡山実験動物研究会理事	
2021年4月～現在	公益社団法人日本生物工学会JABEE特別部会委員	

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬物治療学	職名 教授	氏名 北村 佳久
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (1) 教科書・配布資料・板書を効果的に利用した授業 (2) 国家試験問題演習を取り入れる (3) オンデマンド授業・実習への対応	2020年4月～ 2020年4月～ 2020年4月～	教科書・配布資料・板書を効果的に使用し、各回の授業のポイントを明確に教授している。特に配布資料では”ポイントマーク”を明記し、一目で重要点がわかるように工夫をしている。 将来受験する薬剤師国家試験では、今回の授業をどのような出題形式で出題されるのかを理解させるために、授業の後半では国家試験問題の解説を行っている。 新型コロナウイルス感染症防止のためにオンデマンド教材を作成し発信した。	
2 作成した教科書、教材、参考書 (1)「神経麻酔最前線」中外医学社 (2) (学内) 実務実習事前学習テキスト	2021年6月 2021年4月	「術後せん妄」に関する病態像およびハイリスク薬の紹介を行い、薬剤師業務への参考書とした。 事前学習における担当実習の内容の理解が進むために、写真、図、表を用いて作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 病院実務実習における実習効果改善のための取り組み	2015年11月～ 現在	前職の岡山大学病院薬剤部において病院実務実習における実習プログラムの構築、改善、学生の習得度向上の取り組みなどを検討・改善し、その成果を2015年より21演題を日本医療薬学会、日本薬学教育学会等で発表を行ってきた。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (1)臨床薬学教育研究センター 運営委員会 委員 (2)学修支援委員会 委員 (入学前後・初年次) (3)将来構想検討委員会 委員長	2020年4月～ 現在 2020年4月～ 現在 2020年度 (委員) 2021年4月～ 現在(委員長)	実務実習事前学習および実務実習の運営を実施している。 委員として、「入学前セミナー」の担当者および本セミナーで発表を行う課題図書の選定を行い、入学前より薬学への興味を抱くようセミナーを実施している。 本学部のあるべき将来構想について、入学者確保、教育改革、研究改革等を含めて協議を行っている。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Influence of 5-HT _{2A} receptor function on anxiety-like behavior induced by combination treatment with doxorubicin and cyclophosphamide in rats.	共著 (責任著者)	2021年12月	Psychopharmacology 2021 Dec;238(12):3607-3614. doi: 10.1007/s00213-021-05979-5. Epub 2021 Sep 23.
(論文) Bumetanide prevents diazepam-modified anxiety-like behavior in lipopolysaccharide-treated mice.	共著 (責任著者)	2021年8月	Eur J Pharmacol. 2021 Aug 5;904:174195. doi: 10.1016/j.ejphar.2021.174195. Epub 2021 May 15.

(論文) Influence of lipopolysaccharide on diazepam-modified loss of righting reflex duration by pentobarbital treatment in mice.	共著 (筆頭著者・責任著者)	2019年1月	Eur J Pharmacol. 2019 Jan 5;842:231-238. doi: 10.1016/j.ejphar.2018.10.049. Epub 2018 Nov 2.
(論文) Involvement of 5-HT _{2A} receptor hyperfunction in the anxiety-like behavior induced by doxorubicin and cyclophosphamide combination treatment in rats.	共著 (責任著者)	2018年10月	J Pharmacol Sci. 2018 Nov;138(3):192-197. doi: 10.1016/j.jphs.2018.10.001. Epub 2018 Oct 9.
(論文) Influence of nicotine on doxorubicin and cyclophosphamide combination treatment-induced spatial cognitive impairment and anxiety-like behavior in rats.	共著 (筆頭著者・責任著者)	2017年9月	Naunyn Schmiedeberg's Arch Pharmacol. 2017 Apr;390(4):369-378. doi: 10.1007/s00210-016-1338-z. Epub 2017 Jan 7.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Rotenone-induced dopaminergic neurotoxicity mediated by astrocyte-microglia interaction.		2021年5月	第62回日本神経学会学術大会
(演題名) アストロサイト-ミクログリア連関がもたらす農業ロテノン誘発ドパミン神経障害		2021年7月	第14回日本緩和医療薬学会年会 (最優秀演題賞)
(演題名) 造血幹細胞移植後の粘膜障害による下痢および肛門痛に対するオキシコドン持続静注の効果		2021年5月	第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会合同年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2021.4.～現在	Frontiers in Pain Research Review Editor		
2021年10月	【日本薬学会】佐藤記念医療貢献薬剤師賞選考委員		
2020.1.1～現在	【日本医療薬学会】編集委員会 委員		
2019.4.1～現在	【日本精神薬学会】倫理委員会 委員		

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生化学	職名 教授	氏名 守谷 智恵
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
小テストの実施と前回授業の復習	2017年～	前回講義の授業内容に関する小テストを行い、小テストを活用し復習を行っている。	
e-ラーニングシステムの利用	2017年～	e-ラーニングシステムを使い、小テストのフィードバック、自主学習のポイントの掲載、演習問題の掲載を行っている。	
授業評価	2017年～	総合評価では、概ね平均点より高い評価が得られている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
生命薬学実習Ⅰ 実習書	2017年～	2年後期の実習で使用するテキストを作成した。	
授業用プリントの作成	2017年～	WordあるいはPowerpointにより作成した資料を配布している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
学生実習におけるルーブリック評価導入の試みと学生の意識調査	2017年	就実大学薬学雑誌, 4, 37-42	
薬剤師国家試験問題を活用したアクティブラーニングの構築と実践—就実大学薬学部におけるサイエンスコミュニケーションの実践②—	2018年	第3回日本薬学教育学会	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
学習支援委員を担当	2017年～	委員として入学前後、初年次教育に関わった。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Hepatoprotective effects of rice-derived peptides against acetaminophen- induced damage in mice	共 著	2017年5月	J. Clin. Biochem. Nutr., 60, 115-120
Isolation of activating factors of serotonin N-acetyltransferase from rice peptides.	共 著	2018年1月	J. Funct. Foods, 41, 148-154
Protective Effects of Rice Peptide Oryza Peptide-P60 against Oxidative Injury through Activation of Nrf2 Signaling Pathway In Vitro and In Vivo	共 著	2020年5月	ACS Omega, 5, 13096-13107
Hepatoprotective Activity of Yellow Chinese Chive against Acetaminophen-Induced Acute Liver Injury via Nrf2 Signaling Pathway.	共 著	2020年8月	J. Nutr. Sci. Vitaminol., 66, 357-363
Isolation of the hemoxygenase-1 inducer from rice-derived peptide.	共 著	2021年11月	J. Clin. Biochem. Nutr., in press
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
黄ニラ抽出物の細胞内グルタチオン上昇作用およびそのメカニズムの解析		2021年5月	日本酸化ストレス学会
米タンパク質加水分解物からの抗酸化酵素発現誘導ペプチドの同定		2021年11月	日本生化学会
黄ニラ抽出物のグルタチオン上昇作用におけるKeap1-Nrf2経路の関与		2021年11月	日本生化学会

黄ニラの細胞内グルタチオン上昇活性成分の同定	2022年3月	日本薬学会
米ぬか由来ペプチドはグルタチオンによるレドックス制御を介して睡眠ホルモン合成酵素を活性化する	2022年3月	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2018年	ASEAN-JAPANゲノム医療研究推進会議 (AGPC) 実行委員	
2018年	第57回日本薬学会中国四国支部学術大会 オープン学会担当	
2021年	日本生化学会 中国・四国支部 □評議員	
2021年	第62回 日本生化学会中国四国支部例会 実行委員	

[注] 1 対象期限：2017年4月—2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 臨床薬学	職名 教授	氏名 名和 秀起
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 小テストによる毎回の復習を取り入れた授業 授業評価	令和元年7月～ 令和元年7月～	授業「医療薬学演習」において、毎回小テストを行い学生にフィードバックすることにより、理解を深めた。 全体の評価は比較的良好、筆記試験の結果等よりおおむね想定したSB0は達成出来ていると考える。	
2 作成した教科書、教材、参考書 Perspective 薬剤学 第3版 京都廣川	令和元年	書籍中には図・表を多用するだけでなく、項目間の連携を取り理解力のアップを図った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 救急医と協働した抗がん剤過敏反応の模擬体験と薬学的ケアプラン作成演習	令和2年3月	日本薬学会第140年会にて発表。救急医とともにシミュレーターを使用した4年生対象の演習を行った取り組みについて発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD委員会における活動	令和元年7月～	薬学部におけるFD委員会委員として活動の計画、立案を行っている。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
病院薬剤師対象シミュレーション教育実践に向けた研究会発足 病院薬剤師教育実践報告と教育効果の考察	共著	2017年8月	新しい医学教育の流れ, 17巻2号
緊急時における抗がん剤調製実施体制の運用調査	共著	2019年2月	日本注射薬臨床情報学会会誌, 7巻
外国籍入院患者に対する病院薬剤師の外国語対応に関する現状調査と多言語対応症状モニタリングツールの有用性に関する検討	共著	2019年4月	医療薬学, 45(9)
Evaluation of potential complication of interstitial lung disease with abemaciclib and palbociclib treatments.	共著	2021年4月	Cancer Reports. e1402.
ラムシルマブ投与患者における蛋白尿発現のリスク因子に関する検討	共著	2021年5月	医療薬学, 47(5)
Evaluation of Potential Complications of Interstitial Lung Disease Associated With Antiandrogens Using Data From Databases Reporting Spontaneous Adverse Effects.	共著	2021年6月	Frontiers in Pharmacology, (12) 10.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
自発的副作用報告データベースを用いた、抗線維化薬と間質性肺疾患との関連性についての検討		令和4年2月	日本薬学会
有害事象自発報告データベースに基づく光学異性体が薬剤間相互作用に与える影響についての検討		令和4年2月	日本薬学会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近５年間に携わったもの数件）	
平成22年5月～令和元年5月	岡山県病院薬剤師会理事
平成25年2月～現在に至る	日本臨床栄養代謝学会 学術評議員
平成30年4月～令和2年3月	日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修小委員会委員
令和2年7月～現在に至る	岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員
令和2年12月～現在に至る	日本臨床栄養代謝学会広報世話人
令和2年12月～現在に至る	日本医療薬学会代議員選挙管理委員会委員

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近５年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 医療薬学	職名 教授	氏名 島田 憲一
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 穴埋め式の講義プリントの作成	2017年4月	穴埋め式のプリントを作成し使用している。講義のポイントが強調でき、また講義の集中度が上がることを実感している。	
学生からの疑問点に対する振り返り講義	2019年4月	毎回の講義後に難しかった点についてのアンケートを実施し、最終講義時にアンケートをもとにした振り返りの講義を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 実務実習事前学習テキスト	2017年4月	臨床センター教員で、事前学習に用いるテキストを作成している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 薬学生・薬剤師を対象にした災害対応研修の在り方	2018年2月	日本災害医療薬剤師学会第7回学術大会において、本学薬学部及び福岡大学薬学部で行っている災害時の対応に関する演習について報告した。	
がん領域に特化したアドバンス病院実習の方略とその評価	2019年3月	日本臨床腫瘍薬学会学術大会において、がん領域に特化したアドバンス病院実習を行ったので、その方略及び評価等について報告した。	
救急医と協働した抗がん剤過敏反応の模擬体験と薬学的ケアプラン作成演習	2020年3月	日本薬学会年会において、4年次に行った薬学統合演習において代表的8疾患の抗がん剤シナリオを救急医と協働して計画・実施したことを報告した。	
災害時の薬剤師に関する薬学生を対象とした意識調査	2021年7月	日本災害医療薬剤師学会第9回学術大会において薬学生を対象とした災害時における薬剤師の役割及び大学での講義についての意識調査について発表した。	
中国地方の医療系学会を有する大学における臨床栄養教育の現状	2021年8月	日本臨床栄養代謝学会中国四国支部学術集会において医療系学部を擁する中国地方の大学に対して、臨床栄養教育に関するアンケート調査を行った結果を報告した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）保険薬局における認知症早期発見を目的としたタッチパネル式簡易検査を活用した受診勧奨の実践	共著	2019年3月	日本認知症予防学会誌 Vol. 8 No. 2:10-14(2019)
（論文）就実大学薬学部における健康食品管理士認定校としての取り組み	共著	2020年1月	就実大学薬学雑誌 第7巻 86-90(2020)
（著書）コンパス調剤学―実践的アプローチから理解する―	共著	2020年2月	南江堂（東京）
（論文）講義にビデオ教材を利用した有用性について―アドバンス科目「薬剤師と地域医療」を通して―	共著	2020年2月	就実論叢 第49号239-253(2020)
（論文）医療用漢方製剤について、添付文書・インタビューフォームからの情報に関する検討ならびに含有生薬からみた検討	共著	2021年2月	就実論叢 第50号153-167(2021)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近５年間に携わったもの数件）	
2013年4月～現在	岡山市介護認定審査会委員
2017年4月～現在	病院薬局実務実習中国・四国支部支部委員
2019年4月～現在	健康食品管理士会中国支部幹事
2021年11月～現在	一般社団法人日本食品安全協会教育協議会理事

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近５年間の代表的な著書・論文等、５つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生薬学	職名 教授	氏名 二宮 清文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 化学構造式から分子の成り立ちを見抜く眼の養成 生薬の解説を用途別におこなった		令和2年9月～ 令和3年4月～	提示した化学構造式を例に、部分構造の成り立ちを概説 漢方での使用を中心に、生薬の用途別に概説口 講義では毎回演習問題を課し、知識の定着、復 習の実践に活用した
2 作成した教科書、教材、参考書 講義で取り扱う内容をスライドとして作成		令和2年9月～	オンライン講義では、スライド試料を配布 書き込み等、学生の利活用の簡便化をはかった
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）A review of antidiabetic active thiosugar sulfoniums, salacinol and neokotalanol, from plants of the genus Salacia	共著	2021年12月	J. Nat. Med., 75(3) 449- 466.
（論文）Indole glycosides from Calanthe discolor with proliferative activity on human hair follicle dermal papilla cells	共著	2021年5月	Chem. Pharm. Bull., 69(5), 464-471.
（論文）Dose-Dependent Suppression of Postprandial Hyperglycemia and Improvement of Blood Glucose Parameters by Salacia chinensis Extract: Two Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Studies	共著	2021年1月	J. Med. Food, 24(1), 10-17.
（論文）Collagen synthesis-promoting and collagenase inhibitory activities of constituents isolated from the rhizomes of Picrorhiza kurroa Royle ex Benth	共著	2020年11月	Fitoterapia, 143, 104584
（論文）Geranylated coumarins from Thai medicinal plant Mamea siamensis with testosterone 5 α -reductase inhibitory activity	共著	2020年8月	Front. Chem., 8, 00199
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）アシル化フラボノール配糖体およびリモノイドの脂肪肝 モデルによる作用特性の比較.		2021年9月	日本生薬学会第 67 回年会
（演題名）アンディローバ由来 gedunin 型リモノイドの細胞内中性 脂肪低減作用および作用機序解析.		2021年9月	第63回 天然有機化合物討 論会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年4月～現在	日本薬学会 学術誌編集委員		
2021年4月～現在	日本生薬学会 関西支部 支部委員		
2020年9月～現在	日本生薬学会 代議員		

- [注] 1 対象期限：2017年4月—2022年3月
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

（基礎資料 9） 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 保健衛生化学	職名 教授	氏名 平本 一幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 授業内容の充実化	2017年4月～	担当授業を実施するにあたり、以下の項目に留意している。 ・モデルコアカリキュラムに沿った授業 ・生活の中の身近な話題と結び付けて解説する。 ・重要項目は繰り返し解説する。 ・板書を適宜活用し、受講生の理解度向上に努めている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修会への参加		全学及び学部内のFD研修に参加し、教育の資質向上に努めている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Google 社が提供する web サービスを利用した学生間ピア評価システムの構築	共著	2021	就実大学薬学雑誌. 8, 96-102.
能動的学修能力と問題解決能力の醸成のためのチーム基盤型学習（TBL）実施に向けた取り組みとその評価	共著	2020	就実大学薬学雑誌. 7, 69-75.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2019年8月、2020年1月、3月	安田女子大学 CBTモニター		
2020年8月、12月、2021年3月	岡山大学 CBTモニター		
2021年9月、2022年1月、2月	福山大学 CBTモニター		
2021年10月	美作高校 進路説明会講師		

〔注〕 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

（基礎資料 9） 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 代謝毒性学	職名 准教授	氏名 松尾 浩民
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・ 講義資料のWeb上での公開 ・ マルチメディア機器を用いた授業 ・ ICTを活用した授業 2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 医療薬学実習（薬剤系）実習書	2012年4月～	授業で使用した全資料をpdfファイルとしてイントラネットにて公開	
	2007年4月～	「からだの構造と機能」（教養科目）並びに「薬物代謝学」では授業内容を視覚的に捉えるため、DVD等の映像資料を用いている。	
	2020年4月～	「からだの構造と機能」（教養科目）ではオンライン授業の一環として、授業内容のオンデマンドビデオ化を図り、Web上での受講を可能としている。	
	2007年4月～	医療薬学実習（薬剤系）・実習書「実習Ⅴ 薬物代謝：アニリン <i>p</i> -水酸化酵素活性の測定」の作成及び全体の編集	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし 4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ 教務関連委員 ・ 卒業関連委員 ・ 学習支援委員及び3年生学年主任 ・ 共用試験（CBT）関連委員			
	2016年4月～ 2021年3月	新年度履修指導、時間割調整、研究室配属調整、単位認定の確認を始め、教育活動上の重要事項に携わった。	
	2013年4月～	卒業特別講義全般の開講調整と出欠管理、タンニンテイ試験に関する問題の精査と実施、試験の実施と結果の評価を行った。	
	2019年4月～ 2021年3月	新年度学年別実力試験のとりまとめ、進級が可能な限り滞らないよう、担任との情報共有による学生の出欠状況や修学状況の把握を行った。	
	2021年4月～	CBT本・再試験及び体験受験の準備と実施、演習を含めた対策講義の日程調整と実施を行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）エンドソーム内リン脂質ドメインの機能と調節機構	単著	2018年	J. Electr. Microsc. Technol. Med. Biol., 31, 1 - 2.
（論文）Jacques Dubochet の 2017 年ノーベル化学賞受賞に際して	単著	2018年	生物物理, 58, 101 - 102.
（論文）保険薬局におけるヒヤリハット事例の収集・分析	共著	2018年	岡山県薬剤師会会報, 234, 34- 37.
（論文）細胞内の脂質ドメインに着眼した創薬に関する基礎的研究	単著	2019年	生物学に関する試験研究論叢, 34, 96-102.
（論文）はな薬局妹尾店における2013年度疑義照会状況の解析から見出される課題と対応策の提言	共著	2021年	就実大学薬学雑誌, 8, 92-95.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）学校薬剤師による小学校での薬物乱用防止教室の実施とその効果		2021年	第 54 回日本薬剤師会学術大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近 5 年間に携わったもの数件）			
2021年	日本薬剤学会第36年会：大会組織委員及び優秀発表者選考委員		
2021年	一般社団法人医学生物学電子顕微鏡技術学会：奨励賞		

[注] 1 対象期限：2017年4月—2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近 5 年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 医薬品合成化学	職名 准教授	氏名 山川 直樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 授業フィードバック	2020年～	講義「有機化学Ⅱ・Ⅲ」において、授業内容に関する質問ができるコンテンツをWebClass上に設け、全ての質問に回答を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書 オンデマンド教材	2020年～	講義「有機化学Ⅱ・Ⅲ」において、繰り返し復習ができるオンデマンド教材を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学教育学会大会（第2～5回）での発表	2017年～2020年	専門科目の教育とアクティブラーニング及び初年次教育に関するポスター発表を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 FDフォーラム、若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ、教育サロンin関西へ参加	2017～2019年	参加型の教育関連のフォーラム及びワークショップへ参加し、教育能力の質を高める方法を学んだ。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Cytotoxicity Evaluation of Diclofenac and its Analogues for Cultured Human Corneal Epithelial Cells.	共著	2017年12月	Chem. Pharm. Bull. 65巻10号 pp. 973-981
（論文）Identification of mepenzolate derivatives with long-acting bronchodilatory activity.	共著	2018年4月	Front. Pharmacol. 9巻344号 pp. 1-10
（論文）Antinociception by fluoro-loxoprofen, a novel non-steroidal anti-inflammatory drug with less ulcerogenic effects, in rat models of inflammatory pain.	共著	2019年2月	Eur. J. Pharmacol. 844巻 pp. 253-258
（著書）構造式のUNOカード	単著	2019年12月	大学教育出版 ISBN: 9784866920535 52p
（論文）A2B adenosine receptor inhibition by the dihydropyridine calcium channel blocker nifedipine involves colonic fluid secretion.	共著	2020年2月	Sci. Rep. 26巻 pp. 3555
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
研究室訪問体験を通じた研究マインドの涵養—就実大学薬学部における探究心を醸成する初年次教育の実践—		2021年8月	日本薬学教育学会
フルルビプロフェンの膜傷害作用に関する構造活性相関の解明		2022年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年7月～現在	初年次教育学会会員		
2018年10月～現在	日本リメディアル教育学会		
2019年10月	第14回 有機化学系教科担当教員会議の世話人（副委員長）		
2019年11月	第58回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会 学会		

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 医薬品構造解析学	職名 准教授	氏名 森山 圭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
有機化学補講の実施	2017年4月～	有機化学の学習に不安のある学生を対象に、毎年度参加任意の補講を行った。主に1年生と6年生を対象として実施した。	
ライブ配信授業の手法確立	2020年4月～	コロナ禍で授業がオンライン対応となる中、学生が集中して授業を聴講できるように、Google Meetによるライブ配信授業の方法を確立した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
基礎薬学実習（物理系・化学系）実習書	2017年4月～	核磁気共鳴スペクトルの測定、吸光度の測定を担当。	
わかりやすい機器分析学 第4版	2018年3月	赤外吸収スペクトル測定法、ラマンスペクトル測定法、近赤外吸収スペクトル測定法、核磁気共鳴スペクトル測定法、電子スピン共鳴法を担当。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
ライブ配信授業に関するFD研修会	2020年5月	学部内FD研修会において、Google Meetを用いたライブ配信講義の方法について、全教員に情報発信を行った。	
オンライン質問サイトの構築・管理・運営	2020年5月～	コロナ禍でも学生からの質問を受け付けられるよう、Skackを用いたオンライン質問サイトを各担当科目や国家試験対策で構築し、活用した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Visualization of protonation/deprotonation of active pharmaceutical ingredient in solid state by vapor phase amine-selective alkyne tagging and Raman imaging	共著	2017年7月	J. Pharm. Sci., 106, 1778-1785.
Fluorescence-Based High-Throughput Salt Screening	共著	2018年7月	J. Pharm. Sci., 107, 1870-1878.
Applications of Raman Spectroscopy on Quality Control of Hospital Formulations	共著	2018年12月	YAKUGAKU ZASSHI, 138, 1561-1568.
結晶配向性を利用したラマンイメージングによる主薬一次粒子の可視化技術	単著	2020年9月	製剤機械技術学会誌, 29 (3), 277-282.
近赤外分光法およびラマン分光法による一包化散薬識別能力の検討	単著	2020年12月	製剤機械技術学会誌, 29 (4), 414-421.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2013年10月～	日本薬剤学会会員		
2014年4月～	日本分光学会会員		
2018年4月～	岡山市薬剤師会オープンフォーラム委員		
2020年8月	コドモさんかくゼミ2020「未来のリケジョ応援プロジェクト」実験体験		

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬物療法設計学	職名 准教授	氏名 加地 弘明
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 アクティブラーニングの実践	2017年4月～	演習科目・実習科目を中心として、講義の一部においてジグソー法、TBL、PBLなどを活用したSGDを実施し、主体学びの場を提供している。	
学外での学びの場の提供及び学外授業の実施	2020年4月～	学生の有志に対して、薬局などでのボランティア活動を通じた学外での学びの場を年に2、3回提供し、引率やボランティア先との詳細な連絡薬としての役割を果たしている。また、2020年度からは「薬局管理学演習」の一環として、就実大学薬学部附属薬局での学外授業（2020年はビデオ学習として実施）を実施し、講義で学んだ内容を実際の現場で確認する授業を行っている。	
パフォーマンス評価の導入	2021年4月～	4年次までに修得した基礎及び臨床科目の学習内容を統合的に理解することを目的に実施する「薬学統合演習」において、パフォーマンス評価の導入に深く携わっている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 実務実習事前学習テキスト	2017年4月～	「実務実習事前学習」にて実習書として用いるテキストの作成に携わった。主に、「フィジカルアセスメント」「製剤」「在宅患者対応」の執筆を担当した。	
講義資料の作成	2017年4月～	講義資料をPowerPointを用いてわかりやすく、また図表や写真を多めに示して作成し、配布あるいはwebClassを通じて配信している。	
講義ビデオの作成	2020年4月～	「薬局管理学演習」において、就実大学薬学部附属薬局でビデオ撮影し編集した講義ビデオを作成し、講義に使用している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 薬学部教員と弁護士によるリスクマネジメント講義の有用性評価 能動的学習能力と問題解決能力の醸成を目指したTBL演習の実施とその評価 クロスオーバー比較試験を用いたチーム基盤型学習（TBL）の学修効果に関する検討 地域医療の連携推進における大学の役割～地域医療を支える薬剤師を支える取組み～	2017年9月	第2回日本薬学教育学会にてポスター発表を行った。	
	2018年3月	日本薬学会第138年会にて筆頭演者としてポスター発表を行った。	
	2018年9月	第3回日本薬学教育学会にて筆頭演者としてポスター発表を行った。	
	2018年11月	第57回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中四国支部学術大会にてシンポジストとして教育の取組みに関する発表を行った。	
今、薬学部で学生は何を学んでいるの？ 大学における薬学臨床準備教育の実践と課題	2019年6月	令和元年度岡山県病院薬剤師会定例学術講演会にて薬学臨床準備教育に関する講演を行った。	
本学薬学部におけるルーブリック活用状況調査結果報告とルーブリックを用いた講義時課題レポート評価実践例報告	2019年11月	令和元年度薬学部FD研修会にて講演を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学教育者ワークショップ中四国in岡山におけるタスクフォース	2017年9月～	2017、2019、2020年の薬学教育者ワークショップ中四国in岡山においてタスクフォースとして参加した	

薬物乱用防止教室及びエビペン講習会 講師	2018年1月～	2018年から年に一度岡山市立曾根小学校において薬物乱用防止教室を実施している。また、2019年4月より、県下2か所の認定こども園において年に一度エビペン講習会を実施している。
薬学共用試験センターOSCEモニター員	2018年12月～	2018年と2021年の共用試験OSCEにおいて他大学のモニター員を務めた。
就実大学薬学部附属薬局における薬剤師研修	2019年10月～	しゅうじつ薬局において夜間対応時の薬剤師職務を行い（年間10回程度）、薬剤師としての自己研鑽に励むとともに、実施内容を講義や実習に活かしている。
実に就くプロジェクト担当教員	2021年4月～	臨床系科目を学ぶ3年生から実務実習を経験した5年生まで学年を超えたメンバーが協働してしゅうじつ薬局での地域住民向け保健衛生活動を企画・立案・実施することで、次世代薬剤師として必要な技能や態度を実に就けることを目的に実施。

Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）能動的学修能力と問題解決能力の醸成のためのチーム基盤型学習（TBL）実施に向けた取り組みとその評価	共著	2020年1月	就実大学薬学雑誌第7巻
（論文）Syk facilitates phagosome-lysosome fusion by regulating actin-remodeling in complement-mediated phagocytosis	共著	2020年12月	Sci Rep. 10(1)
（論文）抗がん剤の過敏反応発現状況とそのリスク因子に関するレトロスペクティブ調査研究	共著	2021年1月	就実大学薬学雑誌第8巻
（論文）ファーマシー薬局やかげにおけるポリファーマシーと薬物治療に対する意識の関連性調査	共著	2021年1月	就実大学薬学雑誌第8巻
（論文）オーストラリア薬学海外研修（2019）の成果報告	共著	2021年1月	就実大学薬学雑誌第8巻
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）在宅業務推進に向けた薬局内連携に関する職種別意識調査		2021年9月	日本アブライド・セラピューティクス学会第11回学術大会 日本社会薬学会第39年会合同大会
（演題名）認定こども園における学校薬剤師の認知度に関する調査とその職務内容への提言		2021年11月	第15回日本薬局学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～	薬学共用試験センターOSCE実施委員会 委員		
2017年6月～	岡山県薬剤師会 理事		
2021年3月	日本薬学会第141年会における学生優秀ポスター賞審査員		
2021年7月	薬剤師生涯学習達成度認定試験 岡山会場の室責任者		

〔注〕 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 医療薬学	職名 准教授	氏名 毎熊 隆誉
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 全学教養育科目・スタートアップ就実 薬学部科目横断型学修・薬学統合演習	2018年4月 2018年4月	魅力ある大学づくりのため、全学部合同の初年次・教養教育科目としてスタートアップ就実を立ち上げた。この「仲間作り・人権」分野についてアクティブ・ラーニングの手法をとり入れたグループワークを全学科51名（2-5年生）の スチューデント・アシスタント参加型の演習を計画・実施した。 糖尿病、脳梗塞・呼吸器疾患、がんの3つのシナリオを作成し、基礎的な講義、模擬患者との医療面接、医薬品デバイス指導体験、臨床医・薬剤師の講義、薬学的ケアプラン発表会を含む知識・技能・態度を集約統合して実施する講義を計画・立案・実施した。	
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 改定モデル・コアカリキュラムに準拠した薬学臨床教育の現状と今後 （岡山県病院薬剤師会南地区学術講演会） 咳嗽患者に遭遇した薬剤師の臨床推論と薬学的介入の一考察 （岡山県病院薬剤師会南地区学術講演会） 薬剤師の対人業務を意識した薬学教育 （富永薬局グループ第359回 サンデーセミナー） 統計学セミナー （株式会社富士薬品2019年度ULTエキスパートMR講座） 今さら聞けない統計学のいろは～日常業務やコミュニケーションの成果を“見える化”する～ （日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会オンラインセミナー2021）	2018年1月 2018年12月 2019年6月 2019年9月 2021年11月	薬学実務実習に関する連絡会議（第8回）H29.11.21の内容を中心に改定コアカリについての全国的な動きと本学での臨床準備教育について講演した。 咳嗽に関するガイドライン（第2版）の内容を踏まえて臨床推論のステップや結核治療薬に関する薬学的な介入の例について講演した。 対人業務を行うために本学で実施しているコミュニケーション教育を紹介した。 製品情報概要に記載された統計を読み解くための基礎知識について解説した。 日常業務の評価や改善の為に、どのようにデータを取得し解析するかについて解説した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 授業のオンライン化に伴うWEB教材・プログラムの作成 医薬品情報教育におけるコクランライブラリの活用	2020年4月 2020年9月	全学教養教育におけるチャット会議室を利用した小グループ討論の実施、岡山県内薬局とリモート接続したオンラインの早期臨床体験の実施、薬学部附属薬局とリモート接続したオンライン服薬指導プログラム等を作成した。 2020年度よりコクラン・ライブラリを導入し、PubMedを含めたデータベースを用いた医薬品情報の収集と評価およびWebClass上での情報検索能力に関する実技試験のトライアルを実施した。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） 抗菌薬TDMガイドライン2016におけるバンコマイシン初期投与設計に対するeGFRを用いたノモグラムの検証－軽度から中等度の腎機能低下患者における検討－	共著	2017年10月	TDM研究, 34, 132-136

(論文) Effects of pharmacist intervention in Vancomycin treatment for patients with bacteremia due to Methicillin-resistant Staphylococcus aureus.	共著	2018年9月	PLoS One, 13, e0203453
(論文) 外来糖尿病患者に対する「薬剤師外来」の成果	共著	2019年3月	医療薬学, 45, 135-142
(論文) Influence of Pharmacist Intervention on Re-Elevation of Glycated Hemoglobin for Diabetic Outpatients	共著	2019年10月	Hospital Pharmacy, https://doi.org/10.1177/0018578719883806
(論文) 看護師が行う整形外科術後急性痛への鎮痛薬使用に影響する因子-疼痛管理への薬剤師の介入に向けた検討-	共著	2020年11月	日本病院薬剤師会雑誌, 56, 1288-1293 .
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
災害時の薬剤師に関する薬学生を対象とした意識調査		2021年7月	日本災害医療薬剤師学会第9回学術大会
薬学部附属薬局を活用した模擬患者参加型のオンライン服薬指導実習		2021年9月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会第15回大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったものの数件)			
2002年4月～現在	日本薬学会 正会員		
2003年10月～現在	日本医療薬学会 正会員		
2004年4月～現在	日本薬剤師会 正会員		
2004年4月～現在	日本病院薬剤師会 正会員		
2010年4月～現在	NPO法人・岡山SP研究会 正会員・顧問		
2012年4月～現在	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会 理事		
2014年3月～現在	日本医学教育学会 正会員		
2016年5月～現在	日本薬学教育学会 正会員		
2017年12月～現在	一般財団法人 タイオン奨学基金 評議員・選考委員		

〔注〕 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 応用分析化学	職名 准教授	氏名 齋藤 啓太
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
学生チューターを利用した学修不良学生への指導	2019年2月	4年生学生を学生チューターに起用し、後期の物理系薬学の専門科目において学修不良と判断した学生に対し、学生目線の指導を取り入れ、指導の充実を図った。	
対面およびオンライン講義同時開講の仕組み構築	2020年4月～	対面とオンライン講義を同時に行う講義手法を開発し、講義内での小テストについてオンラインとペーパーの2種類同時受験を可能にした。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
『わかりやすい機器分析学』改訂第4版、片岡洋行・四宮一総 編（廣川書店）	2018年	執筆担当：X線分析法（p.178-190）、熱分析法（p.191-199）	
基礎物理学演習 講義資料	2021年4月～	基礎物理学演習の講義について必要事項の解説と問題演習を兼ねた講義資料を作成し、講義に利用した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
（演題名）物理系科目の知識定着を指向したカードゲームの作製と活用—就実大学薬学部におけるサイエンスコミュニケーションの実践③—	2019年8月	第4回日本薬学教育学会、（発表者）齋藤啓太、加藤久登、石崎厚、山川直樹、森山圭、坪井誠二、守谷智恵、川上賀代子、塩田澄子（就実大・薬）	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
FD研修会への参加	2017年4月～	全学及び学部で行われるFD研修会にはすべて参加している。	
学習支援委員会における活動	2017年4月～	留年対策部門に参加し、留年を防ぐための仕組みづくりに関わっている。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）Kataoka H., Ishizaki A., Saito K., Online automated micro sample preparation for high-performance liquid chromatography.	共著	2019年	Chromatography-Separation, Identification and Purification Analysis, Edited by N. Awwad, Chapter 9, 161-184. (Book ISBN 978-1-78985-608-8) (InTech, Croatia)
（著書）Kataoka H., Ishizaki A., Saito K., Online Automated Micro Sample Preparation for High-Performance Liquid Chromatography	共著	2020年	Biochemical Analysis Tools-Methods for Bio-Molecules Studies, Edited by O.-M. Boldura, C. Balta and N.S. Awwad, Chapter 10, 165-186. (Book ISBN 978-1-78984-856-4), DOI: 10.5772/intechopen.89079. (InTech, Croatia)

(論文) Saito K., Tokorodani Y., Sakamoto C., Kataoka H., Headspace solid-phase microextraction / gas chromatography-mass spectrometry for the determination of 2-nonenal and its application to body odor analysis.	共著	2021年	<i>Molecules</i> , 26, 5739 (2021). (doi: 10.3390/molecules26195739) (MDPI)
(論文) Hanioka N., Saito K., Isobe T., Ohkawara S., Jinno H., Tanaka-Kagawa T., Favipiravir biotransformation in liver cytosol: species and sex differences in humans, monkeys, rats, and mice.	共著	2021年	<i>Biopharm. Drug Dispos.</i> , 42: 218-225 (2021). (doi: 10.1002/bdd.2275) (John Wiley & Sons)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Fiber SPME/GC-MS法を利用した衣類洗浄効果評価法の構築と応用, (発表者) ○齋藤啓太, 脇有紗, 片岡洋行 (就実大・薬)		2021年9月	日本分析化学会第70年会
(演題名) Fiber SPME/GC-MS法による加齢臭原因皮膚分泌物の光分解解析, (発表者) ○齋藤啓太, 武部香歩, 西原彩夏, 片岡洋行 (就実大・薬)		2021年11月	第32回クロマトグラフィー科学会議
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったものの数件)			
2018年4月～	岡山市薬剤師会主催薬物乱用防止キャンペーン委員		
2018年11月, 2019年11月	岡山市立福田小学校「チャレンジワーク! お仕事体験教室」講師		
2019年6月	第26回クロマトグラフィーシンポジウム実行委員		
2019年10月	岡山市主催「薬と健康の週間イベント」(こども調剤)		
2021年1月～	Editorial Board Member of <i>Frontiers in Environmental Chemistry</i> (Frontiers)		

[注] 1 対象期限: 2017年4月—2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生体情報学	職名 講師	氏名 豊村 隆男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 WebClassを利用した予備学習の推進		2017年度～	事前学習として、シラバスを参考に授業予習を推奨するとともに、e-learningシステム上に次の授業のプレゼン資料を公開しておき、授業の進行内容を事前把握してもらう。 また、コロナ下の対応として、オンライン授業コンテンツを作成し、対面での口頭質問に相当するようなサポートが難しいと考え、繰り返し動画を閲覧できるように設定した。
授業評価の還元		2017年度～	学内の授業評価アンケートにおいて、特に記述項目について留意している。特に、授業の実施方法についての学生からの意見は積極的に取り入れている。 例えば、以前は配布する資料を、教科書の内容をまとめたものにしていて、授業で提示するプレゼンテーションベースの方がイラスト等も含まれるためわかりやすい等の意見が合ったため変更した。
2 作成した教科書、教材、参考書 医療薬学実習 実習書		2017年度～	実験手法の説明だけでなく、実習の必要性、学問的な位置についても述べたものとしている。
授業の配布資料		2017年度～	授業内のプレゼンテーションをベースとした資料を作成。書き込みがしやすいように、空白を多くしている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 オーストラリア薬学海外研修(2019)の成果報告		2021年	薬学部で実施している薬学海外研修の学習効果について、薬学面だけでなく英語の習熟状況についてアンケートを行った内容について解析を行い、就実大学薬学雑誌8号にて報告した。
薬学海外研修の成果報告 ― 語学力と異文化理解に関する主観的評価 ―		2021年8月	上記の内容について、第6回日本薬学教育学会および日本薬学会第141年会にて報告を行っている。
オーストラリア薬学海外研修の成果報告		2021年3月	
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD講演会への参加		2017年度～	大学および学部のFD研修会に必ず参加し、授業に応用できる内容について積極的に取り入れる。
相互授業参観への参加		2017年度～	学部内FDの一環として実施されている相互授業参観へ参加し、他教員の授業実施について学ぶべきところを知る。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Identification of ribosomal protein L9 as a novel regulator of proinflammatory damage-associated molecular pattern molecules.	共著	2021年	Mol. Biol. Rep. in press
終末糖化産物AGEsは、IL-17A共存下において破骨細胞の分化を亢進する。	共著	2021年	就実大学薬学雑誌 8号

グルタチオンS-トランスフェラーゼとグルタチオンとの相互作用をモデルとした示差走査蛍光定量法による分子間相互作用の解析に関する検討.	共著	2021年	就実大学薬学雑誌 8号
Involvement of multiple scavenger receptors in advanced glycation end product-induced vessel tube formation in endothelial cells.	共著	2021年	Exp. Cell Res. 408
Advanced glycation end products (AGEs) synergistically potentiated the proinflammatory action of lipopolysaccharide (LPS) and high mobility group box-1 (HMGB1) through their direct interactions.	共著	2020年	Mol. Biol. Rep. 47
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
AGE刺激によるIFN- γ 協調的な破骨細胞分化抑制効果		2021年12月	第36回創薬・薬理フォーラム岡山
グリコールアルデヒド由来AGEsによる細胞増殖機構		2021年12月	第43回日本分子生物学会年会
グリコールアルデヒド由来AGEsによる細胞増殖機構		2021年11月	第94回日本生化学会大会
終末糖化産物によるLPS-HMGB1共刺激炎症応答の相乗的活性化作用		2021年11月	第94回日本生化学会大会
薬学海外研修の成果報告 ― 語学力と異文化理解に関する主観的評価 ―		2021年8月	第6回日本薬学教育学会
低濃度AGEsによるRAW264.7細胞の増殖機構の解明		2021年7月	第35回創薬・薬理フォーラム岡山
LPS-HMGB1誘導性炎症応答の終末糖化産物による相乗的亢進作用		2021年7月	第42回日本炎症・再生医学学会
新規AGEs結合分子AGE-BP2がDAMPsの作用に与える影響の解析		2021年6月	第139回日本薬理学会近畿部会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年～現在	就実生活協同組合 理事		
2017年8月	就実大学薬学部「体験入学&研究室公開2017」		
2018年8月	就実大学オープンキャンパス、オープンラボ：細胞を観察してみよう		
2018年8月	就実大学薬学部「体験入学&研究室公開2018」		
2019年8月	就実大学オープンキャンパス、オープンラボ：細胞を観察してみよう		
2019年8月	就実大学薬学部「体験入学&研究室公開2019」		
2020年8月	就実大学オープンキャンパス、オープンラボ：細胞の「かたち」を見よう		
2020年8月	就実大学薬学部「体験入学&研究室公開2020」		

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 公衆衛生学	職名 講師	氏名 阿藤 寛明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
複数のチェックポイントを設けたオンライン教材の構成		令和元年4月～	ただでさえ眠くなる声質の講義を更にオンラインで受講すると、いくらやる気があっても途中で眠気を催す。そこでオンライン授業1コマの講義内容をいくつか分割し、90分で視聴する教材の途中に「チェックポイント」を設け、問題解答や解説を挿入し、時間内の反復学習を行える教材構成を取った。講義を組み換え、途中に操作行為を入れ、前の内容を反復する質問をおく工夫をすることで、意識を保ち講義を受け終わる事ができ、更に予習復習のポイントも得られる一石二鳥を狙った。
実践的なフィールドワークの要素を組み込んだオンライン教材の作成		令和元年4月～	生命薬学実習2では、公衆衛生の病因、環境要因と疾患の予防のために必要な知識、技術の理解を目的として実習を行う。予習教材、実習教材として有用なビデオ教材を作成するにあたり、実習書の内容に則し、フィールドワークを含む内容を反映した教材を作成した。
アウトカム評価を意識した複数評価の試行		令和2年～	期末試験のペーパーテストは理解度の測定に最も重要であるが、理解した知識のアウトプットを更に深く測定することを目的として、2017年の発表を元に課題を新たに設定した。自由度を高く設定した記述式課題等で多角的に到達度を測定し、また知識の利活用から学習成果の定着を狙った。評価軸の設定が難しく、また課題が重くなりやすいため、調整が必要である。
2 作成した教科書、教材、参考書 生命薬学実習2実習書		平成29年～	生命薬学実習の衛生パートにおける手順、注意事項、手技の詳細を解説する実習書を作成した。簡便に一覧できるようにし、実習中の活用を容易にするよう心がけた。
生命薬学実習2オンライン教材（衛生環境パート2項目・スケジュール設定）		令和元年～	手技の実践が重要な実習のオンライン化にあたり、自ら手を動かしている事を容易にイメージできるよう心がけ作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 薬学海外研修の成果報告—語学力と異文化理解に関する主観的評価— 能動的学習能力と問題解決能力の醸成を目指したTBL演習の実施とその評価 選択・記述問題による学生評価と留年・卒業延期・薬剤師国家試験合格との関係—記述問題評価の妥当性と有用性—		2021年8月 2018年3月 2017年9月	日本薬学教育学会大会 日本薬学会第138年会 第2回日本薬学教育学会大会
4 その他教育活動上特記すべき事項 第5回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ		2019年9月	「第5回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ」に参加した。教育の質保証、ディプロマポリシーの到達に向けた薬学教育のこれからについて、「求められる薬剤師像」から理想の到達点は何か、グループワークでまとめプロダクトとした。

FD研修会「第5回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ」参加報告	2019年11月	「第5回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ」の報告を行った。ディプロマポリシーを常に改善すること、パフォーマンス評価の導入について、ワークショップの内容をフィードバック、紹介した。	
薬学部FD研修会	2020年5月	オンライン講義に関わるFD研修会で、ビデオキャプチャーボードを利用したオンライン教材作成方法と作成例の紹介を行った。作成例では講義のスライド上に書き込みつつ音声と同時に取り込む例を元に、大きな苦労なく通常講義の内容を動画に落とし込む方法を紹介した。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
4-Aminopyridine 誘発けいれんに対する cloperastineの抗けいれん作用－GABAB 受容体の関与.	共著	2021	就実大学薬学雑誌. 8, 12-17.
マウスにおけるapomorphine 誘発climbing behavior およびprepulse inhibition 障害に対するvarenicline の改善効果.	共著	2021	就実大学薬学雑誌. 8, 18-26.
Google 社が提供する web サービスを利用した学生間ピア評価システムの構築	共著	2021	就実大学薬学雑誌. 8, 96-102.
GABAの血圧降下作用に対する系統的レビューおよびメタアナリシス	共著	2020	就実大学薬学雑誌. 7, 1-9.
能動的学修能力と問題解決能力の醸成のためのチーム基盤型学習（TBL）実施に向けた取り組みとその評価	共著	2020	就実大学薬学雑誌. 7, 69-75.
Change in mutation frequency at a TP53 hotspot during culture of ENU-mutagenized human lymphoblastoid cells	共著	2019	Mutagenesis. 19; 34(4), 331-340.
5-Fluorouracil exacerbates cefepime-induced convulsions in pentylenetetrazol-kindled mice.	共著	2019	Epilepsy Res. 157, 106195.
アセトアミノフェンの抗けいれん作用	共著	2019	就実大学薬学雑誌, 6, 1-7.
多段階クローン増殖モデルと乳がん：モデル推定と日本人女性の出生コホートとの比較	共著	2019	就実大学薬学雑誌, 6, 17-30.
潰瘍性大腸炎モデルにおけるデキストラン硫酸ナトリウムによる大腸特異的炎症発現機構について	共著	2019	就実大学薬学雑誌, 6, 31-36.
マウス角膜キンドリングモデルにおけるアナンダミド関連薬の抗けいれん作用	共著	2018	就実大学薬学雑誌, 5, 9-16
Anticonvulsant effects of acetaminophen in mice: Comparison with the effects of nonsteroidal anti-inflammatory drugs.	共著	2018	Epilepsy Res., 140, 22-28
TRPV1 mediates the anticonvulsant effects of acetaminophen in mice.	共著	2018	Epilepsy Res., 145, 153-159.
Environmental enrichment alleviates cognitive and behavioral impairments in EL mice.	共著	2018	Epilepsy Behav., 85, 227-233.
専門職養成授業における選択・記述問題による学習評価方法の再評価と妥当性の検討	共著	2017	就実論叢, 46, 249-262.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
薬学海外研修の成果報告―語学力と異文化理解に関する主観的評価―		2021年8月	日本薬学教育学会大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
令和4年2月	高校生対象授業「薬と毒と健康」（私立高知高校）		
平成29年11月	公演「高脂血症の予防について」健康まつり in かさおか		
平成30年8月	就実サマーキャンプ「熱中症を回避せよ！温度計が伝える危険信号」		

令和3年8月～現在	岡山県薬剤師会IT特別委員会委員
平成15年10月	高血圧関連疾患モデル学会
平成17年8月	日本薬学会会員

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 分子臨床診断学	職名 教授	氏名 山崎 勤
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 小テストおよび疑問・質問欄のレポート		2017年4月～	各回ごとにレポートを課し、そこに疑問・質問・感想欄を設け、個々人からの質問や疑問を一つずつ丁寧に返答する事を行ってフィードバックを行った。
オンラインチャットによるSGD		2020年4月～	コロナ禍でコミュニケーション実習が対面授業で行えなくなったため、チャット機能を利用したSGDを行った。対面授業と同等の授業が行えたと思われる。
2 作成した教科書、教材、参考書 生物系薬学実習Ⅰ-生化学・免疫学・RI-		2017年4月～	実習「生物系薬学実習Ⅰ」において使用するテキストを作製した。原理や実験手法などがイラストを交えてわかりやすくなるよう工夫した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 CLIL (contents and language integrated learning) promotes globalization of university education.		2018年3月	All Shujitsu International Music FestivalでCLILによるグローバル教育についての発表を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 職場体験学習		2017年5月～	市内の中学生を対象に「職場体験学習」を起こ夫っており、iPS細胞や再生医療について講義と実験を行っている。体験した学生からは非常にためになり、興味深かったとの返答をもらっている。
科学キッズフェスティバル		2020年12月	科学キッズフェスティバルにおいて、「模型を作ってコロナウイルスの正体を知ろう!」というブースを設け、新型コロナウイルスの解説すると共に、コロナウイルスの模型を作製してもらいながら新型コロナウイルスの構造や感染の仕組みを広く理解してもらう取り組みを行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所・発表雑誌(巻・号数)等の名称
Antibodies against a Plasmodium falciparum RON12 inhibit merozoite invasion into erythrocytes.	共著	2019年2月	Parasitology International, 1, 87-91
Construction of an Expression Vector Containing Mouse-Rat Chimeric Genes Encoding a Therapeutic Antibody against CD81.	共著	2019年7月	J Hard Tissue Biol3, 239-244
(特許) 神経前駆細胞に結合する抗体	共著	2020年3月	特開2021-141872
(特許) CCN1及びCCN2の発現を増加させるための皮膚適用用組成物	共著	2021年3月	特許6978015
Inhibition of the interaction between fibronectin and dermatopontin by Clostridium perfringens fibronectin-binding proteins	共著	2021年8月	Microbiol Immunol. 65, 333-341

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
関節リウマチモデルラットへの抗CD81抗体発現ベクターによる治療効果	2021年5月	第29回硬組織再生生物学会学術大会
大学発ベンチャー・Regene4T株式会社について	2021年10月	第59回岡山バイオアクティブ研究会シンポジウム
抗CD81抗体を発現するSeVdpベクターによる関節リウマチの抑制	2021年11月	第94回日本生化学会
CCN遺伝子発現促進効果を持つ新規植物由来成分の探索	2021年12月	第44回日本分子生物学会年会
ポンツクショウガ抽出液によるYAPおよびCCNの発現増加	2021年12月	第44回日本分子生物学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2017年10月	日本薬学会入会	
2018年4月	日本生化学会入会	
2019年1月	硬組織再生生物学会入会	
2021年7月	日本分子生物学会入会	

〔注〕 1 対象期限：2017年4月—2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 分子生物学	職名 講師	氏名 山田 陽一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
生命薬学実習Ⅱ		2018～2021	TBLを導入した。
微生物薬品化学		2021	小テスト、復習用課題、中間テストなどを実施した。
生物学		2017～2021	質問カードを導入することで学生が質問しやすい環境を整えた。
薬学海外研修		2017 2019	参加学生から研修に対する意見を集め、研修の改善に努めた。
健康スポーツ同好会		2020～2021	健康維持・精神的な抑圧を軽減するために軽い運動を目的とした同好会の顧問として学生指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
生命薬学実習Ⅱ実習書		2017～2021	生命薬学実習Ⅱの実習書のうち微生物分野
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
能動的学習能力と問題解決能力の醸成を目指したTBL演習の実施とその評価		2018年	TBLの学習効果について
クロスオーバー比較試験を用いたチーム基盤型学習(TBL)の学修効果に関する検討		2018年	TBLの学習効果について
オーストラリア薬学海外研修の成果報告		2021年	海外研修の学習効果について
薬学海外研修の成果報告—語学力と異文化理解に関する主観的評価—		2021年	海外研修の学習効果について
4 その他教育活動上特記すべき事項			
認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップタスクフォース		2018年度	実務実習指導薬剤師の認定を受けるためのワークショップにタスクフォースとして参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
MRSAの病原因子遺伝子保有状況調査から見出されたリスクファクターをもつMRSAの性状解析	共著	2017年6月	就実大学薬学雑誌第6巻
Synthesis of Uracil-Iodonium(III) Salts for Practical Utilization as Nucleobase Synthetic Modules	共著	2019年8月	Molecules, vol. 24
Reduction of benzalkonium chloride-resistant mutants of <i>Pseudomonas aeruginosa</i> PA01 in the absence of benzalkonium chloride	共著	2020年1月	就実大学薬学雑誌第7巻
Isolation and identification of a compound showing anti-Staphylococcal activity.	共著	2021年1月	就実大学薬学雑誌第8巻
Triflimide-Promoted Nucleophilic C-Arylation of Halopurines to Access N7-Substituted Purine Biaryls	共著	2021年6月	Chemical and Pharmaceutical Bulletin, vol. 69
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月		学会名
薬学海外研修の成果報告—語学力と異文化理解に関する主観的評価—	2021年8月		第6回日本薬学教育学会
デヒドロアビエチン酸による細菌細胞膜損傷作用の解析	2021年10月		第74回日本細菌学会中国・四国支部総会
抗菌・抗バイオフィルム形成コーティングの開発	2021年10月		第74回日本細菌学会中国・四国支部総会

エアロゾルデポジション法により製膜されたポーラスセラミック膜への薬剤担持をもちいた抗ウイルスコーティングの開発	2021年11月	2021年度東海支部学術研究発表会
ウイルスを不活性化できるコーティング技術の開発ー金属・ガラス・樹脂など表面に抗ウイルス機能を有するセラミックコーティングを形成ー	2021年12月	第6回 セラミックス ジャパン
ウイルス対策表面創成へのアプローチ	2021年12月	超異分野学会 香川フォーラム2021
抗ウイルスコーティング技術の開発	2021年12月	第26回岡山リサーチパーク研究・展示発表会
感染症対策コーティングの開発	2021年2月	KMSメディカル・アーク2022
紫外発光ダイオードによるバイオフィーム形成抑制	2021年3月	日本薬学会第142年会
ポーラスセラミック膜へ消毒剤を担持させた抗ウイルスコーティングの開発	2021年3月	日本薬学会第142年会
持続的な抗菌効果・抗バイオフィーム形成効果を示すコーティングの開発	2021年3月	日本薬学会第142年会
臨床分離されたメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の分類とバイオフィーム成分の解析	2021年3月	日本薬学会第142年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2017年度～現在	日本薬学会会員	
2017年度～現在	American Society for Microbiology会員	
2017年度～現在	日本環境感染学会会員	
2021年度	岡山市薬剤師会理事	

〔注〕 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬物療法設計学	職名 講師	氏名 河野 奨
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫	ワーク型演習を取り入れた授業	2018年4月1日～ 2020年3月31日	姫路獨協大学薬学部にて、医療薬学統合演習、調剤学、処方解析学、健康社会科学、模擬薬局実習にてKJ法、ワールドカフェ、TBLなどのグループワークの手法を取り入れた授業を実践した。
	チャットルームを使ったグループワーク	2020年6月18日	就実大学薬学部にて薬事関連法規の授業でチャットルームを使ったIRB演習を行なった。
	授業のオンデマンド配信	2020年4月1日～ 現在	就実大学薬学部にて、薬事関係法規、処方解析学II、臨床薬学総合演習、実務実習事前学習、基礎数学演習の授業の一部をオンデマンド配信した。
	授業評価	2020年4月1日～ 現在	就実大学薬学部にて、薬事関係法規、処方解析学II、臨床薬学総合演習、実務実習事前学習、基礎数学演習、リメディアルサイエンスの授業評価アンケートを実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書	授業教材	2017年4月1日～ 2020年3月31日	姫路獨協大学薬学部にて、新薬論、健康社会科学、早期臨床体験、医療薬学統合演習、調剤学、処方解析学、模擬薬局実習、薬学応用演習I・II、薬学総合演習I・II・IIIの授業資料、演習課題や実習課題の作成
	授業教材	2020年4月1日～ 現在	就実大学薬学部にて、薬事関係法規、実務実習事前学習、処方解析学II、臨床薬学総合演習、基礎数学演習、リメディアルサイエンス、基礎薬学英語の授業資料、演習問題、実習課題の作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
統合演習委員会		2021年3月～現在	就実大学薬学部にて、薬学統合演習に関する評価ルブリックの作成
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）大学教員と災害薬事に関わる薬剤師による災害時医療に関する臨床準備教育の試み	共著	2019年	薬学教育 Doi:10.24489/jjphe2019-019
（論文）ファーマシー薬局やかげにおけるポリファーマシーと患者の薬物治療に対する意識との間にある関連性の調査	共著	2021年1月	就実大学薬学雑誌
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）薬学部附属薬局を活用した模擬患者参加型のオンライン服薬指導実習		2021年9月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会
（演題名）在宅業務推進に向けた薬局内連携に関する職種別意識調査		2021年9月	日本アプライド・セラピューティクス（実践薬物治療）学会

(演題名) 慢性的高濃度グルコース暴露が及ぼす膵β細胞の生育と機能への影響	2021年10月	日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中四国支部
(演題名) 認定こども園における学校薬剤師の認知度に関する調査とその職務内容への提言	2021年11月	日本薬局学会学
(演題名) E-selectinとSialyl Lewis X模倣オクタペプチドの結合モデル構築	2022年3月	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2015年10月～2020年3月	認定実務実習指導薬剤師養成のためのWS タスクフォース in 近畿	
2021年6月～現在	岡山県薬剤師会薬局実習委員会委員	

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 公衆衛生学	職名 講師	氏名 吉川 弥里
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 小テスト		2021年4月～	「食品衛生学演習」において、授業の復習のため毎回小テストを行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 授業資料		2021年4月～	「食品衛生学演習」において、授業内容をより理解できるように書き込み型の資料を作成している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む） 学修支援委員の担当		2021年4月～	低学年の学修支援のための活動に携わっている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Anticonvulsant effects of acetaminophen in mice: Comparison with the effects of nonsteroidal anti-inflammatory drugs.	共著	2018年2月	Epilepsy Res., 140, 22-28
（論文）Tau depletion in APP transgenic mice attenuates task-related hyperactivation of the hippocampus and differentially influences locomotor activity and spatial memory.	共著	2018年3月	Front. Neurosci., 12, 124
（論文）潰瘍性大腸炎モデルにおけるデキストラン硫酸ナトリウムによる大腸特異的炎症発現機構について	共著	2019年1月	就実大学薬学雑誌, 6, 31-36
（論文）Iso- α -acids, bitter components in beer, suppress inflammatory responses and attenuate neural hyperactivation in the hippocampus.	共著	2019年2月	Front. Pharmacol., 10, 81
（論文）GABAの血圧降下作用に対する系統的レビューおよびメタアナリシス	共著	2020年1月	就実大学薬学雑誌, 7, 1-9
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Decreased expression of synapse-related proteins in prenatal folate deficiency mice in the prefrontal cortex.		2022年3月	日本薬理学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2010年5月～	日本薬理学会会員		
2014年4月～	日本神経科学学会会員		

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生体情報学	職名 講師	氏名 渡邊 政博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	確認テストの実施	2020年4月～	2020年度より担当する「薬物治療学2」において、前回講義内容についての確認テストを毎時間実施した。復習を促すため、試験内容・結果についてはWebclassから確認できるように設定した。
	講義録画の公開	2020年4月～	2020年度より担当する「薬物治療学2」は、初年度は全講義がオンライン開講となったため、指定期間内において何度でも復習できる状態であった。2021年度は、一部対面講義が再開されたが、その内容を録画し、前年度と同様にオンラインで公開した。
2 作成した教科書、教材、参考書	講義ノートを作成	2015年4月～	分担当する薬理・薬物治療系の講義において、講義ノートを作成・配布した。内容は、新薬・ガイドライン改定等に対応し、毎年見直している。
	自習用教材の作成	2021年4月～	担当する講義の授業評価アンケートにおいて、練習問題を希望する学生が散見されるため、「薬物治療学2」の講義において自習用問題集を作成し、オンラインで公開した。複数回実施することを促すため、出題はプール問題から一部をランダムに行うように設定した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）			
期末試験結果のフィードバック実施		2020年4月～	2020年度より担当する「薬物治療学2」の期末試験結果について、Webclassを利用して分野毎に理解度をクラス分けし、復習が必要な領域を個別に通知した。
	模擬試験結果の振り返り実施	2021年4月～	2020年度より運用されているSlackの質問サイトを利用して、6年生の模擬試験結果において低正答率であった問題の関連事項のまとめを公開した。また、学生からの質問内容に対して資料を作成し公開した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Watanabe M, Toyomura T, Wake H, Liu K, Teshigawara K, Takahashi H, Nishibori M, Mori S. Advanced Glycation End Products Attenuate the Function of Tumor Necrosis Factor-like Weak Inducer of Apoptosis to Regulate the Inflammatory Response.	共著	2017年10月	Mol Cell Biochem, Vol. 434, No. 1, pp. 153-162 (2017)
（論文）Watanabe M, Toyomura T, Wake H, Liu K, Teshigawara K, Takahashi H, Nishibori M, Mori S. The C-terminal region of tumor necrosis factor-like weak inducer of apoptosis is required for interaction with advanced glycation end products.	共著	2019年3月	Biotechnol Appl Biochem, Vol. 66, No. 2, pp. 254-260 (2019)

(著書) 香川県病院薬剤師会香川県TDM委員会 編 (阿部武由, 香川雅俊, 宝田繁基, 竹内敏己, 立道雅章, 三木賢人, 山口佳津騎, 山本宏, 渡邊政博) ZERO→ONE スタートアップTDM はじめての人も つまづいた人も 理論より実践! バンコマイシンからはじめよう!	共著	2019年2月	南山堂
(論文) Watanabe M, Toyomura T, Wake H, Liu K, Teshigawara K, Takahashi H, Nishibori M, Mori S. Differential contribution of possible pattern-recognition receptors to advanced glycation end product-induced cellular responses in macrophage-like RAW264.7 cells	共著	2020年3月	Biotechnol Appl Biochem, Vol. 67, No. 2, pp. 265-272 (2020)
(論文) Watanabe M, Toyomura T, Tomiyama M, Wake H, Liu K, Teshigawara K, Takahashi H, Nishibori M, Mori S. Advanced glycation end products (AGEs) synergistically potentiated the proinflammatory action of lipopolysaccharide (LPS) and high mobility group box-1 (HMGB1) through their direct interactions.	共著	2020年9月	Mol Biol Rep, Vol. 47, No. 9, pp. 7153-7159 (2020)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
新規AGEs結合分子AGE-BP2がDAMPsの作用に与える影響の解析		2021年6月	第139回日本薬理学会近畿部会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったものの数件)			
2010年1月～現在	TDM解析ソフトEasyTDMの開発・普及		
2015年12月～2019年12月	チャレンジワーク福田お仕事体験教室 (小学生対象薬剤師体験, 年1回)		
2018年8月	第1回 臨床研究支援のための研修会 講師「薬剤師による(臨床)研究の意義とその実践」(薬剤師対象講演会)		
2021年3月	香川県TDM研究会 講師「ワクチン・抗生剤・免疫-我々はどのようにして感染症とたたかうのか-」(薬剤師対象講演会)		

[注] 1 対象期限: 2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 臨床薬学	職名 講師	氏名 田坂 祐一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
(3年次) 調剤学		2020年9月～	計算演習では反転授業を導入している。また、毎回の授業でリフレクションペーパーを用いて学生の理解度を確認し、次回授業の冒頭で解説を加えることで学生の理解度を高めている。レポートは全員にコメントをつけて返却し、希望者は再提出の機会を設けることで、形成的な関与を実現している。
(4年次) 実務実習事前学習		2019年12月～	外部講師として愛媛大学医学部附属病院より医師を招聘し、OSCEおよびCBTが終了した4年次生を対象に臨床推論に関する双方向性講義を展開している(12月に2コマ連続で実施)。
(4年次) 実務実習事前学習-薬学統合演習		2019年9月～	統合演習委員(2020年度までは統合演習WG)として、統合演習の運用管理、パフォーマンス評価表の作成、使用するシナリオの作成およびブラッシュアップを中心的に行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
実務実習事前学習テキスト		2019年4月～	4年次の実務実習事前学習で使用するテキストを作成し、毎年ブラッシュアップを行っている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
災害時医療に対する薬学教育の現状と課題 -就実大学薬学部での取り組み-		2019年7月	おかやま薬学フォーラム2019で、災害シナリオを用いた災害時の病院・薬局薬剤師の役割に関するシミュレーション型SGDに関する取り組み(4年次 臨床コミュニケーション演習)について発表した。
薬学部附属薬局を活用した模擬患者参加型のオンライン服薬指導実習		2021年9月	第15回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会で、コロナ禍にビデオ会議システムを用いて模擬患者と連携して実施したオンライン服薬指導実習に関する取り組み(4年次 実務実習事前学習)について報告した。
4 その他教育活動上特記すべき事項			
薬学部FD研修会「高校1年生対象の職業ガイダンスセミナーを経験して」		2020年2月	薬学部FD研修会で、臨床経験に基づく職業ガイダンスの一例について情報提供を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 本当に必要なモニタリング・患者ケアを見逃さない ハイリスク薬チェックシート 第4版	共著	2020年9月	じほう(執筆担当: pp.156-159 「ステロイド薬」、pp.160-171 「生物学的製剤」)
(論文) Potential drug-related problems detected by routine pharmaceutical interventions: safety and economic contributions made by hospital pharmacists in Japan.	共著	2018年12月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 4:33
(論文) Effects of trazodone on motor coordination and balance alterations following thiopental-induced anesthesia in mice.	共著	2021年1月	就実大学薬学雑誌. 8, 75-80

(論文) 3種類以上の薬剤服用時の薬物間相互作用に関する後方視的検討～岡山県児島地区の保険薬局における多施設共同研究～	共著	2021年7月	YAKUGAKU ZASSHI. 141 (7), 979-984
(論文) Pharma-PROsを使用した薬局プレアボイド報告施設における安全な薬物療法の確保に対する意識変化	共著	2021年11月	日本薬剤師会雑誌. 73 (11), 1235-1240
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
薬学部附属薬局を活用した模擬患者参加型のオンライン服薬指導実習		2021年9月	第15回 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会
ALBIスコアを用いた潜在的肝硬変患者の抽出と肝代謝型薬剤適正使用への応用		2021年10月	第31回 日本医療薬学会年会
情報連携を志向した薬剤関連問題に基づく薬局プレアボイドの分類に関する検討		2021年10月	第60回 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会
フルルビプロフェン異性体の胃潰瘍形成に関する薬理学的な解析		2022年3月	日本薬学会第142年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったものの数件)			
2019年7月～現在	岡山県薬剤師会 安全管理特別委員会 委員		
2020年1月～現在	日本医薬品安全性学会 社員 (評議員)		
2020年6月～現在	岡山市学校薬剤師会 理事		
2020年7月～現在	日本病院薬剤師会 学術第6小委員会 委員 (2021年度は学術第5小委員会)		
2021年2月～現在	日本病院薬剤師会 医薬情報委員会 特別委員		

[注] 1 対象期限: 2017年4月—2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 生化学	職名 助教	氏名 川上 賀代子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 前回講義の復習と小テストの実施		2017年～	前回講義の復習と関連する内容の小テストを行い、時間内に解説を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 生命薬学実習Ⅰ 実習書		2018年～	2年後期の実習で使用するテキストを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Hepatoprotective effects of rice-derived peptides against acetaminophen-induced damage in mice	共著	2017年5月	J. Clin. Biochem. Nutr., 60, 115-120
Sake lees hydrolysate protects against acetaminophen-induced hepatotoxicity via activation of the Nrf2 antioxidant pathway.	共著	2017年11月	J. Clin. Biochem. Nutr., 61, 203-209
Isolation of activating factors of serotonin N-acetyltransferase from rice peptides.	共著	2018年1月	J. Funct. Foods, 41, 148-154
Hepatoprotective Activity of Yellow Chinese Chive against Acetaminophen-Induced Acute Liver Injury via Nrf2 Signaling Pathway.	共著	2020年8月	J. Nutr. Sci. Vitaminol., 66, 357-363
Isolation of the hemoxygenase-1 inducer from rice-derived peptide.	共著	2021年11月	J. Clin. Biochem. Nutr., in press
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
黄ニラ抽出物の細胞内グルタチオン上昇作用およびそのメカニズムの解析		2021年5月	日本酸化ストレス学会
米タンパク質加水分解物からの抗酸化酵素発現誘導ペプチドの同定		2021年11月	日本生化学会
黄ニラ抽出物のグルタチオン上昇作用におけるKeap1-Nrf2経路の関与		2021年11月	日本生化学会
黄ニラの細胞内グルタチオン上昇活性成分の同定		2022年3月	日本薬学会
米ぬか由来ペプチドはグルタチオンによるレドックス制御を介して睡眠ホルモン合成酵素を活性化する		2022年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年11月～現在		日本薬学会会員	

[注] 1 対象期限: 2017年4月—2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬効解析学	職名 教授	氏名 原(野上)愛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 講義のストリーミング配信ならびにアーカイブ化 LMSによる学生の理解度の把握と振り返りの促し		2017年4月～	薬理学Ⅰ及び薬理学演習の担当回については、対面で実施する際にもYoutubeを用いてストリーミング配信するとともに、クラウドサーバーに動画をアーカイブすることにより、授業の復習、次年度受講者の予習、欠席者の自宅での視聴に供している。コロナ禍以前よりこのシステムを確立していたことから、コロナ禍におけるオンライン授業への対応も無理なく行えた。
		2016年4月～	担当する授業において、毎回の授業後に、LMSであるWebclassの機能を用いて、学生自身にとってその授業の中で最も重要と感じたポイントを書かせ、学生の反応を確認するようにしている。学生自身にとって大切と感じたことを書かせることで、授業の振り返りを促すとともに、学生の理解度把握に役立ててている。
2 作成した教科書、教材、参考書 新しい疾患薬理学(岩崎・徳山編、南江堂) 医療薬学実習(薬理・薬剤)実習書(就実大学編)		2018年3月	「免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と治療薬」の章を担当。炎症性疾患、アレルギー疾患、自己免疫疾患、関節リウマチ、臓器特異的自己免疫疾患、骨粗鬆症、変形性関節炎の病態について解説し、それぞれに使用する治療薬について解説した。また、臓器移植に用いられる免疫抑制薬について解説を加えた。なお、本書は、出版以降毎年1回、新規医薬品についてホームページより情報提供を行っている。
		2019年4月～	本学の医療薬学実習は、薬理系と薬剤系があるため、両方の実習テーマの実習内容を各担当教員から集め、編集を行っている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)新しい疾患薬理学(岩崎・徳山編、南江堂)見尾光庸、原(野上)愛	共著	2018年3月	南江堂、東京
(論文)L-Asparaginase-induced allergy in mice: in vivo sensitization and in vitro activation of RBL-2H3 cells. Mio M, Nogami-Hara A, Yabuki K et al.	共著	2017年7月	Inflamm Res, 66, S16

(論文) Characterization of L-Asparaginase allergy and establishment of clinically oriented novel examination system in vitro. Nogami-Hara A, Shimada A, Mio M.	共著	2019年5月	アレルギーの臨床, 39, 49-52
(論文) Influence of cyclophosphamide on L-Asparaginase-induced allergy in animal model. Nogami-Hara A, Shimada A, Mio M	共著	2019年12月	Blood, 114(suppl 1), 5119
(論文) New approaches to non-invasive diagnosis and treatment strategy for drug allergies. Nogami-Hara A and Mio M	共著	2021年1月	Medical Science Digest, 47, 58-59
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
L-アスパラギナーゼアレルギーマウス脾臓細胞のサイトカイン産生に対するシクロホスファミドの影響. 森 映美加, 原(野上) 愛, 見尾 光庸 et al.		2021年11月	第60回日本薬学会中国四国支部学術大会, 松山(オンライン開催)
L-アスパラギナーゼアレルギーモデルにおける脾細胞サイトカインの変動. 茶畑 沙央里, 原(野上) 愛, 見尾 光庸 et al.		2021年11月	第60回日本薬学会中国四国支部学術大会, 松山(オンライン開催)
Risk management of L-Asparaginase-induced allergy: focusing on the influence of concomitant drugs. Ai Nogami-Hara, Akira Shimada, Mitsunobu Mio et al		2021年11月	第63回日本小児血液・がん学会学術集会, 大阪(オンライン開催)
L-アスパラギナーゼアレルギーマウス脾臓細胞のサイトカイン産生に対するシクロホスファミドの影響. 見尾光庸, 原(野上)愛, 嶋田明 et al.		2022年1月	第23回日本ヒスタミン学会, 京都
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2007年11月～現在	日本薬理学会会員、学術評議員、エデュケーター		
2008年6月～現在	日本和漢医薬学会会員		
2014年10月～現在	日本ヒスタミン学会会員		
2015年5月～現在	日本癌学会会員		
2016年6月～現在	日本小児血液・がん学会会員		
2018年12月～現在	日本アレルギー学会会員		

[注] 1 対象期限: 2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 応用分析化学	職名 助教	氏名 石崎 厚
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 講義資料及び小テストの工夫 授業評価		2017年～現在	パワーポイントを使用しているが、学生が単純に聞くだけの講義を行うのではなく、配布資料を穴埋め形式にして少しでも講義中に手を動かして話を聞いてもらうように努めている。また、小テストの解答をリアルタイムで送信してもらうシステムを利用し、誤答の多かった解答について解説を行い、学生の理解を深めるようにしている。
		2017年～現在	担当する教養科目の『健康と衛生』において、文系と理系の学生が混在して受講するため、極端に専門的な話にならないように誰でもわかりやすい内容にして、大学生活などとも関連付けた講義している。そのため、『話の内容が自分の生活と身近に感じてよくわかった。』など高い評価を得ている。
2 作成した教科書、教材、参考書 『わかりやすい機器分析学』改訂第4版片岡洋行・四宮一総編（廣川書店）（共著）		2017年	第8章の臨床分析法の画像診断の項目（30ページ）を分担執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD講演会への参加		2017年～現在	本学で毎年開催されるFD講演会に参加し、近年の教育に関する動向や学生への対応方法などを、その分野で活躍されている方の話を聴講することで自身の教育の考え方の参考にしている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Online In-Tube Solid-Phase Microextraction Coupled to Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry for the Determination of Tobacco-Specific Nitrosamines in Hair Samples.	共著	2021年	Molecules, 26(7): 2056
（著書）Online Automated Micro Sample Preparation for High-Performance Liquid Chromatography	共著	2020年	InTech
（論文）A sensitive method for the determination of tobacco-specific nitrosamines in main- and side-stream smoke samples by online in-tube solid-phase microextraction coupled with liquid chromatography-tandem mass spectrometry	共著	2019年	Anal. Chim. Acta, 1075: 98-105
（論文）A sensitive method to determine melatonin in saliva by automated online in-tube solid-phase microextraction coupled with stable isotope-dilution liquid chromatography-tandem mass spectrometry	共著	2017年	Anal. Methods, 9: 3134-3140
（著書）『わかりやすい機器分析学』改訂第4版	共著	2017年	廣川書店

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
LC-MS/MSによる食品中のルテオリン及びアピゲニンの高感度自動分析	2022年3月	日本薬学会第142年会
医薬品に混入したニトロソアミン類のインチューブSPME/LC-MS/MS法による分析	2021年9月	日本分析化学会第70年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
平成26年4月～現在	日本薬学会 正会員	
平成26年4月～現在	日本分析化学会 正会員	
平成29年10月～現在	日本薬剤師会 正会員	
平成29年10月～現在	岡山市薬剤師会薬物乱用防止推進委員会	
平成30年5月～現在	クロマトグラフィー科学会 正会員	
令和3年7月～現在	岡山市及び総社市における新型コロナワクチン集団接種 ワクチン調製業務（岡山市2回，総社市6回）	

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬物治療学	職名 助教	氏名 出石 恭久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 講義資料を配布し講義動画と共にWEB上に公開		2020年5月～	新型コロナウイルス感染症対策として、学生が自宅で通常の講義と同様に理解が深められるように努めた。授業評価でも9割以上の学生が総合的に「良い・どちらかといえば良い」と評価している。
臨床系講義科目の症例を用いた確認問題、及び課題として小テストを実施		2020年5月～	授業のポイントを講義時間中に症例を用いた問題を解かせる事で臨床との繋がりを意識させ、更に課題として小テストを実施し、次の講義で解説する事で知識が定着するように努めた。
臨床系演習科目において実技試験直後の改善点のフィードバック		2020年4月～	試験直後に評価を伝え、確認が必要な個所とその改善策を学生に示し、実技の向上に努めた。実務実習事前学習の学生評価では9割以上の学生が、知識や技術の向上、学修到達度、総合的に「良い・どちらかといえば良い」と評価している。
課題の成績不振者は個別に教育指導		2020年4月～	課題を通じて問題点とそれに対する改善策と一緒に考え、学生の思考のプロセスの構築に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 実務実習事前学習テキスト		2021年4月～	臨床現場を想定した症例を複数組み込む事で学生が実臨床に近い視点で考えられるよう努めている。
講義資料の作成		2020年5月～	処方解析学Ⅰや専門薬剤師概論等の臨床系講義科目は幅広い知識を学ぶため、視覚的情報の多い講義資料を作成し学生の理解度の向上に努めている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 薬学部附属薬局を活用した模擬患者参加型のオンライン服薬指導実習		2021年9月5日	第15回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会（神戸 Online開催）
4 その他教育活動上特記すべき事項 日本赤十字社 赤十字救急法基礎講習会修了		2020年2月14日	救命救急として蘇生法や対象者保護の方法について、医療人を育てる教育に活かすために受講。
認知症サポーター養成講座受講		2020年3月20日	薬局薬剤師の地域医療への関わり方の事例について、学生に伝達するために受講。
災害医療の研修である避難所-HUG(ハグ)ゲームを実施		2019年11月29日	災害現場における避難者及び避難所で起こる外的要因にどう対応し、医療体制を構築していくかを模擬体験を通して学習。
薬学部附属薬局における厚生労働省及び日本薬剤師会主催の「薬と健康の習慣」のイベントに参加		2019年11月22日	薬局における健康サポート機能の一つとして、地域医療における未病を考える手段として学生に伝達するために考案及び実施。
第9回GCP Advanced セミナー Live配信[JSCTR-ESN. 20-07]		2020年11月28日	臨床研究に関するGCPを中心とした規則や医療従事者の関わり方について、専門知識の維持に努めている。
GCP Basic Training セミナー オンデマンド配信[JSCTR-ESN. 20-06]		2020年11月8日	日々変化するGCPや人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等幅広い臨床研究に関する規則や研究マネジメントの実施方法についての専門知識の維持及び更新に努めている。

第27回臨床薬理学講習会	2020年12月1日	臨床現場と薬理学の橋渡し領域である臨床薬理学について専門的知識及び考察方法の習得に努めている。	
FD講習会参加	2020年4月～	学内FD講習会に積極的に参加する事により、大学における教育の質の向上と保証について理解を深めている。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) The specific localization of advanced glycation end-products (AGEs) in rat pancreatic islets.	共著	2017年8月	J Pharmacol Sci. 134:218-224.
(論文) The clinical impact of edoxaban for the patients with postoperative anemia after total hip arthroplasty.	共著	2018年10月	Eur J Orthop Surg Traumatol. 28:1349-1358.
(論文) 3D in vitro Model of Vascular Medial Thickening in Pulmonary Arterial Hypertension.	共著	2020年5月	Front Bioeng Biotechnol. 8:482.
(論文) Regimen of 5-fluorouracil and cisplatin increases the risk of extravasation in patients undergoing chemotherapy.	共著	2021年3月	IN VIVO. 35:1411-1145
(論文) Bumetanide prevents diazepam-modified anxiety-like behavior in lipopolysaccharide-treated mice.	共著	2021年5月	Eur J Pharmacol. 15:174195.
(論文) Influence of 5-HT2A receptor function on anxiety-like behavior induced by a combination treatment with doxorubicin and cyclophosphamide in rats.	共著	2021年12月	Psychopharmacology (Berl). 238:3607-3614.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2013年11月～	日本薬理学会		
2015年11月～	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師取得（認定登録第12-57914号）		
2017年12月～	日本臨床薬理学会		
2018年4月～	ACRP (Association of clinical Research Professionals)-Japan		
2019年1月～	日本臨床試験学会認定GCPパスポート取得（認定番号 GCP-01826011）		
2019年1月～	日本臨床薬理学会認定CRC取得（登録番号 第19009号）		
～2019年3月	日本病院薬剤師会		
2019年4月～	日本臨床試験学会認定モニタリング技能検定（基礎コース）（認定番号Monitor-1900011）		
2019年8月～	日本薬剤師会・岡山県薬剤師会		
2019年8月～	日本臨床試験学会		
2020年4月～	日本医療薬学会		
2021年2月～	日本薬学会		

〔注〕 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬物動態学	職名 助教	氏名 松尾 美奈子
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 導入講義の実施	2020年11月～	実習内容の理解をより深めるために、実習開始初日に導入講義を実施し、「生物薬剤学」や「薬物代謝学」などで得た知識と実習内容に関連付けてより深く理解できるように復習を交えた講義を実施している。	
演習問題の活用	2021年4月～	「基礎数学演習」及び「リメディアルサイエンス数学」の一部の講義を担当している。両科目とも小单元ごとに、講義→演習問題解答→解説を繰り返し実施している。解答後すぐに解説をすることで、弱点の明確化と解決策の提示を行っている。加えて自主学習用演習問題を公開し、各自の弱点強化に役立てる仕組みを作っている。問題の難易度は事前に示しており、学生自身がどのレベルに達しているかを実感できるように工夫している。	
2 作成した教科書、教材、参考書 医療系薬学実習Ⅱ（薬剤系）実習書の改訂	2020年6月～	実習書「Ⅰ日本薬局方製剤試験」および「Ⅱ薬物のタンパク結合率の測定とその解析」について、毎年見直しを行っている。	
講義資料・演習問題の作成	2021年4月～	担当する講義の資料を作成し、必要部分は配布している。講義内で行う演習問題とその解答解説を作成している。自主学習用の演習問題を作成しwebclassに掲載している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
オーストラリア薬学海外研修の成果報告		2021年3月	日本薬学会
薬学海外研修の成果報告—語学力と異文化理解に関する主観的評価—		2021年8月	日本薬学教育学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年1月～	日本薬学会会員		
2021年7月～10月	地方自治体主催の新型コロナウイルスワクチン接種のワクチン充填業務（13件：3～4時間/件）		

[注] 1 対象期限：2017年4月—2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 薬品物理化学	職名 助教	氏名 加藤 久登
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 学生間ピア評価システムの作成		2018年～現在	学生間のピア評価をweb上で行うことができるシステムを作成し運用した。
2 作成した教科書、教材、参考書 「基礎薬学実習実習書」作成 「フィジカルトランプ」作成		2017-2021年 2021年9月	実習科目「基礎薬学実習」で用いる実習書の作成を行った。 演習科目「サイエンスコミュニケーション」で用いる教材として2016年に開発・作成したものの改良版として新たに開発・作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 論文「Google社が提供するwebサービスを利用した学生間ピア評価システムの構築」の報告		2021年1月	作成したピア評価システムに関する報告を就実大学薬学雑誌へ行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 就実大学薬学部FD研修会講演 就実大学薬学部FD研修会講演		2018年 2019年	ピア評価システムの概要説明およびシステム利用に関する案内を行った。 ピア評価システムの運用結果を報告するとともにピア評価に対する問題提起を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Antibacterial activity of membrane-permeabilizing bactericidal cyclodextrin derivatives	共著	2021年12月	ACS Omega, 6, 31831-31842
Gramicidin S-inspired antimicrobial cyclodextrin to disrupt gram-negative and gram-positive bacterial membranes	共著	2019年7月	Med Chem Comm, 10, 1432-1437
ドッキングシミュレーションによるヒトCYP1酵素とカンナビノイドの結合部位の解析	共著	2019年1月	就実大学薬学雑誌, 6巻, 55-64
Structure-activity relationship of porphyrin-induced photoinactivation with membrane function in bacteria and erythrocytes	共著	2018年6月	Photochemical and Photobiological Sciences, 17, 954-963
Membrane-active antimicrobial poly (amino-modified alkyl) β -cyclodextrins synthesized: Via click reactions	共著	2018年2月	Med Chem Comm, 9, 509-518
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ポーラスセラミック膜へ消毒剤を担持させた抗ウイルスコーティングの開発		2022年3月	日本薬学会第142年会
デヒドロアビエチン酸による細菌細胞膜損傷作用の解析		2021年10月	第74回日本細菌学会中国・四国支部総会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）			
2021年1月～現在	日本細菌学会会員		
2020年5月～現在	日本薬学教育学会会員		
2012年6月～現在	日本分析化学会会員		
2009年1月～現在	日本薬学会会員		

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 医療薬学	職名 助教	氏名 吉井 圭佑
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 PowerPointを用いた授業 SGDを導入した授業		2020年4月～	分担担当する講義においてPowerPointで配布資料作成や説明を行うことにより、受講や復習をしやすいように行っている。
		2020年4月～	分担担当する、主に災害医療の分野において、小グループに分けて課題に取り組みさせることにより積極的かつ活発な議論を促し、学びに結びつけるように行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 授業内配布資料・プリント		2020年4月～	配布資料やプリントはなるべく復習しやすいように、講義用のPowerPointよりも内容を濃く記載するように留意している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 災害時の薬剤師に関する薬学生を対象とした意識調査		2021年7月	日本災害医療薬剤師学会第9回学術大会にて薬学生の災害医療・災害薬事の意識調査について報告を行った。
中国地方の医療系学科を有する大学における臨床栄養教育の現状		2021年8月	第13回日本臨床栄養代謝学会中国四国支部学術集会にて中国地方の医療系学科を有する大学の臨床栄養教育について報告を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 日本災害医学会 災害薬事(PhDLS)コース コース運営担当者 岡山県薬剤師会 岡山県災害薬事コーディネーター研修会(実災害想定研修) 運営スタッフ 2020年・2021年 薬局実務実習 指導薬剤師		2019年6月 2020年1月 2020～2021年	薬剤師を中心に薬学生、医師、看護師などを対象として災害薬事コースのコース運営を行った。 岡山県における薬剤師を対象とした災害薬事コーディネーター育成の為の実地研修の運営スタッフを行った。 就実大学薬学部附属薬局に配属となった薬学部5年生の薬局実務実習生に対して指導薬剤師として指導を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 薬剤師の病棟配置は医師・看護師の業務負担を軽減させるか: 医師・看護師を対象としたアンケート調査	共著	2019年	就実薬学雑誌
(論文) 中心静脈カテーテルに関する知識と経験について医療職種間での調査-薬剤師に求められていることと今後の課題-	共著	2020年	Medical Nutritionist of PEN Leaders
医療用漢方製剤について、添付文書・インタビューフォームからの情報に関する検討ならびに含有生薬からみた検討	共著	2021年2月	就実論叢
就実大学薬学部附属薬局の活動: 開局一年の振り返りと今後の課題	共著	2021年2月	就実論叢
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
災害時の薬剤師に関する薬学生を対象とした意識調査		2021年7月	日本災害医療薬剤師学会第9回学術大会
中国地方の医療系学科を有する大学における臨床栄養教育の現状		2021年8月	第13回日本臨床栄養代謝学会 中国四国支部学術集会

ALBIスコアを用いた潜在的肝硬変患者の抽出と肝代謝型薬剤適正使用への応用	2021年10月	第31回日本医療薬学会年会
就実大学薬学部附属薬局における防災への取り組み	2021年10月	おかやまバイオアクティブ研究会 第59回シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったものの数件）		
2018年7月	平成30年7月豪雨 DMAT隊派遣（川崎医科大学附属病院）	
2018年7月	平成30年7月豪雨 モバイルファーマシー派遣活動（岡田小学校）	
2019年6月	日本災害医学会 災害薬事研修（PhDLS）プロバイダーコース コース運営担当者	
2021年4月～	岡山県薬剤師会 社会保険委員会委員	
2021年11月	中国四国厚生局 新規個別指導（調剤）立合人	
2021年7月～11月	新型コロナウイルスワクチン集団・職域接種（薬剤調製）（岡山市、総社市、就実大学）	

[注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 就実大学	講座名 人体構成学	職名 助教	氏名 徳永 智典
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
「人体構成学Ⅰ」講義担当		2020年4月～	1コマ/15コマを担当している。穴埋形式の資料を作成し、これに沿って講義を行うことで円滑に進めることができている。講義内容と関連する疾患や疾病について理解できるように心がけている。また復習課題をwebclassにて提供している。
「人体構成学Ⅱ」講義担当		2020年4月～	1コマ/8コマを担当している。穴埋形式の資料を作成し、これに沿って講義を行うことで円滑に進めることができている。講義内容と関連する疾患や疾病について理解できるように心がけている。また復習課題をwebclassにて提供している。
「病態生理学Ⅰ」講義担当		2020年4月～	1コマ/15コマを担当している。穴埋形式の資料を作成し、これに沿って講義を行うことで円滑に進めることができている。人体構成学の復習、薬物治療へのつながり、実臨床への応用等、学生の興味の湧くような講義を心がけている。また復習課題をwebclassにて提供している。
「病態生理学Ⅱ」講義担当		2020年4月～	1コマ/15コマを担当している。穴埋形式の資料を作成し、これに沿って講義を行うことで円滑に進めることができている。人体構成学の復習、薬物治療へのつながり、実臨床への応用等、学生の興味の湧くような講義を心がけている。また復習課題をwebclassにて提供している。
「基礎数学演習」講義担当		2021年4月～	4コマ/15コマを担当している。穴埋形式の資料を作成し、これに沿って講義を行うことで円滑に進めることができている。
「卒業特別講義」講義担当		2020年4月～	3コマ/150コマを担当している。要点や薬剤師国家試験の過去問をまとめた資料を配布し、国家試験に対応できる知識を身につける講義を行っている。
「医療薬学実習（薬理）」講義担当		2020年4月～	事前準備、実習講義中の対応等実習期間を通して全般的なサポートを行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
講義資料の作成		令和2年4月～	図や写真を多く取り入れた学生の興味が湧くような資料を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
なし			

Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
就実大学薬学部生の人体解剖学実習で遭遇した腹部血管の変異について	共著	2017年	就実大学薬学雑誌4巻
Glomerular Hypertrophy and Hyperfiltration in Obesity-Related Diabetic (ob/ob) Mouse	共著	2017年	Analytical and Quantitative Cytopathology and Histopathology
各種動物標本の腎臓標本におけるボーマン嚢周長と糸球体面積の計測	共著	2018年	就実大学薬学雑誌5巻
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2013年4月～	日本薬学会 正会員		
2015年4月～	日本病院薬剤師会 正会員		
2019年4月～	岡山県病院薬剤師会 特別会員		
2019年4月～	日本医療薬学会 正会員		
2020年4月～	日本バイオイメージング学会 正会員		
2020年4月～	日本解剖学会 正会員		
2021年7月～	新型コロナウイルスワクチン集団接種事業（総社市）		
2021年8月～10月	大学拠点新型コロナウイルスワクチン接種（8回）		

- [注] 1 対象期限：2017年4月～2022年3月
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率(%)
1年	83	81	97.6
2年	105	92	87.6
3年	83	74	89.2
4年	54	54	100
5年	84	81	96.4
6年	115	110	95.7

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった 学生数	抗体価が不十分なためワ クチン接種をした学生数 ¹⁾
風疹	57	27
麻疹	32	47
水痘	75	8
ムンプス	54	27
B型肝炎	1	76

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数（確認できた人数）を記入してください。

確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状態

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備 考
講義室・ 演習室 ²⁾	大講義室	207～592	11	3,352	すべて固定式の机・イス
	中講義室	99～201	7	949	4室は可動機
	小講義室	72～80	4	304	2室は可動機
	演習室	18～72	4	192	可動機
	情報教室	40～102	4	252	CBTにも使用
実習室	実習室	80	4	320	基礎薬学実習、生命薬学実習、医療薬学実習で使用
	臨床薬学教育センター	—	7	—	DI室、模擬病室、TDM室、調剤室、一般製剤室、注射製剤管理室、無菌製剤室
自習室等 ³⁾	図書室・OA情報室	76	1	76	専用
	学生ホール、ラウンジ	16～240	10	1,133	無線LAN設置、3室は専用
	自習室	10～40	14	149	無線LAN設置、2室は専用
薬用植物園	※以下の概要を任意の様式で記載してください。 ① 設置場所（薬学部キャンパス内か別キャンパスか） 薬学部キャンパス内 ② 施設の構成と規模 薬用植物園、温室、管理棟 総面積は約800㎡ ③ 栽培している植物種の数 約130種 ④ その他の特記事項 担当者交代により薬用植物の基原表示の不備や栽培未整備な区域があり、今後再整備の予定である				

- [注] 1) 総合大学では薬学部で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。また、固定席が可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考に備考欄に記入してください（教卓にあるものを除く）。
- 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 1)、2)	面積 ³⁾	収容人員 ⁴⁾	室数 ⁵⁾	備考
教員個室 (研究室)	28 m ²	1 人	34	
実験室・研究室 (大)	64 m ²	8 人	18	
実験室・研究室 (小)	44 m ²	4 人	21	
共同実験室	39 m ²	8 人	10	共用
セミナー室	45 m ²	25 人	4	共用

- 1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する卒業研究は、(基礎資料11-1)と重複してかまいません。
- 2) 複数の講座・研究室が(隣接する2～3講座で共用で)占有する施設があれば、記載してください。
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 3) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 4) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 5) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 1)、2)	室数	施設の内容
大型測定機器	7	NMR機器分析室質量分析室、遺伝子解析室、組織標本システムオートインシシステム、質量分析装置、HPLC、画像解析装置、蛍光顕微鏡、分光光度計、DNAシーケンサー、PCR装置、FACS、共焦点レーザー顕微鏡、超遠心機、超純水製造装置など
実験動物施設	9	処置室、飼料室、殺菌消毒室、前室、一般飼育室(5室)
恒温低温実験室	2	恒温実験室、低温実験室

- 1) 実験動物施設、NMR室など、例示を参考に、例示を参考に、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。(面積などは不要です。)
- 2) 例示以外の実験施設(例えば、培養室など)があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B） ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B \times 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備 考 ³⁾
中央図書館 ⁴⁾	410	2,936	0.1			57	大学院（人文20、教育16、医療16） 人文920、教育564、経営360、薬学680、短大360
計	410	2,936	0.1			57	

1) 「学生収容定員数（B）」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員（B）」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ（キャンパスが異なるなど）、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルのタイ トル数 ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	国内書	外国書			2018年度	2019年度	2020年度	
中央図書館	362,400	336,600	2,902	523	8,497	412	6,059	4,746	4,854	
計	362,400	336,600	2,902	523	8,497	412	6,059	4,746	4,854	

[注] 雑誌等すでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。